ローズタウン遺跡群

富田下大日Ⅲ遺跡

ローズタウン住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2001

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背に、板東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世、近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域に800余基の存在が伝えられています。その中には大室四古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も9基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国分僧寺、上野国分尼寺、上野国府の存在が示す通り、政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏・上杉氏・武田氏・北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏・松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。まさに、前橋はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

ローズタウン住宅団地が建設されようとしている江木・富田町周辺は、赤城山南麓の自然に恵まれた地であり、周辺では縄文時代からの人々の生活の跡がのこされています。

本年度調査のローズタウン遺跡群富田下大日Ⅲ遺跡では、事業実施に先立ち、発掘調査を実施いたしました。この調査期間中、縄文時代の住居跡や奈良から平安時代の住居跡、掘立柱建物跡などが確認され、地区の歴史解明に貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたりまして、ご協力をいただきました市工業課、前工団、地元関係者、酷暑のなか調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

平成14年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長　阿部明雄

例　言

1．本報告書は、ローズタウン住宅団地造成事業に伴うローズタウン遺跡群　富田下大日Ⅰ遺跡発掘調査報告書である。

2．本遺跡は、群馬県前橋市富田町１８２４番地の１０他に所在する。

3．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

4．発掘調査担当及び調査期間は次のとおりである。

発掘・整理担当者　　平野岳志・渡邉三男・島　武臣（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）

発掘調査期間　　平成13年５月17日～平成13年11月29日

整理・報告書作成期間　　平成12年11月30日～平成13年３月20日

5．本書の原稿執筆・編集は平野・渡邉・島が行った。

6．発掘調査・整理作業にかかわった方々は、次のとおりである。（五十音順）

石井春江　神沢方子　佐藤佳子　品川成夫　下境　米治　下境弥　高畑八栄子　富岡和子　内藤　旭　内藤よし　中島利夫

萩原和子　町田奈緒子　峰岸あや子　吉田真理子

7．発掘調査で出土した遺物は、当調査団より前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。

2．挿図に建設省国土地理院発行の１／５万地形図（前橋）と１／20万地形図（前橋）を使用した。

3．本遺跡の遺跡コード名は１３Ｅ４７である。

4．各遺構及び意抗せ節の略称は、次のとおりである。

Ｊ…縄文時代の住居跡　　Ｈ…古墳・奈良・平安時代の住居跡

Ｂ…掘立柱建物遺構　　Ｄ…土坑　　Ｐ…柱穴・貯蔵穴（住居内Ｐ₈を貯蔵穴とした。）

5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。

遺構　住居址・掘立柱建物遺構・土坑…１／６０、全体図…１／２５０、１／５００

炉・竈断面図…１／３０、

遺物　土師…　石器…　鉄器・鉄製品…

6．スクリーントーンの仕様は次のとおりである。

遺構平面図　　鍋土…

遺構断面図　　構築面…

遺物実測図　　繊維の入った縄文土器断面…、　遺物についた粘土…、　煤した部分…、

内黒部分…、　遺物についた漆…、　須恵器断面…、　灰釉部分…、

石器使用…

7．遺物分布図のシンボルの使用は次のとおりである。

●…土器、○…須恵器、△…灰釉陶器、▲…鉄器・鉄製品、□…石器・石製品

なお、接合状態は実線で結んだ。

8．火山降下物の略称と年代は次のとおりである。

As－B　（Bテフラ：供給火山・浅間山、1108年）

Hr－FP（ＦＰ軽石：供給火山・榛名山、６世紀中葉）

As－C　（C軽石：供給火山・浅間山、４世紀中葉）

As－YP（浅間板鼻黄色テフラ：供給火山・浅間山、約13,000～14,000年前）

As－BP（浅間板鼻褐色テフラ群：供給火山・浅間山、17,000～21,000年前）

目　次

序

I　調査に至る経緯……2

II　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地……3

2　歴史的環境……5

III　調査の経過

1　調査方針……7

2　調査経過……8

IV　層序……12

V　遺構と遺物

1　住居跡……13

2　掘立柱建物遺構……14

3　土坑……15

VI　成果と課題

1　遺構の検出状況について……22

2　H－3号住居跡について……24

3　遺跡地集落の変遷について……27

図版

巻頭図版　1　富田下大日Ⅲ遺跡出土土器群

巻頭図版　2　H－8号住居跡出土の銭貨
「富壽神寶」

PL. 1　A区全景・A区J－4号住居跡
2　A区J－1・2・3号住居跡・B区H－1・2・3号住居跡
3　B区H－3・4・6号住居跡
4　B区H－7・8・9・10号住居跡
5　B区H－10・11号住居跡・T－1号竪穴状遺構・A区B－1号掘立柱建物遺構
6　B区M－1号古墳・B－3・4・5・6号掘立柱建物遺構
7　B区B－7・8・9・10・11・12・13号掘立柱建物遺構・B区旧石器テストピット

PL. 8　B区J－5・H－1・2・3号住居跡出土の土器
9　B区H－3・4・6・8号住居跡出土の土器
10　B区H－7・8・9・10・11号住居跡出土の土器
11　B区H－1・3・7・10号住居跡・T－1号竪穴状遺構・I－1号井戸跡・A区出土の土器、石器・石製品
12　縄文土器
13　縄文土器・石器・石製品・土製品・鉄製品

挿　図

頁

Fig. 1　ローズタウン遺跡群の位置……1
2　ローズタウン遺跡群周辺図……3
3　平成13年度調査経過図……6
4　ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅲ遺跡A区全体図……8
5　ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅲ遺跡B区全体図……9
6　ローズタウン遺跡群富田下大日遺跡標準土層図……11
7　A区J－1号住居跡……30
8　A区J－2号住居跡……31
9　A区J－3号住居跡……32
10　A区J－4号住居跡……33
11　B区J－5号住居跡……34
12　B区H－1号住居跡……35
13　B区H－2号住居跡……36
14　B区H－3号住居跡……37
15　B区H－3号住居跡……38
16　B区H－4号住居跡……39

頁

Fig. 17　B区H－6号住居跡……40
18　B区H－7号住居跡……41
19　B区H－8号住居跡……42
20　B区H－9号住居跡……43
21　B区H－10号住居跡……44
22　B区H－11号住居跡……45
23　B区T－1号竪穴状遺構・I－1号井戸跡……46
24　B区B－3号掘立柱建物遺構……47
25　A区B－1号掘立柱建物遺構……48・49
26　B区B－4・10号掘立柱建物遺構……50・51
27　B区B－5号掘立柱建物遺構……52
28　B区B－6号掘立柱建物遺構……53
29　B区B－7号掘立柱建物遺構……54
30　B区B－8号掘立柱建物遺構……55
31　B区B－9号掘立柱建物遺構……56
32　B区B－11号掘立柱建物遺構……57
33　B区B－12号掘立柱建物遺構……58

Fig. 34 B区B－13号掘立柱建物遺構……59
35 土坑……60
36 B区M－1号古墳……61
37 H－1・2号住居跡出土の土器……62
38 H－3号住居跡出土の土器……63
39 H－3号住居跡出土の土器……64
40 H－3・4・6・7号住居跡出土の土器……65
41 H－7・8・9号住居跡出土の土器…66
42 H－9・10号住居跡出土の土器……67
43 H－10・11号住居跡、B－4・12号掘立柱建物遺構、T－1竪穴状遺構、I－1号井戸跡、D－26・66・78号土坑出土の土器……68
Fig. 44 J－1・3・4・5号住居跡出土の土器……69
45 縄文土器……70
46 縄文土器……71
47 縄文土器・土製品・玉類・鉄製品……72
48 石器・石製品……73
49 石器……74
50 石器……75
51 石器・石製品……76

表

頁
Tab. 1 竪穴住居跡一覧表……12
2 竪穴状遺構一覧表……13
3 掘立柱建物遺構一覧表……13
4 土坑一覧表……14
5 柱穴一覧表……15
6 県内皇朝十二銭遺構別出土一覧表……18
頁
Tab. 7 県内皇朝十二銭銭貨別出土一覧表……19
8 遺物観察表……22
9 縄文土器観察表……24
10 石製品・鉄製品・特殊遺物観察表……27
11 報告書抄録……91

Fig. 1　ローズタウン遺跡群の位置

I　調査に至る経緯

平成11年10月25日、前橋工業団地造成組合（前橋市商工部工業課、以下前工団）から同市教育委員会文化財保護課へ住宅団地造成事業に伴う埋蔵文化財確認調査の依頼が打診された。これを受け、同年10月28・29日、同文化財保護課で試掘調査を実施した。この部分は住宅団地の調整池部分であったが、遺構は確認できなかった。しかし平成12年４月17日、前工団より住宅団地造成予定地の部分について、文化財保護課に埋蔵文化財発掘調査の依頼がなされた。そこで同年４月18日に前工団と文化財保護課間で発掘調査についての協議を経て、５月18日、前工団管理者　萩原弥惣治と前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団の団長　阿部　明雄との間で、埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結の運びとなり、５月24日から現地での発掘調査を開始するに至った。調査依頼面積が45haと広大であり、さらに調査を依頼されている箇所が住宅団地造成により掘削されてしまう高台と、新たに住宅団地内に造成される道路予定地部分に限られていたため、調査は遺構分布状態を確認するための試掘調査から取りかからねばならなかった。そのため、７月中旬までトレンチ掘削による試掘調査を行った。この結果、昭和30～40年代に実施された土地改良のため、調査対象区域の大部分で攪乱が認められた。このため調査面積に比して検出遺構並びに検出遺物は少量であった。しかし、調査対象区域南側の中央から西側にかけての区域には、比較的遺構が残存していることが判明した。

こうした試掘調査の結果に基づき、平成12年度分の調査は前橋市富田町1791番地６付近の遺構が集中して検出された部分（ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅰ遺跡）に限定して、７月17日より本調査を開始した。この区域以外の場所から検出された遺構については、平成12年度に民間の調査会社に委託して調査する区域（ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅱ遺跡）・平成13年度に直営で調査する区域・平成13年度に民間の調査会社に委託して調査をする区域の三区域に分けて、２年間かけて遺跡群全体を発掘調査することとなった。

平成13年度富田下大日Ⅲ遺跡発掘調査では、富田下大日Ⅰ遺跡の西側をＡ区（前橋市富田町1816番地１）、南から南西側をＢ区（前橋市富田町1824番地10他）と称した。調査面積はＡ・Ｂ区を合わせて約8930㎡である。なお、民間の調査会社に委託して調査した江木町部分については、『ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅳ遺跡』に記録されている。

II　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

本遺跡群は、前橋市街地から東方に６ｋｍほど離れた前橋市江木町・富田町に跨って所在する。地番は前橋市富田町1791番地ほかである。ここは標高約114m、赤城山南麓傾斜地南端部の台地上である。この台地は中央部に幅約300mほどで、南北に走る谷地を挟んで南東方向に長く延びている。現在では、台地を囲むように住宅が建ち並び、西側は荳野団地、北東部は大胡町に接する。谷地の水田面と台地面との高低差は約７m、遺跡群の西側、荳野団地との高低差は約９mである。また、遺跡地の北側には前橋大間々桐生線、南側には前橋赤堀線といった主要幹線道が走っている。

1．小神明遺跡　2．芳賀東部工業団地遺跡　3．萱野遺跡　4．北原遺跡
5．諏訪遺跡　6．諏訪西遺跡　7．荒砥諏訪西遺跡
8．富田古墳群　9．鶴が谷遺跡　10．荒砥大日塚遺跡　11．荒砥上ノ坊遺跡
12．荒砥島原遺跡　13．熊台遺跡　14．西大室丸山遺跡

Fig. 2　ローズタウン遺跡群周辺図

赤城山南麓には関東ローム層を基盤とする洪積台地が発達し、山頂部の小沼から流れ出す粕川をはじめとする荒砥川・白川等が放射線状に流れ出している。これらの川の間を中小の河川が枝状に流下している。こうした大小の河川が沖積地を形成し、水田として開けている。さらに、火山性泥流丘（流山）が数カ所確認されており、起伏に富んだ地形を示している。赤城山南麓傾斜地は、標高約500mの宮城村三夜沢付近に変換点があり、そこから下では緩傾斜となる。そのまま緩傾斜は10kmほど下り、本遺跡地の南側約１km付近で沖積傾斜地に接合する。この接合部の標高はおよそ80mである。

こうした赤城山南麓の地形は原始から古代にかけての集落形成に適していたようで、ここは県内でも遺跡が集中している地域である。大小の河川によって複雑に絡み合って形成された谷地では、古くから多くの水田が開拓されている。標高の高い場所でも谷底部は水田となっている場合が多い。遺跡の分布は、標高350～400m辺りを北限として山麓を環状に取り巻いている。本遺跡群周辺地域でも、長年にわたり土地改良に伴う発掘調査が行われ、数多くの遺跡が発見されている。特に荒砥川西から本遺跡地までの台地上では、昭和50年代に県営荒砥北部地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査がなされ、数多くの調査報告がなされている。

2　歴史的環境

本遺跡群と幅約200mの谷地を挟んで西側に隣接している萱野団地では、昭和60・61年度にかけて発掘調査が行われた。横穴式石室をもつ古墳や５万㎡の団地造成面積全面にわたる集落跡が確認された。遺構は、縄文時代から古墳・奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡30軒以上が数えられた。また、遺跡群の東方約６kmには、大室古墳群と古墳時代から平安時代にかけての集落跡を中心に調査された内堀遺跡群がある。ここでは、28,000年前の旧石器も検出されている。

縄文時代の遺跡は、標高550mより低い地域、国道535線付近に濃く分布している。本遺跡群では平成12年度の試掘調査の段階から、トレンチ内で縄文時代中期の加曽利Ｅ式土器を確認している。本遺跡群の北東約３kmの大胡町上大屋南部遺跡群にある西小路遺跡や上ノ山遺跡や諏訪東遺跡群からも加曽利Ｅ式土器と竪穴住居跡の調査報告がなされている。また、昨年度・本年度の調査では、縄文時代前期の土器片を多数収納した。

本遺跡群の北西約５kmには、芳賀東部団地遺跡群がある。ここでは、昭和48年から８年間発掘調査が行われ、縄文時代から中近世までの住居跡が数百軒検出されている。芳賀地区からは縄文時代草創期・早期の土器が出土しており、嶺町、鳥取町、勝沢町等の調査では、竪穴式住居跡が検出されている。また、荒砥川西岸の荒砥北原遺跡・荒砥宮田遺跡でも、縄文時代前期から中期にかけての竪穴住居や土坑を検出している。

本遺跡群周辺の弥生時代の遺跡は少ない。芳賀地区では、小神明Ⅳ遺跡から１軒、小神明Ⅱ遺跡から弥生時代中期から後期にかけての住居跡が２軒検出された。しかし、このうち１軒は焼失住居であることがわかっている。荒砥川周辺でも、東岸の荒口前原遺跡で弥生時代中期の住居跡から竜見式土器が出土した調査例や、荒砥大日塚遺跡・荒砥島原遺跡・鶴が谷遺跡・諏訪遺跡・内堀遺跡群・荒砥上ノ坊遺跡などに数件の調査例があるが、住居の軒数自体は少ないものである。隣接する大胡町金丸遺跡に弥生時代中期の岩櫃山式の壺や甕が出土した調査報告がある。この時期の多くの遺跡では、人々が谷地地形の地域を中心に集落を形成するというより、試行的に進出する傾向があるように見受けられる。

古墳時代では、赤地山南麓一体には多くの遺跡が所在する。前橋市広瀬町の八幡山古墳や天神山古墳に代

表されるように、大型墳がつくられる。それに続いて今井神社古墳、大窪古墳群など有力墳がつくられる。また、市内各地に後期古墳群が形成される。芳賀東部団地遺跡群においては、古墳時代から奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡374軒、掘立柱建物遺構206棟にも及ぶ集落遺跡が調査されている。ここに隣接する芳賀西部団地遺跡においても、古墳時代の古墳が30基、芳賀北部団地遺跡では竪穴住居跡227軒、掘立柱建物跡8棟、製鉄跡3基を検出している。荒砥川流域では、石田川式土器を共伴する遺跡の数が多く、古墳時代前期の開発が早くから行われた。その後も古墳時代の集落がいくつも形成され、継続的に存続していたと考えられている。荒砥川東岸の北原遺跡では、古墳時代の竪穴住居跡が73軒、円形周溝墓2基が調査されている。荒砥川の自然堤防上に位置する諏訪西遺跡からは古墳時代前・中・後期の竪穴式住居跡11軒、古墳2基（うち一つは竪穴式石室）が調査された。荒砥諏訪西遺跡からは古墳時代前期の竪穴住居跡49軒、古墳時代後期の竪穴住居跡10軒が、いずれも荒砥川左岸の丘陵地帯に集中している。荒砥川東側の前橋市域だけでも古墳時代中期の集落遺跡は20遺跡以上、古墳時代後期の遺跡では36遺跡も確認されている。荒砥川左岸地域（泉沢町・荒口町・今井町・荒子町・西大室町）には、この時期に数多くの古墳も造られている。当時これらの集落の数が古墳の数多い分布にそのまま反映されているようである。荒砥川とその東側の赤堀町を南流する粕川流域は、県内ではもっとも古墳の分布が集中している地域である。『上毛古墳綜覧』にも旧荒砥村には365基、赤堀町には333基の古墳があったと記述されている。

本遺跡周辺部にも古墳群が多数存在する。代表的なものとしては、前橋市の大室古墳群・富田古墳群・荒子古墳群、赤堀町の多田山古墳群、伊勢崎市の波志江古墳群等、枚挙にいとまがない。荒砥川東岸丘陵部の舞台西遺跡では古墳が4基、西大室丸山遺跡では古墳を3基調査している。この古墳は、県内に6世紀代に導入されたとされている横穴式石室をもつことや副葬品の検相から、6世紀後半から7世紀前半の築造とされている。本遺跡地北西の前橋市五代町では、7世紀前半の副葬品をもつ五大大日塚古墳、南西約3km離れた堀之下町には6世紀前半の横穴式石室をもつ正円寺古墳がある。

幾つかの巨石が並べられ、それを信仰の対象としたと考えられる祭祀跡も確認されている。西大室丸山遺跡以外で確認されている巨石を信仰の対象とした祭祀跡は、粕川村の七ツ石遺跡や宮城村の種石遺跡があげられる。この遺跡では、有孔円盤・臼玉などの石製模造品、手捏土器などが検出され、祭祀との関わりがあったとみられている。

前橋市泉沢町にある丸山遺跡やそのすぐ南に位置する荒砥荒子遺跡からは掘列をめぐらす環濠居館が確認されている。

奈良・平安時代の遺構は、本遺跡地の東側に位置する富田遺跡群から57軒の竪穴住居跡が確認されている。また、芳賀東部団地遺跡からは、竪穴住居跡374軒、掘立柱建物遺構206軒と数多く確認されている。芳賀北部団地遺跡からは、竪穴住居跡227軒、製鉄跡3カ所が確認された。こうした遺跡の広がりから、古墳時代から継続的に形成された生活圏は平安時代に入っても途絶えることがなかったようである。上泉・五代町にある檜峯遺跡からは奈良三彩小壺が見つかっている。当時、貴重であった奈良三彩小壺がこの赤城南麓から出土したことは、この地域の文化的水準が高かったことを示しているといえよう。

Ⅲ　調査の経過

1　調査方針

調査に先駆け調査範囲全体をカバーする４mグリッドを設定し、これを最小単位とした。グリッドは西から東へＸ１，Ｘ２，Ｘ３…、北から南へＹ１，Ｙ２，Ｙ３…と付番し、グリッドの呼称は北西交点の名称を使用した。

ローズタウン遺跡群　富田下大日Ⅲ遺跡のＸ120－Ｙ120の公共座標は、

第Ⅸ系	43620．000（Ｘ）		－61820.000（Ｙ）
緯度	36° 23′ 28″．3126	経度	139° 08′ 38″．8533
子午線収差角	24′ 32″．1	増大率	0．999947

調査方法については、表土掘削・遺構確認・杭打設・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行うこととした。

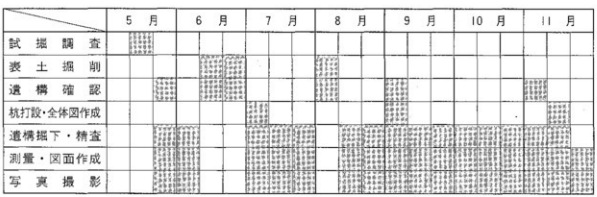
図面作成は、平板簡易遣り方測量を用い、住居跡・掘立柱建物遺構等の遺構は１／20、住居跡竈は１／10の縮尺で作成した。遺構の遺物については、平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。また、プラン確認の段階で１／400の現況図を作成し、その後の調査に活用した。

2　調査経過

発掘調査は、平成13年４月より現地調査、発掘事務手続き、前橋工業団地造成組合との事前協議などを十分に行った。５月７日、前橋工業団地造成組合との間で発掘調査委託契約を締結した。

本調査開始に先立って、前年度、耕作のため掘削できなかった区域について試掘調査を行い遺構の分布状況を確認した。遺構を確認できた江木町の区域は17,000㎡あまりと広大であり本年度中の調査完了が困難であることから、民間発掘調査会社に委託することとなった。試掘調査は５月21日に完了し、25日に発掘用機材を搬入して現場事務所を開設した。

今年度の調査は、前橋市富田町1816－１と富田町1824-10との２カ所に調査区が分かれた。どちらも団地造成の際に切り崩すことになる高台部分である。調査工程を考慮して、Ａ区→Ｂ区へと調査を進めることとした。



Fig．3　平成13年度調査経過図

Fig. 4　ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅲ遺跡　A区全体図

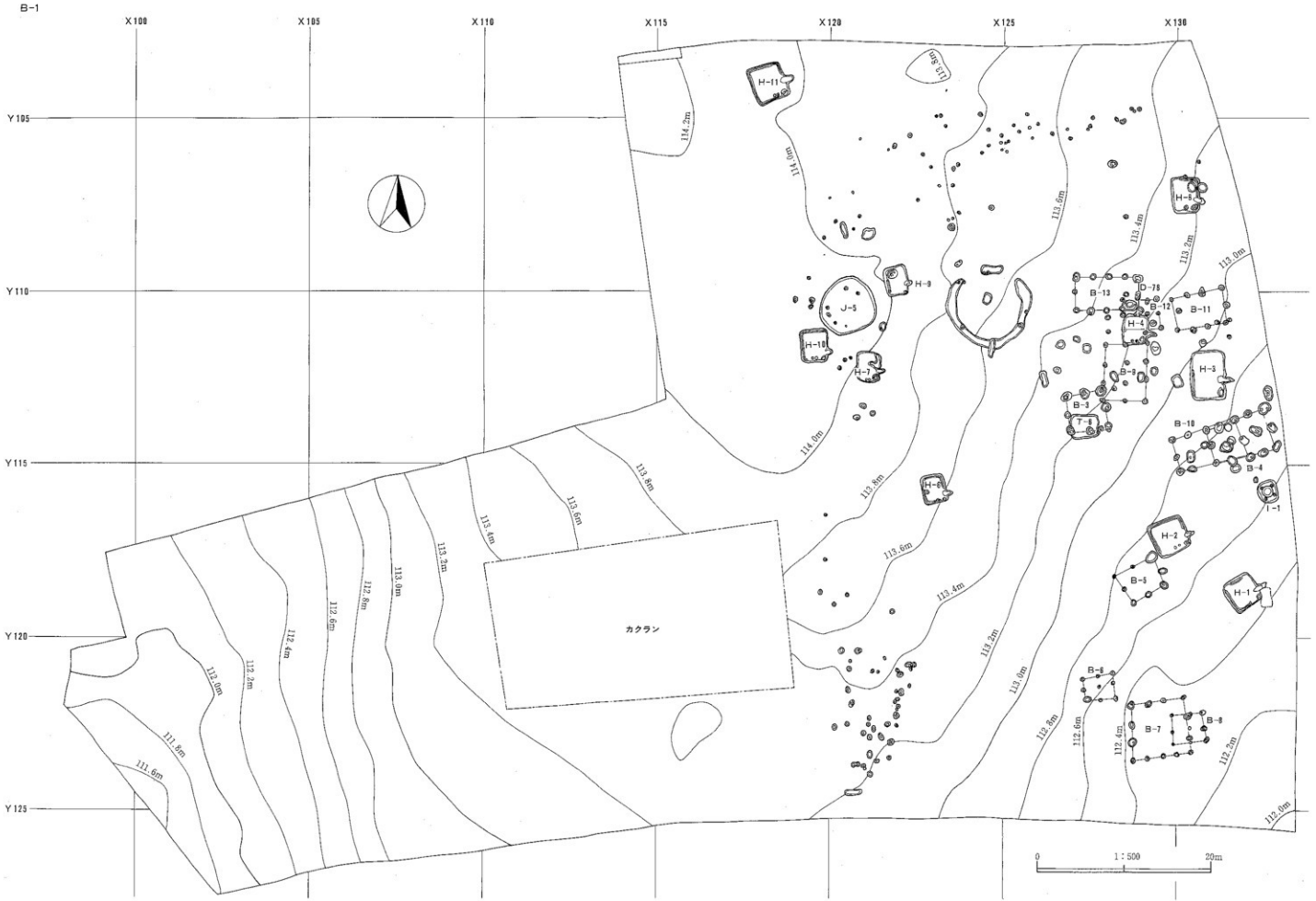


Fig. 5　ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅲ遺跡　B区全体図

A区は、5月28日より遺構の確認作業から着手した。ここは前年度に表土の除去を済ませていた部分である。遺構の掘り下げ・測量・写真記録は、6月10日に完了した。調査の結果、A区からは住居跡4軒、掘立柱建物遺構1棟、土坑24基が検出された。遺構の精査・記録終了後、現場事務所内にて、遺物の洗浄・注記の作業を行った。

B区は表土を除去する面積が8135㎡と広かったので発掘作業の進捗を考え、南側と北側とに分けて表土を除去した。表土が無くなると、遺構の劣化が進むためである。6月18日より掘削用重機（バックフォー0.7立米）を用いて、まずB区南側の表土除去から始めた。6月の梅雨時であったが比較的天候に恵まれ、表土除去と遺構確認作業は並行して進められた。南側の中央部には、土地改良によると思われる攪乱部分があった。この部分は堀方まで削平をうけていたので、調査を諦めざるを得なかった。7月2日から調査区の測量及び方眼杭打ちを行いながら、B区南側表土除去は7月6日に終了した。

調査工程の都合上、B区南側の調査と同時進行で8月6日よりB区北側の表土除去及び遺構の確認作業を始めた。この表土除去は10日まで続けられた。B区南側の精査が一応の区切りを見せた8月21日より、B区北側の精査を開始した。その後、9月2日より土地の削平により残存状況の悪い縄文住居跡の確認を行った。12本のトレンチ調査を行ったが、ほとんどの住居跡が削平されており、J－5号住居跡だけの確認に終わった。B区からは、住居跡11軒、竪穴状遺構1軒、掘立柱建物遺構11棟、土坑76基、柱穴73基、古墳1基を検出した。

9月2日にB区北側の測量及び方眼杭打ちを行い、本遺跡の遺構を測量する基準点を全てそろえた。その後、遺構の測量を中心に精査を実施した。約2ヶ月の期間を要して精査が終了した後、10月29日より旧石器文化層確認のための試掘調査を開始した。B区の西斜面にグリッド毎に6箇所のテストピットを設定し手掘りで確認作業を行った。浅間板鼻褐色テフラ群混入層まで掘下げて確認したが、旧石器検出には至らなかった。この作業は11月13日に終了した。11月19日に調査区全体図の測量を行った後、28日に調査区全体の空中写真撮影を行い、発掘調査の全工程が終了した。

11月29日、現場事務所より機材・出土品を撤出して文化財保護課内に整理作業事務所を開設した。翌30日より平成14年3月22日まで、記録・遺物の整理作業と報告書の作成を行った。

Ⅳ 層　序

遺跡地内X114・Y103グリッドの土層を基にして、本遺跡の標準土層を作成した。本遺跡は、ローズタウン遺跡群の南東部に位置する標高111m～117mのなだらかな微高地である。土層の堆積状況は、次ページの「Fig. 6　富田下大日Ⅲ遺跡標準土層図」に示した通りである。

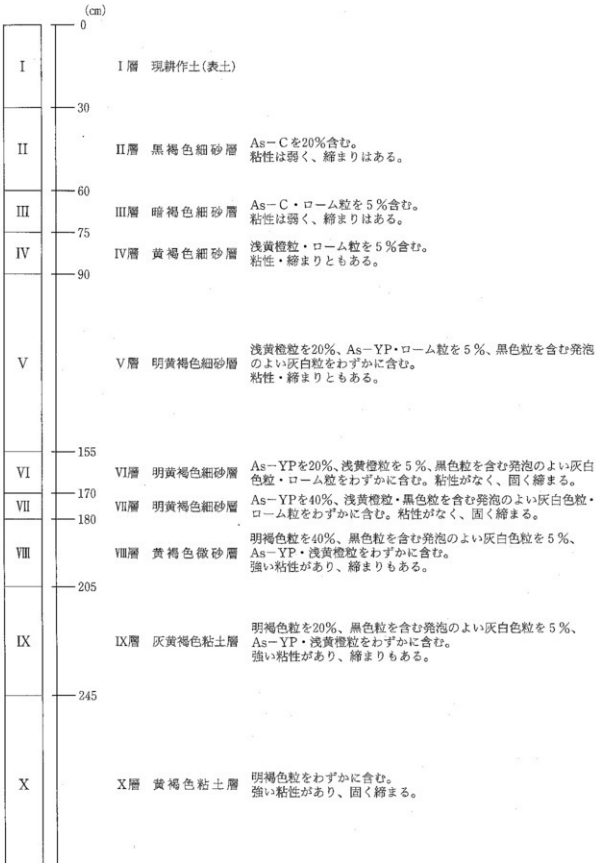


Fig. 6 富田下大日III遺跡標準土層図

V　遺構と遺物

1　住居跡

縄文時代住居跡5軒、奈良・平安時代住居跡10軒検出。Tab. 1を参照。

Tab. 1　竪穴住居跡一覧表

遺構名	位置	主軸方向	規模 長軸×短軸(m) 壁高(cm) 面積(m²)	壁下周溝	竈		貯蔵穴	主な遺物	推定時期
					位置	焚口			
J－1	X109・Y100	N－80°－E	4.0×3.4 16 14.8	－	－	－	－	深鉢・打製石斧	縄文時代前期
J－2	X111・Y101	N－79°－E	3.1×2.7 10 8.4	－	－	－	－	石匙・打製石斧	縄文時代前期
J－3	X110・Y102	N－59°－W	3.4×3.3 12 11.2	－	－	－	－	深鉢・石錘・削器	縄文時代前期
J－4	X104・Y102	N－18°－W	4.3×4.1 6 17.6	－	－	－	－	深鉢・打製石斧	縄文時代前期
J－5	X120・Y110	N－8°－E	6.8×6.3 20 33.2	－	－	－	－	深鉢	縄文時代中期
H－1	X132・Y118	N－50°－E	3.8×3.7 54 13.9	北壁の一部と西壁から南壁柱穴まで	東壁南寄り	65cm	東南隅	土師坏・甕	9世紀中頃
H－2	X130・Y117	N－62°－E	4.1×3.8 34 16.6	北壁から西壁まで	東壁南寄り	45cm	東南隅	土師坏・高台椀・須恵坏・大甕	10世紀前半
H－3	X131・Y112	N－90°－E	5.6×4.1 49 22.0	西壁	東壁南寄り	55cm	東南隅	土師坏・台付甕・須恵坏	9世紀前半
H－4	X129・Y111	N－86°－W	3.4×3.0 48 10.5	－	東壁南寄り	55cm	東南隅	土師甕・高台椀・須恵坏・高台椀	9世紀前半
H－6	X123・Y115	N－78°－E	3.3×2.8 31 9.4	竈・貯蔵穴を除き全周	東壁南寄り	55cm	東南隅	土師坏・須恵坏・高台椀	10世紀後半
H－7	X121・Y112	N－90°－E	3.4×2.8 28 9.1	－	東壁南寄り	40cm	東南隅	土師坏・甕・高台椀	9世紀前半
H－8	X130・Y107	N－90°－E	4.3×3.3 34 13.0	竈北から北壁まで	東壁南寄り	45cm	東南隅	土師甕・高台椀・須恵坏・高台椀	10世紀後半
H－9	X122・Y109	N－76°－E	3.3×2.5 32 8.6	西壁	東壁南寄り	55cm	東南隅	土師甕・須恵坏	10世紀後半
H－10	X119・Y111	N－89°－E	3.8×3.0 44 11.6	北壁から西壁まで	東壁南寄り	45cm	東南隅	土師坏・甕・須恵坏・甕・壺	9世紀前半
H－11	X118・Y103	N－64°－E	4.6×4.2 46 17.8	竈・貯蔵穴を除き全周	東壁南寄り	50cm	東南隅	土師坏・須恵坏・甕	9世紀前半

＊壁高は、遺構確認面から床面までの高さ(cm)

2　竪穴状遺構

竪穴状遺構1軒検出。Tab. 2 を参照。

Tab. 2　竪穴状遺構一覧

遺構名	位　置	主軸方向	規　模 長軸×短軸(m) 壁　高　(cm) 面　積　(㎡)	壁下周溝	竈		貯蔵穴	主な遺物	推定時期
					位　置	焚　口			
T－1	X127・Y113G	N－90°－E	3.3×2.9 25 8.3	－	－	－	－	－	不　明

＊壁高は、遺構確認面から床面までの高さ(cm)

3　掘立柱建物遺構

奈良・平安時代の掘立柱建物跡12棟検出。Tab. 3 を参照。

Tab. 3　掘立柱建物遺構一覧

遺構名	位　置	主軸方向	規　模 長軸×短軸(m) 面　積(㎡)	掘立(階)	柱　穴 長径×短径×確認面からの深さ(cm)	遺物	重複関係	備　考
B－1	X10・Y97G	N－52°－W	7.1×6.9 49.0	2	P_1：18×14×40　P_2：46×32×26　P_3：24×20×28　P_4：32×24×24 P_5：26×16×24　P_6：38×28×18　P_7：28×24×22　P_8：28×22×30 P_9：26×24×60　P_{10}：38×30×34　P_{11}：32×28×32　P_{12}：52×24×32 P_{13}：34×22×40　P_{14}：44×26×52　P_{15}：30×30×12	なし	－	四間並外廂 (4間×4間)
	X105・Y98G	N－52°－W	3.8×3.7 14.1	2	P_{16}：26×26×34　P_{17}：24×20×26　P_{18}：30×22×18　P_{19}：38×22×16 P_{20}：26×26×34　P_{21}：50×32×24	なし	－	四間並内廂 (2間×2間)
B－3	X127・Y113	N－11°－W	4.5×4.4 19.8	3	P_1：128×94×45　P_2：68×62×48　P_3：100×64×38　P_4：98×78×38 P_5：108×64×62　P_6：170×126×60　P_7：132×100×60　P_8：111×94×42	なし	T－1より後便。	側柱建物 (2間×2間)
B－4	X132・Y114G	N－70°－E	7.6×4.7 35.3	5	P_1：110×88×60　P_2：172×110×50　P_3：130×82×50　P_4：122×82×60 P_5：108×94×62　P_6：170×126×60　P_7：130×94×50　P_8：148×104×54 P_9：159×138×66　P_{10}：76×116×70　P_{11}：160×146×54	なし	B－10より後便。	側柱建物 (2間×4間)
B－5	X129・Y118G	N－65°－E	4.9×3.8 18.6	3	P_1：42×42×38　P_2：50×48×26　P_3：72×52×36　P_4：70×68×42 P_5：88×74×36　P_6：92×62×44　P_7：138×102×36　P_8：52×33×38	なし	－	側柱建物 (2間×2間)
B－6	X127・Y121G	N－76°－E	3.2×2.6 8.3	3	P_1：90×68×38　P_2：38×32×38　P_3：66×50×26　P_4：44×42×40 P_5：48×46×66　P_6：38×38×24　P_7：44×38×38　P_8：49×38×36 P_9：28×28×26	なし	－	総柱建物 (2間×2間)
B－7	X129・Y122G	N－87°－E	6.9×6.0 45.5	5	P_1：58×48×56　P_2：52×48×26　P_3：58×50×26　P_4：52×44×36 P_5：46×42×24　P_6：64×50×38　P_7：66×64×32　P_8：60×40×38 P_9：52×44×50　P_{10}：80×58×38　P_{11}：85×68×36　P_{12}：82×60×66 P_{13}：82×86×32	なし	－	側柱建物 (2間×3間) ※南側は4間(柱穴5本)
B－8	X130・Y123G	N－84°－E	3.9×3.4 13.3	3	P_1：32×28×34　P_2：30×28×28　P_3：30×26×32　P_4：34×28×34 P_5：68×42×28　P_6：76×46×44　P_7：76×56×36　P_8：50×38×16 P_9：40×32×28	なし	－	総柱建物 (2間×2間)
B－9	X128・Y113G	N－5°－W	6.5×4.9 31.9	4	P_1：52×42×50　P_2：46×44×42　P_3：44×44×68　P_4：66×42×50 P_5：40×40×42　P_6：52×50×64　P_7：52×46×46　P_8：52×50×48 P_9：52×52×62　P_{10}：50×40×36　P_{11}：44×44×44　P_{12}：46×46×26	なし	H－4より後便。	総柱建物 (2間×3間)
B－10	X131・Y115G	N－75°－E	7.5×4.0 30.0	5	P_1：74×66×70　P_2：78×54×49　P_3：84×78×54　P_4：110×76×48 P_5：130×82×56　P_6：122×64×52　P_7：106×96×64　P_8：170×96×40 P_9：160×146×52　P_{10}：124×98×50　P_{11}：104×90×34　P_{12}：92×78×38	なし	B－4に先行。	総柱建物 (2間×4間)
B－11	X130・Y110G	N－82°－E	5.8×3.9 22.6	3	P_1：44×42×36　P_2：58×52×48　P_3：52×44×32　P_4：68×66×44 P_5：56×54×42　P_6：60×36×50　P_7：74×72×44　P_8：69×52×50 P_9：104×74×44　P_{10}：66×56×44	なし	－	側柱建物 (2間×3間)

遺構名	位 置	主軸方向	規 模 長軸×短軸(m) 面 積(㎡)	覆土(層)	柱 穴 長径×短径×確認面からの深さ(cm)	遺物	重複関係	備 考
B－12	X129・Y111G	N－88°－E	4.3×3.6 15.5	3	P_1：42×42×42 P_2：62×58×54 P_3：70×52×48 P_5：60×54×44 P_6：36×34×36 P_7：54×52×40 P_8：102×60×48	なし	H－4より後世。	総柱建物(2間×2間)(P4欠損)
B－13	X128・Y109G	N－52°－W	7.3×4.1 29.9	2	P_1：102×72×64 P_2：48×48×32 P_3：62×52×60 P_4：82×72×56 P_5：60×60×48 P_6：60×58×50 P_7：84×74×64 P_8：96×64×62 P_9：102×90×60 P_{10}：68×60×54 P_{11}：58×58×48 P_{12}：62×60×48	なし	－	側柱建物

※深さは、遺構確認面から柱穴底部までの高さ(cm)

4 土 坑

土坑100基検出。Tab. 4 を参照。

Tab. 4 土坑一覧

遺構名	位 置	形状等	長径	短径	深さ	遺物総数(点)	時期
D－ 1	X110・Y 98G	不整形	130	100	28	112	不明
D－ 2	X110・Y 98G	楕円形	100	80	26	なし	不明
D－ 3	X110・Y 99G	円形	95	80	24	なし	不明
D－ 4	X111・Y 98G	円形	40	35	16	なし	不明
D－ 5	X107・Y 98G	円形	120	115	26	2	不明
D－ 6	X107・Y 99G	不整形	265	220	26	なし	不明
D－ 8	X104・Y 99G	楕円形	220	140	36	22	不明
D－ 9	X104・Y 98G	楕円形	150	100	36	なし	不明
D－ 10	X103・Y 98G	円形	150	130	40	なし	不明
D－ 11	X102・Y 98G	楕円形	200	100	44	なし	不明
D－ 12	X102・Y 98G	不整形	190	120	30	なし	不明
D－ 13	X103・Y100G	楕円形	80	65	30	なし	不明
D－ 14	X102・Y 99G	不整形	130	105	22	なし	不明
D－ 15	X102・Y 98G	不整形	190	95	46	なし	不明
D－ 16	X102・Y 97G	不整形	150	80	22	なし	不明
D－ 17	X102・Y 97G	不整形	190	150	40	なし	不明
D－ 18	X102・Y 97G	楕円形	80	70	30	なし	不明
D－ 19	X101・Y101G	楕円形	180	130	40	なし	不明
D－ 20	X101・Y101G	不整形	190	180	50	なし	不明
D－ 21	X101・Y100G	楕円形	160	115	42	なし	不明
D－ 22	X100・Y100G	楕円形	190	140	70	なし	不明
D－ 23	X 99・Y 98G	楕円形	160	130	22	なし	不明
D－ 24	X 99・Y 98G	円形	30	30	20	なし	不明
D－ 25	X 99・Y 98G	円形	80	70	14	なし	不明
D－ 26	X132・Y112G	楕円形	80	50	34	25	不明
D－ 27	X132・Y113G	不整形	160	80	50	5	不明
D－ 28	X124・Y111G	長方形	215	60	38	なし	不明
D－ 29	X133・Y114G	不整形	100	170	74	なし	不明
D－ 30	X131・Y113G	円形	90	85	58	3	不明
D－ 31	X131・Y114G	楕円形	120	80	28	なし	不明
D－ 32	X131・Y114G	不整形	70	60	58	52	不明
D－ 33	X130・Y114G	楕円形	90	80	30	3	不明
D－ 34	X131・Y111G	円形	45	35	26	なし	不明
D－ 35	X130・Y114G	長方形	140	90	36	なし	不明
D－ 36	X131・Y115G	楕円形	60	55	34	30	不明
D－ 37	X124・Y110G	長方形	125	90	36	なし	不明
D－ 38	X132・Y115G	楕円形	30	20	26	なし	不明
D－ 40	X126・Y112G	不整形	70	50	50	なし	不明
D－ 41	X127・Y112G	円形	40	40	36	なし	不明
D－ 43	X127・Y112G	長方形	60	35	30	13	不明
D－ 46	X128・Y112G	円形	60	50	58	なし	不明
D－ 47	X128・Y112G	不整形	60	30	56	なし	不明
D－ 48	X127・Y111G	楕円形	150	110	32	なし	不明
D－ 49	X127・Y111G	長方形	100	80	52	4	不明
D－ 50	X127・Y111G	楕円形	90	65	18	なし	不明
D－ 51	X126・Y112G	楕円形	80	60	12	なし	不明
D－ 52	X126・Y112G	不整形	175	65	24	17	不明
D－ 53	X127・Y113G	円形	30	30	18	10	不明
D－ 54	X126・Y111G	円形	50	45	58	なし	不明
D－ 55	X128・Y113G	円形	50	50	20	16	不明
D－ 56	X130・Y106G	円形	100	90	16	なし	不明
D－ 58	X130・Y111G	円形	80	80	32	なし	不明
D－ 59	X129・Y111G	楕円形	50	40	46	なし	不明
D－ 60	X129・Y110G	円形	70	60	40	2	不明
D－ 63	X125・Y110G	円形	65	50	16	なし	不明
D－ 64	X131・Y110G	円形	50	40	46	なし	不明
D－ 65	X131・Y110G	円形	50	40	46	なし	不明
D－ 66	X128・Y110G	円形	200	120	30	6	不明
D－ 68	X128・Y107G	円形	50	45	40	なし	不明
D－ 69	X128・Y106G	楕円形	110	75	48	なし	不明
D－ 70	X124・Y108G	円形	50	45	40	なし	不明
D－ 71	X123・Y109G	円形	80	80	60	なし	不明
D－ 72	X121・Y108G	不整形	140	120	26	なし	不明
D－ 73	X120・Y108G	長方形	180	60	26	なし	不明
D－ 74	X119・Y110G	楕円形	60	50	20	なし	不明
D－ 75	X120・Y113G	円形	65	60	38	3	不明
D－ 76	X121・Y113G	楕円形	60	55	30	なし	不明
D－ 77	X121・Y113G	円形	60	60	22	1	不明
D－ 78	X121・Y109G	楕円形	95	70	17	2	不明
D－ 80	X120・Y123G	円形	70	70	-54	なし	不明
D－ 81	X122・Y120G	楕円形	50	40	22	なし	不明
D－ 82	X122・Y123G	円形	40	30	38	なし	不明
D－ 83	X122・Y122G	楕円形	30	50	40	4	不明
D－ 84	X122・Y122G	円形	40	40	26	なし	不明
D－ 85	X122・Y121G	不整形	80	40	42	2	不明
D－ 86	X121・Y122G	楕円形	90	50	34	なし	不明

遺構名	位　置	形状等	長径	短径	深さ	遺物総数(点)	時期
D－87	X121・Y122G	円形	40	40	40	なし	不明
D－88	X121・Y123G	円形	40	40	48	なし	不明
D－89	X120・Y121G	楕円形	70	40	46	なし	不明
D－90	X121・Y122G	楕円形	50	50	54	なし	不明
D－91	X121・Y122G	円形	60	50	38	なし	不明
D－92	X121・Y123G	円形	50	40	28	なし	不明
D－93	X122・Y123G	楕円形	50	35	46	なし	不明
D－94	X121・Y123G	楕円形	80	50	46	なし	不明
D－95	X121・Y123G	円形	60	55	46	なし	不明
D－96	X121・Y123G	円形	25	25	22	なし	不明
D－97	X121・Y123G	円形	45	40	34	なし	不明
D－98	X120・Y123G	円形	60	50	42	なし	不明

遺構名	位　置	形状等	長径	短径	深さ	遺物総数(点)	時期
D－99	X120・Y123G	円形	50	45	54	なし	不明
D－100	X120・Y124G	長方形	190	50	26	なし	不明
D－101	X120・Y120G	楕円形	80	55	38	2	不明
D－102	X120・Y122G	楕円形	60	50	38	なし	不明
D－103	X121・Y122G	円形	70	69	34	なし	不明
D－104	X122・Y122G	楕円形	70	50	44	なし	不明
D－105	X122・Y120G	楕円形	80	40	66	1	不明
D－106	X128・Y110G	円形	60	55	62	なし	不明
D－107	X128・Y111G	円形	45	45	44	なし	不明
D－108	X128・Y110G	円形	50	50	39	なし	不明
D－109	X129・Y110G	楕円形	70	45	41	なし	不明
D－110	X129・Y110G	円形	50	40	42	なし	不明

＊深さは、遺構確認面から土坑底部までの高さ(cm)

6　柱　穴

柱穴73基検出。Tab. 5 を参照。

Tab. 5　柱穴一覧

遺構名	位　置	形状等	長径	短径	深さ	遺物総数(点)	時期
P－1	X129・Y104G	円形	36	34	60	なし	不明
P－2	X128・Y104G	円形	20	20	22	なし	不明
P－3	X128・Y104G	楕円形	38	30	52	なし	不明
P－4	X128・Y105G	不整形	30	28	30	なし	不明
P－5	X128・Y105G	不整形	45	38	50	なし	不明
P－6	X128・Y104G	楕円形	46	30	54	なし	不明
P－7	X127・Y104G	楕円形	42	32	34	なし	不明
P－8	X127・Y105G	円形	38	36	56	なし	不明
P－9	X127・Y105G	楕円形	24	20	32	なし	不明
P－10	X127・Y105G	円形	32	30	38	なし	不明
P－11	X127・Y105G	円形	26	24	50	なし	不明
P－12	X126・Y105G	円形	40	36	52	なし	不明
P－13	X126・Y105G	楕円形	30	24	30	なし	不明
P－14	X126・Y105G	楕円形	30	24	52	なし	不明
P－15	X125・Y105G	楕円形	32	26	44	なし	不明
P－16	X125・Y104G	円形	30	28	26	なし	不明
P－17	X125・Y105G	円形	28	24	34	なし	不明
P－18	X125・Y105G	円形	30	26	44	なし	不明
P－19	X125・Y105G	楕円形	30	22	32	なし	不明
P－20	X125・Y105G	円形	22	20	36	なし	不明
P－21	X125・Y105G	円形	24	22	38	なし	不明
P－22	X125・Y105G	楕円形	24	20	40	なし	不明
P－23	X125・Y105G	円形	26	24	52	なし	不明
P－24	X125・Y105G	楕円形	38	32	46	なし	不明
P－25	X124・Y104G	不整形	52	36	38	なし	不明
P－26	X124・Y105G	円形	36	32	20	なし	不明
P－27	X124・Y105G	円形	32	30	24	なし	不明
P－28	X124・Y105G	円形	28	28	54	なし	不明
P－29	X123・Y105G	円形	30	28	44	なし	不明
P－30	X123・Y104G	円形	36	30	32	なし	不明

遺構名	位　置	形状等	長径	短径	深さ	遺物総数(点)	時期
P－31	X123・Y104G	円形	30	30	36	なし	不明
P－32	X123・Y106G	楕円形	38	30	34	なし	不明
P－33	X123・Y106G	円形	44	40	50	なし	不明
P－34	X123・Y107G	円形	28	26	44	なし	不明
P－35	X123・Y107G	円形	28	28	28	なし	不明
P－36	X123・Y107G	円形	28	26	44	なし	不明
P－37	X123・Y107G	円形	28	28	28	なし	不明
P－38	X123・Y106G	楕円形	30	24	26	なし	不明
P－39	X123・Y106G	円形	34	32	50	なし	不明
P－40	X122・Y105G	楕円形	40	30	34	なし	不明
P－41	X122・Y105G	楕円形	48	36	44	なし	不明
P－43	X122・Y105G	不整形	64	42	40	なし	不明
P－44	X121・Y105G	円形	28	24	28	なし	不明
P－45	X121・Y105G	円形	24	22	34	なし	不明
P－46	X122・Y107G	円形	32	30	40	なし	不明
P－47	X122・Y107G	円形	38	36	36	なし	不明
P－48	X120・Y107G	円形	44	38	36	なし	不明
P－49	X120・Y107G	楕円形	32	28	32	なし	不明
P－50	X120・Y107G	円形	26	22	34	なし	不明
P－51	X120・Y107G	円形	30	28	26	なし	不明
P－52	X120・Y108G	円形	26	24	32	なし	不明
P－53	X119・Y108G	円形	38	32	30	なし	不明
P－54	X119・Y109G	円形	36	34	18	なし	不明
P－55	X119・Y110G	楕円形	62	50	40	なし	不明
P－56	X119・Y110G	楕円形	48	40	34	なし	不明
P－57	X123・Y109G	円形	14	14	72	なし	不明
P－58	X123・Y109G	円形	12	12	50	なし	不明
P－59	X130・Y106G	楕円形	40	34	68	なし	不明
P－60	X121・Y111G	円形	30	30	42	なし	不明
P－61	X121・Y111G	円形	36	34	42	なし	不明

遺構名	位　置	形状等	長径	短径	深さ	遺物総数(点)	時期
P－61	X121・Y111G	円形	36	34	42	なし	不明
P－62	X121・Y112G	楕円形	44	36	44	なし	不明
P－63	X129・Y116G	円形	24	24	32	なし	不明
P－64	X129・Y117G	楕円形	30	24	44	なし	不明
P－65	X119・Y118G	楕円形	50	44	34	なし	不明
P－66	X120・Y118G	円形	38	32	36	なし	不明
P－67	X120・Y118G	楕円形	44	30	36	なし	不明

遺構名	位　置	形状等	長径	短径	深さ	遺物総数(点)	時期
P－68	X121・Y120G	楕円形	38	28	42	なし	不明
P－69	X121・Y120G	円形	35	35	42	なし	不明
P－70	X120・Y120G	円形	35	30	36	なし	不明
P－71	X122・Y121G	円形	30	30	24	なし	不明
P－72	X122・Y122G	円形	35	35	36	なし	不明
P－73	X122・Y122G	円形	40	35	36	なし	不明
P－74	X110・Y125G	円形	40	34	28	なし	不明

＊深さは、遺構確認面から柱穴底部までの高さ(cm)

Ⅵ　成果と課題

本年度の調査は、昨年度に引き続き団地造成のため削り取られる微高地の範囲で実施した。微高地の頂上から西斜面の部分をA区、東・南・西と連なる斜面の部分をB区として調査した。昨年同様、昭和30から40年代にかけての土地改良事業のため、縄文時代から古墳時代の時期に存続したと推定される遺構の多くは、上部を削り取られていた。しかし、奈良・平安時代と推定される遺構は、良好な検出状態であるものが多かった。

1．遺構の検出状況について

本年度の調査で確認された遺構は、住居跡・掘立柱建物遺構・井戸跡・土坑・柱穴・古墳であった。A区は、なだらかな丘陵地の頂から西斜面に位置する。東西55m、南北22mのほぼ長方形の調査区を現地表より約120cmの厚さで表土を除去したところで、遺構面を確認した。調査区東端に3軒（J－1・2・3号）、中央よりやや西側に1軒（J－4号）の縄文時代と時期を推定される住居跡、調査区西側を中心に土坑、調査区中央に桁行・梁間が4間×4間の中世のお堂跡と推定される掘立柱建物遺構（B－1号）、調査区西側を中心に土坑24基（D－1～6・8～25号）を検出した。

B区は、A区の南側に東西に広がっている。表土を厚さ80cmほど除去して遺構面を確認したが、微高地西斜面は土地改良等による削平が顕著であったため、遺構の残存状況は芳しくなかった。しかし、微高地の頂から東斜面にかけては、良好な残存状況で遺構を確認することができた。縄文土器を共伴する住居跡1軒（J－5号住居跡）、竈をもつ住居跡10軒（H－1～4・6～11号）、竪穴状遺構1軒（T－1号）、掘立柱建物遺構11棟（B－3～13号）の他、東端からは、柱穴を4基伴うとみられる井戸跡（I－1号）が検出された。また土坑86基（D－26～110号、39・42・44・45・57・61・62・67・79号は欠番）と柱穴73基（P－1～41・43～74号）を確認したが、そのほとんどは東斜面北側に集中していた。更に東斜面の中央部北寄りからは、古墳の周堀を確認することができた。

調査の最終段階で、B区西斜面のX100－Y122，X102－Y122，X104－Y122，X101－Y124，X103－Y124，X104－Y126の6グリッドに一辺が2mの正方形テストピットを設定し、旧石器文化層確認作業を行った。浅間板鼻褐色テフラ群混入層まで掘下げて精査したが、旧石器遺物の確認には至らなかった。

2．縄文時代

現地表より80cm～120cmほどの表土を除去した段階で、A区・B区の調査区とも濃密な縄文土器の散布を確認した。収納した土器片は縄文時代前期のものが7割近くを占めていた。縄文時代の住居跡調査は、遺物の集まっている箇所にトレンチ掘りを入れ、住居の掘り込みと遺物の包含を確認することから始めた。どの住居跡も後世の削平をうけていた。特にB区では、ほとんどの住居が床上まで削平されていた。当初、25箇所にトレンチ掘りを入れたが、そのほとんどは遺構確認に至らなかった。しかしながら、A区では縄文時代前期と推定される住居跡4軒、B区では縄文時代中期と推定される住居跡1軒を確認することができた。

本年度の調査では、縄文時代のものと思われる土器片や石器・石製品類の遺物を数多く収納した。しかしながら、そのほとんどは調査区表面採取によるものである。住居跡出土の遺物は、数えるほどしかない。これは、前述したように土地改良等による削平が遺構面まで及しており、住居跡などの遺構に埋もれていた遺物が散らばったためと思われる。したがって、遺物包含層は存在するものの、記録に残せる遺構としてはとらえられなかったと考えられよう。いずれにせよ、住居の痕跡と遺物を確認できたことから、縄文時代からこの地に人々の生活があったことは確認できた。しかし、その詳細については、今後の資料の収集を待つこととしたい。

3．古墳時代

昨年度の調査では古墳時代の遺構や遺物は確認することができなかったが、今年度ではB区北東よりに古墳の周堀と思われる環状の溝を確認することができた。この遺構はM－1号古墳（Fig.36、PL.6）として調査を行った。M－1号古墳の周堀は、南側は巡っているものの北側では2カ所途切れている。主体部や台部は既に消滅していたが、中央部には穴が掘られていて、石室に敷かれたかと思われる石が埋められていた。この中に遺物は確認されなかったが、埋土には周囲で確認されなかったHr－FP（6世紀中葉・榛名二ツ岳噴出）が混入しており、表土からHr－FP混入層まで相当深く削平されたことを物語っていると言えよう。

本遺跡地周辺の台地上には古墳時代の遺跡が数多く確認されている。しかし、この周堀の他に、本年度調査では古墳時代に人々が生活した痕跡を示すものは確認できなかった。当時の状況からすれば、生活域と墓域を分けて占地することは多くの遺跡で確認されている。すぐ南に接する富田下大日遺跡でも、台地中央部に古墳が検出されたことから、この台地の中央部は墓域として意識されていたために、住居がつくられることがなかったとみられる。

4．奈良・平安時代（銭貨を出土したH－3号住居を中心に）

平成13年度調査区東端中央部付近の東面傾斜地で検出した掘立柱建物及び竪穴住居跡の一群中に銭貨を出土した住居跡があり、共伴する遺物にも特殊なものを含むので特筆することとする。

まず遺構の主軸方位を中心にして周辺の遺構をみるとH－8号住居（Fig.19、PL.4）、B－9（総柱）（Fig.31、PL.7）・12号（Fig.33、PL.7）掘立柱建物遺構などが集中する。これらは出土遺物でも同様な技法がみられることから、本遺構中で中枢的な1つのブロックを形成していた地域と見なすことができる。

この中のH－3号住居跡（Fig.14、PL.3）は東西4.1m、南北5.6mの規模で現状の壁の深さは50cmほど

で、深手の住居跡である。住居床面は西から北の周辺を中心に一旦掘り窪めて張り床をし、中央部が土間の構造をとる。柱穴は確認されていない。竈は東壁の北から3分の2ほどの所にあり、焚口幅60cm奥行き110cmほどの粘土づくりである。竈の右脇（住居南東隅）には貯蔵穴がある。

出土遺物は量的にも器種も多い。土器では土師器に壺5、脚付甕1、坏5、須恵器には長頸瓶1、坏蓋2、高台椀2、坏6などがある。また鉄製品として刀子片、リング状破片などの他、円形の部分に柄の部分を付したような鉄製紡錘車などの特殊な遺物も含んでいる。また墨書土器の破片もあり、中には墨画状残片も含まれている。

更にこの住居跡を特色づけるものに銭貨の出土がある。西壁に近い中央部で床から浮いて検出したとはいえ、住居が深く、壁に近く検出された点から、本住居跡に伴うものとみられる。貨面の腐食が著しく文字等は不鮮明であったが、群馬県埋蔵文化財センターの協力を得て「富寿神宝」と認定した。富寿神宝は弘仁9（818）年の初鋳で承和元（834）年まで鋳造されたとされる。また顕微鏡観察により裏面から布らしい繊維の付着が確認されたことから、布に包まれていたものとみられた。量目は直径が21.5mm、重さ2.0gである。

富寿神宝は皇朝十二銭の中で5番目に鋳造された銅銭である。県内における皇朝十二銭の出土状況については調査漏れもあるかと思われるが、Tab.6、Tab.7のとおりであり、遺跡数は24遺跡、枚数では44枚に達する。これを遺構別に分けるとTab.6のようになる。

Tab.6　県内皇朝十二銭遺構別出土例一覧

遺構	出土遺構数	出土数（枚）	出土した割合（%）
古墳	3	10	22.2
土坑・墓坑	3	12	26.7
住居跡	17	17	37.8
溝	1	1	2.2
その他	4	5	11.1
計	28	45	100.0

律令政府の唐にならった銭貨普及策は平城京や畿内の官人、貴族、寺社などを中心にひろまったが、それ以外の地域では貨幣は交換価値の対象とはならなかったといわれる。時の政府の力と連動した市場価値、新銭鋳造などで貨幣としての機能は不安定な状態であったとみられている。

こうした中にあって、県内における銭貨の出土をみるとその性格がみえてくる。

まず、古墳からの出土は白山古墳、引間遺跡2号墳など終末期に近いころの古墳からの出土で、白山古墳からは玄室中央部から和同開珎8枚が厭手刀と共に出土している。これに類するものでは墓誌とみられるものを中心に土坑出土のものがある。ただ山王廃寺塔址の土坑は白鳳期に創建された塔の修復に当り、鎮壇の祈りを込めて隆平永宝2、富寿神宝7枚が埋納された例を含んでいる。

次に出土遺構で最も多い事例の竪穴住居跡では単体の出土例のみである。多くは床面から浮いた埋土中と表現され、混入かとみられる場合が多いが、本遺跡の場合のように布に包まれていたとすれば、床面に置かれることを意識したものとは考えられない。むしろ上屋造営の際や完成に際し、住居の安全や永続を願い上屋部分にくくりつけたとすれば、床面から浮いた状態で出土するということの方が自然であろう。

溝からの出土例は水に対する人々の意識がうかがえるもので、掘削から廃絶の期間なんらかの儀礼がおこなわれたものとみられ、井戸からの出土も同様な意味をもつものであろう。

その他では、宋銭などと共に備蓄銭にまぎれ込んだ事例で、蓄財に関係するものである。このようにいろいろな儀礼の中で、銭貨に対する呪力に頼りながら銭貨が埋納された事例の傾向をうかがうことができる。

また鋳造時期別では9世紀前半までに鋳造された和同開珎・万年通宝・神功開宝・隆平永宝・富寿神宝等の出土数が80%強にのぼり、それ以降のものは少ない。勿論、富寿神宝のように大量に鋳造されたとみられるものの出土量もあるので一概にはいえないが、律令経済基盤の弱体化に連動した結果と無関係であるはずがない。いずれにしても、地方の貨幣経済の定着は12世紀中頃からの宋銭大量輸入をまたざるを得ない状況であった。

Tab. 7　県内出土皇朝十二銭銭貨別一覧

番号	出土場所・遺跡名	出土貨幣	枚数	出土遺構				備考
				住居	古墳	土坑・竪穴	その他	
1	前橋市　山王廃寺跡	隆平永宝	2			2		土坑
		富寿神宝	7			7		
2	前橋市富田町 富田宮下遺跡	神功開宝	1					76号床面
3	前橋市富田町 ローズタウン遺跡群 富田下大日Ⅲ遺跡	富寿神宝	1	1				H－3床上15cm
4	前橋市鳥羽町 鳥羽遺跡	延喜通宝	1	1				K－2床面
5	前橋市勝沢町 芳賀北部団地	神功開宝	1	1				H－83
6	前橋市五代町 五代木宿Ⅱ遺跡	和銅開珎	1	1				H－8床上5cm
7	前橋市 二之宮町2310－1	万年通宝	1				1	備蓄銭2,347枚
8	高崎市綿貫町 観音山古墳	貞観永宝	1			1		墓坑3
		寛平大宝	1			1		
9	高崎市上豊岡町 引間2号墳	和同開珎	1		1			2号墳玄室内
10	高崎市大八木町 熊野堂遺跡	和同開珎	1	1				105号周溝際
11	高崎市下豊岡町 豊岡後原Ⅰ・Ⅱ	和同開珎	1	1				1－19号埋土上層
12	桐生市川内町二丁目 童子遺跡	神功開宝	1				1	
13	太田市矢田堀 弁天塚古墳	和同開珎	1		1			16号墳
14	太田市牛沢	隆平永宝	1				1	備蓄銭
		富寿神宝	1				1	22,700枚以上
15	沼田市町田町 戸神諏訪Ⅳ	饒益神宝	1	1				5号覆土中
16	勢多郡赤城村字中畦 中畦遺跡	富寿神宝	1	1				1号
17	勢多郡北橘村下箱田 芝山遺跡	和同開珎	1	1				H－7床上21cm

番号	出土場所・遺跡名	出土貨幣	枚数	出土遺構				備考
				住居	古墳	土坑・墓坑	その他	
18	勢多郡宮城村菅ヶ島 白山古墳	和同開珎	8		8			玄室内
19	勢多郡粕川村中之沢 窯沢遺跡	隆平永宝	1	1				14号
20	群馬郡群馬町東国分 上野国分僧寺・尼寺 中間地域	長年大宝	1			1		土坑
		承和昌宝	1	1				A－187凝面
		饒益神宝	1	1				B－83床面
		富寿神宝	1	1				G区77覆土内
21	群馬郡群馬町大字冷水 冷水村東遺跡	万年通宝	1				1	グリッド
22	群馬郡箕郷町大字下芝 下芝五反田遺跡	和同開珎	1				1	17号溝
23	北群馬郡吉岡町大久保 大久保A遺跡II区	富寿神宝	1	1				78号床上9cm
24	北群馬郡子持村白井 白井二位屋遺跡	和同開珎	1	1				54号床面
25	碓氷郡松井田町 愛宕山遺跡	万年通宝	1	1				4号床面

このように銭貨などの特殊な遺物を共伴するH－3号住居跡は、集落内最大規模の竪穴住居であり、周辺に併存したとみられる掘立柱建物が検出されたことも含め、この集落内の中枢部に位置する竪穴住居として注目に値する遺構である。特に銭貨の鋳造された期間が西暦818年から834年とされることから、出土する土器との関係をみると甕の「コ」の字口縁化、坏の底径の小型化の開始、高台のつく位置や形状などから9世紀前半ころとみてとれる。その意味では集落の時期を確定する根拠として重要な意味をもつことになる。

更に、他の出土遺物の中に祭祀関連のものを含んでいることからすると集落の中心的人物として「まつり」に関わるような階層の人物との関連を推察させる遺構である。

《主要参考文献及び引用文献》

「前橋市史　第1巻」　前橋市史編さん委員会　１９７１
「日本土器事典」　大川　清・鈴木公雄・工楽善通　１９９６
「ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅰ遺跡」　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　２０００
「ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅱ遺跡」　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　２０００
「萱野・下田中・矢場遺跡」　群馬県企業局　１９９１
「内堀遺跡群Ⅴ」　前橋市教育委員会　１９９３
「内堀遺跡群ⅩⅡ」　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　２０００
「新保田中村前遺跡Ⅲ」　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　１９９３
「柳久保遺跡群Ⅰ」　前橋市教育委員会　１９８４

「芳賀東部団地遺跡Ⅰ」　芳賀団地造成地内埋蔵文化財発掘調査団　１９８４
「丸山・北田下・中畑・村主・中山Ｂ」　群馬県教育委員会　１９８８
「西大室丸山遺跡」　群馬県教育委員会　１９９７
「諏訪西遺跡・諏訪遺跡・柳久保遺跡」　群馬県教育委員会　１９９８
「荒砥北三木道遺跡Ⅱ」　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　１９９２
「上大屋・樋越地区遺跡群」　大胡町教育委員会　１９８６
「上大屋南部地区遺跡群」　大胡町教育委員会　１９９９
「分郷八崎遺跡」　北橘村教育委員会・群馬県教育委員会・日本道路公団　１９８６
「房谷戸遺跡Ⅰ」　群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　１９８９
「山王廃寺跡」第７次　前橋市教育委員会　１９８２
「上野国分僧寺・尼寺中間地域」（２）　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　１９８７
「上野国分僧寺・尼寺中間地域」（５）　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　１９９１
「中畦遺跡　諏訪西遺跡」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　１９８６
「大久保Ａ遺跡Ⅱ区」　群馬県北群馬郡吉岡村教育委員会　１９８６
「上大屋南部地区遺跡群」　群馬県勢多郡大胡町教育委員会　１９９９
「太田市史」通史編　中世　太田市　１９９７
「テエタ」（財）北海道埋蔵文化財センターだより第４号　（財）北海道埋蔵文化財センター　２０００
「研究紀要」７　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　１９９０
「富田宮下遺跡」　現地説明会資料　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　２０００
「埋文群馬」No.35　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　２０００
「戸神諏訪Ⅳ遺跡」　沼田市教育委員会　１９９４
「愛宕山遺跡」　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　２０００
「熊野堂遺跡」（２）　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　１９９０
「下芝五反田遺跡」　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　１９９９
「白井遺跡群」－集落編１－白井二位屋遺跡　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　１９９４
「綿貫観音山古墳」　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　１９９８
「芝山遺跡」　北橘村教育委員会　１９９３
「鳥羽遺跡Ⅰ・Ｊ・Ｋ・Ｅ区」　（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　１９８８
「冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡」（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　１９９８
「豊岡後原１・Ⅱ遺跡」　高崎市教育委員会　１９９８
「群馬県史」資料編３　群馬県史編纂委員会　１９８１
「日本の貨幣」－収集の手引き－　日本貨幣商協同組合　１９９８
「天平の時代」日本の歴史４　栄原永遠男　集英社　１９９１
「日本古代銭貨流通史の研究」　栄原永遠男　塙書房　１９９３
「横穴式古墳の研究」　尾崎喜左雄　吉川弘文館　１９６６

Tab. 8　遺物観察表

番号	出土位置	登録番号	器種	大きさ(cm) 口径(最長)	器高(横長)	①胎土 ②焼成 ③色調	④残存	形態・製作技法の特徴	備考	Fig.
1	H－1	1	土師器・坏	[11.6]	(3.0)	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 5YR5/4	④破片	(外面)横なで (内面)横なで		37
2	H－1	5	土師器・坏	[12.0]	(3.0)	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6	④破片	(外面)横なで (内面)横なで		37
3	H－1	4	土師器・鉢	[18.8]	[9.7]	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/8	④1/2	(外面)横なで、斑削り (内面)横なで、なで		37
4	H－1	3	土師器・甕	[19.8]	(17.6)	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 7.5YR6/4	④破片	(外面)横なで、斑削り (内面)横なで、なで		37
5	H－1	2	土師器・甕	19.7	－	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6	④2/3	(外面)横なで、斑削り (内面)横なで、なで		37
6	H－2	2	土師器・坏	－	－	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6	④破片	(外面)荒削り (内面)なで	底部内部に墨書あり、「丁」か。	37
7	H－2	1	土師器・高台付椀	－	(2.2)	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 10YR7/3	④破片	(外面)横削なで (内面)荒磨き、内黒	回転糸切りの後、高台を取り付けた。墨書あり。「石」と雪取できる。	37
8	H－2	4	土師器・坏	12.0	3.5	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/8	④2/3	(外面)横なで、なで、荒削り (内面)横なで、なで		37
9	H－2	5	土師器・坏	[12.5]	3.3	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6	④1/3	(外面)横なで、底部は荒削り (内面)横なで		37
10	H－2	6	須恵器・高台付椀	[14.2]	6.0	①細粒 ②良好 ③灰黄 2.5Y6/2	④3/4	(外面)横削なで (内面)横なで		37
11	H－2	8	須恵器・甕	[16.1]	2.3	①細粒 ②良好 ③灰 N4/0	④3/4	(外面)横削なで (内面)横削なで	回転糸切り。	37
12	H－2	7	土師器・甕	－	(13.6)	①細粒 ②良好 ③橙 7.5YR6/6	④1/4	(外面)荒削り (内面)なで	底部は荒削り。	37
13	H－3	3	灰釉陶器・壺	－	(1.8)	①細粒 ②良好 ③オリーブ灰 7.5Y5/2	④破片	(外面)横削なで (内面)横削なで	施釉陶器	38
14	H－3	2	土師器・坏	－	(1.5)	①細粒 ②良好 ③明黄褐色 10YR7/6	④破片	(外面)横削なで (内面)荒磨き、内面処理	回転糸切り。	38
15	H－3	4	須恵器・坏	－	(2.3)	①細粒 ②良好 ③灰 N5/0	④破片	(外面)横削なで (内面)横削なで	回転糸切り。内面に墨付着。	38
16	H－3	1	須恵器・高台付椀	－	(2.2)	①細粒 ②良好 ③オリーブ灰 2.5GY5/1	④破片	(外面)横削なで (内面)横削なで	墨書あり。	38
17	H－3	19	須恵器・坏	[13.8]	3.7	①細粒 ②良好 ③灰 10Y6/1	④1/4	(外面)横削なで (内面)横削なで	回転糸切り	38
18	H－3	14	須恵器・坏	12.6	4.0	①細粒 ②良好 ③灰 7.5Y5/1	④ほぼ完形	(外面)横削なで (内面)横削なで		38
19	H－3	15	須恵器・坏	12.4	3.7	①細粒 ②良好 ③オリーブ灰 2.5GY5/1	④ほぼ完形	(外面)横削なで (内面)横削なで	回転糸切り。	38
20	H－3	16	須恵器・坏	[13.4]	3.7	①細粒 ②良好 ③灰 7.5Y6/1	④1/3	(外面)横削なで (内面)横削なで		38
21	H－3	5	土師器・坏	11.6	3.3	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6	④完形	(外面)横なで、なで、荒削り (内面)横なで、なで		38
22	H－3	13	土師器・坏	[12.0]	[2.8]	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6	④破片	(外面)横なで、荒削り (内面)なで		38
23	H－3	11	土師器・坏	[11.7]	3.1	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/5	④1/4	(外面)横なで、荒削り (内面)横なで		38
24	H－3	12	土師器・坏	[11.6]	(3.6)	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6	④破片	(外面)横なで、荒削り (内面)横なで		38
25	H－3	6	土師器・坏	12.4	3.3	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6	④3/5	(外面)横なで、なで、荒削り (内面)横なで		38
26	H－3	10	土師器・坏	[12.0]	(3.4)	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/8	④1/4	(外面)横なで、荒削り (内面)横なで		38
27	H－3	25	須恵器・壺	[9.5]	(10.2)	①細粒 ②良好 ③灰 7.5Y5/1	④口縁～頸部	(外面)横削なで (内面)横削なで	自然釉がかかる。	38
28	H－3	26	土師器・甕	[18.0]	(18.2)	①細粒 ②良好 ③明赤褐 2.5YR5/8	④1/7	(外面)横なで、荒削り (内面)横なで、なで	煤の粘土が付着。	38
29	H－3	27	土師器・甕	[20.7]	(15.4)	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6	④破片	(外面)横なで、荒削り (内面)横なで、なで		38
30	H－3	23	須恵器・蓋	[17.2]	2.8	①細粒 ②良好 ③灰白 5Y7/1	④1/8	(外面)荒削り、横削なで (内面)横削なで		39
31	H－3	24	須恵器・蓋	[16.2]	(0.8)	①細粒 ②良好 ③灰白 5Y7/1	④2/5	(外面)回転荒削り、横削なで (内面)横削なで		39
32	H－3	22	須恵器・蓋	－	(3.4)	①細粒 ②良好 ③灰 N5/0	④1/6	(外面)回転荒削り、横削なで (内面)横削なで		39
33	H－3	17	須恵器・坏	[12.6]	3.5	①細粒 ②良好 ③黄灰 2.5Y5/1	④1/3	(外面)横削なで (内面)横削なで	回転糸切り。いぶし焼成。内面の色調調は、にぶい黄橙(10YR6/3)。	39
34	H－3	18	須恵器・坏	[13.1]	3.9	①細粒 ②良好 ③灰 7.5Y6/1	④破片	(外面)横削なで (内面)横削なで	回転糸切り。	39
35	H－3	21	須恵器・高台付椀	14.6	7.1	①細粒 ②良好 ③灰 5Y6/1	④4/5	(外面)横なで (内面)横なで	回転糸切りの後、高台を取り付けた。	39

番号	出土位置	登載番号	器種	大きさ(cm) 口径(最長)	器高(横長)	①胎土 ②焼成 ③色調	④残存	器形・製作技法の特徴	備考	頁
36	H－3	30	土師器・台付甕	[11.8]	(5.2)	①細粒 ②良好 ③明赤褐 5YR5/6	④破片	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで		39
37	H－3	20	土師器・高台皿	[11.3]	–	①細粒 ②良好 ③明赤褐 5YR5/6	④底部・口縁部	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで	口縁部と胴部。接点なし。	39
38	H－3	28	土師器・鉢	[18.0]	(15.7)	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR5/8	④1/7	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで		39
39	H－3	29	土師器・鉢	[20.3]	(15.2)	①細粒 ②良好 ③橙 7.5YR6/8	④破片	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで		39
40	H－3	32	土師器・甕	[18.8]	(8.5)	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/7	④破片	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで		39
41	H－3	31	土師器・鉢	[19.1]	[25.5]	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/8	④1/2	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで		39
42	H－3	8	土師器・坏	[11.8]	(3.8)	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/8	④1/4	(外面)横なで、なで、篦削り (内面)横なで		40
43	H－3	7	土師器・坏	[12.4]	(3.0)	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/8	④1/3	(外面)横なで、なで (内面)横なで		40
44	H－3	9	土師器・坏	[12.9]	3.6	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/5	④1/3	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで	墨文あり。	40
45	H－3	33	土師器・甕	[19.0]	(22.2)	①細粒 ②良好 ③明赤褐 2.5YR5/6	④	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで		40
46	H－4	1	須恵器・坏	–	(1.6)	①精粒 ②良好 ③灰白 2.5Y8/2	④破片	(外面)回転なで (内面)回転なで	回転糸切り、倒着あり。	40
47	H－4	2	須恵器・坏	[13.8]	3.7	①細粒 ②良好 ③灰白 2.5Y7/1	④1/3	(外面)回転なで (内面)回転なで	回転糸切り。	40
48	H－4	4	須恵器・高台付椀	[15.1]	5.9	①細粒 ②良好 ③灰白 7.5Y7/1	④1/3	(外面)回転なで (内面)回転なで	回転糸切りの後、高台を取り付けた。	40
49	H－4	3	須恵器・坏	[13.0]	(3.2)	①細粒 ②良好 ③灰白 2.5Y7/2	④1/3	(外面)回転なで (内面)回転なで		40
50	H－4	5	土師器・高台付椀	–	(4.3)	①細粒 ②良好 ③橙 7.5YR6/6	④1/3	(外面)回転なで (内面)回転なで	回転糸切りの後、高台を取り付けた。	40
51	H－4	6	土師器・鉢	[19.4]	(8.6)	①細粒 ②良好 ③橙 7.5YR6/6	④口縁部のみ	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで		40
52	H－5	1	土師器・坏	[11.4]	3.3	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6	④1/2	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで		40
53	H－6	2	須恵器・高台付椀	[14.7]	(4.7)	①精粒 ②良好 ③オリーブ灰 2.5GY5/1	④1/3	(外面)回転なで (内面)回転なで	回転糸切りの後、高台を取り付けた。ただし底台部は欠損。	40
54	H－7	1	土師器・坏蓋	[12.2]	(3.0)	①細粒 ②良好 ③明赤褐 5YR5/6	④破片	(外面)横なで、なで (内面)横なで		40
55	H－7	3	黒色土器・椀	[14.2]	(2.4)	①細粒 ②良好 ③灰 N5/0	④1/5	(外面)回転なで (内面)回転なで		40
56	H－7	5	土師器・鉢	[20.0]	(11.4)	①細粒 ②良好 ③橙 7.5YR6/6	④破片	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで		40
57	H－7	4	須恵器・高台付皿	[13.9]	2.9	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 10YR7/3	④1/2	(外面)回転なで (内面)回転なで	回転糸切りの後、高台を取り付けた。	41
58	H－7	2	須恵器・高台付椀	–	(3.7)	①細粒 ②良好 ③灰 7.5Y5/1	④1/3	(外面)回転なで (内面)回転なで	回転糸切りの後、高台を取り付けた。	41
59	H－8	7	土師器・坏	[11.0]	(3.0)	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 7.5YR6/4	④破片	(外面)横なで、不明 (内面)横なで	外面降誠のため、不明。	41
60	H－8	11	須恵器・坏	[14.0]	(4.6)	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 10YR7/3	①破片 ④1/6	(外面)回転なで (内面)回転なで	刻着あり。	41
61	H－8	2	須恵器・坏	[12.6]	3.6	①細粒 ②良好 ③灰 5Y6/1	④ほぼ完形	(外面)回転なで (内面)回転なで	回転糸切り。	41
62	H－8	3	須恵器・坏	[12.8]	4.0	①細粒 ②良好 ③灰黄 2.5Y7/2	④ほぼ完形	(外面)回転なで (内面)回転なで	回転糸切り。	41
63	H－8	4	須恵器・坏	[13.8]	[6.6]	①細粒 ②良好 ③灰 7.5Y6/1	④1/2	(外面)回転なで (内面)回転なで	回転糸切り。刻着あり。	41
64	H－8	1	須恵器・坏	12.4	3.6	①精粒 ②良好 ③灰黄 2.5Y6/2	④完形	(外面)回転なで (内面)回転なで	回転糸切り。	41
65	H－8	6	須恵器・高台付椀	[15.4]	5.5	①細粒 ②良好 ③橙 7.5YR6/6	④1/3	(外面)回転なで (内面)回転なで、内黒	回転糸切りの後、高台を取り付けた。内面、黒色処理。	41
66	H－8	5	須恵器・高台付椀	[14.4]	5.9	①細粒 ②良好 ③オリーブ灰 5Y6/2	④2/3	(外面)回転なで (内面)回転なで	回転糸切りの後、高台を取り付けた。	41
67	H－8	10	土師器・鉢	[18.8]	(6.9)	①精粒 ②良好 ③橙 7.5YR6/6	④破片	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで		41
68	H－8	9	土師器・鉢	[18.6]	(10.3)	①細粒 ②良好 ③明赤褐 5YR5/6	④破片	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで		41
69	H－8	8	土師器・鉢	[19.2]	(8.8)	①細粒 ②良好 ③明赤褐 2.5YR5/8	④破片	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで		41
70	H－9	3	土師器・鉢	7.1	[19.2]	①細粒 ②良好 ③明赤褐 5YR5/6	④1/6	(外面)横なで、篦削り (内面)横なで、なで		41
71	H－9	1	須恵器・坏	(5.2)	4.1	①精粒 ②良好 ③灰 5Y6/1	④3/4	(外面)横なで (内面)回転なで	回転糸切り。	42

番号	出土位置	登録番号	器種	大きさ(cm) 口径(縦長)	器高(横長)	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	器形・製作技法の特徴	備考	Fig.
72	H－9	2	土師器・甕	13.0	4.1	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 7.5YR5/4 ④ほぼ完形	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで	回転糸切り。	42
73	H－10	2	須恵器・坏	16.8	3.3	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 7.5YR5/4 ④完形	(外面)横なで、箆削り (内面)横なで、なで		42
74	H－10	1	須恵器・坏	－	(1.3)	①細粒 ②良好 ③灰オリーブ 5Y6/2 ④破片	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで		42
75	H－10	4	土師器・坏	－	(2.7)	①細粒 ②良好 ③灰白 5Y7/1 ④1/2	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで	回転糸切りの後、高台を取り付けた。	42
76	H－10	6	須恵器・坏	(13.8)	3.8	①細粒 ②良好 ③灰 5Y6/1 ④1/4	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで	底径 (6.6)、回転糸切り、墨書あり。	42
77	H－10	3	須恵器・高台付皿	(12.4)	4.5	①細粒 ②良好 ③灰白 5Y7/1 ④1/2	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで	回転糸切り。	42
78	H－10	5	須恵器・坏	－	(7.9)	①細粒 ②良好 ③灰 5Y5/1 ④底部のみ	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで	回転糸切り。	42
79	H－10	9	須恵器・坏	(20.6)	(16.5)	①細粒 ②良好 ③明赤褐 5YR5/6 ④1/2	(外面)横なで、箆削り (内面)横なで、なで		42
80	H－10	10	須恵器・甕	14.6	(7.6)	①細粒 ②良好 ③明赤褐 2.5YR5/6 ④口縁部	(外面)横なで、箆削り (内面)横なで、なで		42
81	H－10	7	土師器・甕	19.0	26.0	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6 ④1/2	(外面)横なで、箆削り (内面)横なで、なで		42
82	H－10	11	土師器・甕	(20.0)	(13.1)	①細粒 ②良好 ③明赤褐 5YR5/6 ④破片	(外面)横なで、箆削り (内面)横なで、なで		43
83	H－10	8	土師器・甕	(19.4)	(11.5)	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/8 ④1/3	(外面)横なで、箆削り (内面)横なで、なで		43
84	H－11	2	土師器・甕	(13.0)	3.1	①細粒 ②良好 ③灰 N7/0 ④1/2	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで	回転糸切り。	43
85	H－11	1	土師器・甕	(11.6)	3.1	①細粒 ②良好 ③橙 7.5YR6/6 ④3/4	(外面)横なで、なで、箆削り (内面)横なで		43
89	T－1	2	須恵器・坏	(15.4)	(3.2)	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 7.5YR7/4 ④破片	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで		43
90	T－1	1	土師器・坏	(14.5)	5.2	①細粒 ②良好 ③明黄褐 10YR7/6 ④1/3	(外面)轆轤なで (内面)磨き		43
91	I－1	3	酸化炎焼成・須恵器・坏	－	(1.1)	①細粒 ②良好 ③灰オリーブ 5Y6/2 ④底部のみ	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで		43
92	I－1	2	土師器・坏	(11.6)	3.4	①細粒 ②良好 ③灰 5Y4/1 ④破片	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで		43
93	I－1	1	須恵器・坏	(12.1)	3.0	①細粒 ②良好 ③灰 7.5Y5/1 ④2/5	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで		43
94	D－26	1	須恵器・坏	(12.9)	(4.1)	①細粒 ②良好 ③灰黄 2.5Y7/2 ④1/3	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで		43
95	D－66	1	須恵器・坏	(11.9)	3.2	①細粒 ②良好 ③灰 10Y6/1 ④1/2	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで		43
96	D－78	1	須恵器・高台付椀	－	(2.4)	①細粒 ②良好 ③灰白 7.5Y7/1 ④1/3	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで		43
168	H－11	3	須恵器・坏	－	－	①細粒 ②良好 ③オリーブ黄 7.5Y6/3 ④破片	(外面)轆轤なで (内面)轆轤なで		－

Tab. 9　縄文土器観察表

番号	出土位置	器形	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様・成形方法	備考	Fig.
97	J－1 ①	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐 10YR7/6 ④破片	縄文ＲＬ、０(ゼロ)段多条、繊維を含む。	前期・黒浜	44
98	J－3 ①	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐 10YR6/6 ④破片	絡条体圧痕、地文の縄文は０段多条のＲＬとＲによる羽条構成、繊維を含む。	花積下層	44
99	J－4 ①	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/4 ④破片	隆帯、絡条体圧痕文、繊維を含む。	前期初頭	44
100	J－4 ①	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 7.5YR7/4 ④破片	隆帯、絡条体圧痕文、繊維を含む。	前期初頭	44
101	J－4 ①	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 7.5YR7/4 ④破片	縄文ＲＬ、繊維を含む。	前期初頭	44
102	J－4 ①	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/3 ④破片	縄文ＲＬ(羽条構成)、繊維を含む。	黒浜	44
103	J－5 ①	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR6/6 ④3/4	隆帯に刺突文を施し、半截竹管による押引文	中期・阿玉台	44

番号	出土位置	器形	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様・成形方法	備考	Fig.
104	J－5 ①	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR6/6 ④破片	縄帯、連続爪形文、結晶片岩を含む。	阿玉台	44
105	J－5 ①	深鉢	①細粒 ②良好 ③赤橙 2.5YR4/6 ④破片	連続爪形文	阿玉台	44
106	X125Y124G	深鉢	①粗粒 ②良好 ③橙 2.5YR7/6 ④破片	爪形文、繊維を含む。	前期初頭	45
107	X104Y99G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6 ④破片	縄文RL、舌部に貝殻条痕文、繊維を含む。	前期初頭	45
108	X120Y126G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR6/6 ④破片	縄文RL、口唇部に羽状の刺突文、繊維を含む。	黒浜	45
109	X104Y123G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 10YR7/4 ④破片	半裁竹管による連続爪形文、縄文RL、繊維を含む。	黒浜	45
110	X97Y121G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR6/6 ④破片	平行沈線(ひし形構成)、繊維を含む。	黒浜	45
111	X120Y118G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 10YR8/4 ④破片	縄文RL、刺突がつく、繊維を含む。	黒浜	45
112	X109Y124G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/4 ④破片	縄文RL(0段多条)、連続爪形文、繊維を含む。	黒浜	45
113	X110Y116G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 5YR7/6 ④破片	櫛歯状工具による集合沈線、繊維を含む。	黒浜	45
114	X109Y116G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6 ④破片	縄文RL、連続爪形文。口縁部、繊維を含む。	黒浜	45
115	B区表採	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 7.5YR6/4 ④破片	コンパス文、沈線、繊維を含む。	黒浜	45
116	X119Y116G	深鉢	①細粒 ②良好 ③黄橙 7.5YR8/8 ④破片	櫛歯状工具による集合沈線、繊維を含む。	黒浜	45
117	X116Y125G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 2.5YR6/4 ④破片	縄文RL、連続爪形文、繊維を含む。	黒浜	45
118	X120Y117G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 2.5YR5/4 ④破片	コンパス文、繊維を含む。	黒浜	45
119	X122Y123G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/6 ④破片	コンパス文、平行沈線。口縁部、繊維を含む。	黒浜	45
120	X110Y115G	深鉢	①粗粒 ②良好 ③橙 5YR7/6 ④破片	コンパス文、繊維を含む。	黒浜	45
121	X125Y124G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/4 ④破片	縄文RL、付加条文L、繊維を含む。	黒浜	45
122	X126Y123G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 7.5YR6/4 ④破片	隆節の縄文RL、繊維を含む。	黒浜	45
123	X125Y124G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 7.5YR7/6 ④破片	無節の縄文L、繊維を含む。	黒浜	45
124	X112Y117G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 7.5YR7/4 ④破片	半裁竹管による平行沈線と曲線	諸磯b	45
125	X126Y122G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/4 ④破片	横方向の沈線	諸磯b	45
126	X101Y124G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 7.5YR6/6 ④破片	地文縄文RL、平行沈線による格子目文	諸磯b	45
127	X116Y124G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 7.5YR7/6 ④破片	平行沈線、縄文RL	諸磯b	45
128	X120Y122G	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐 2.5YR5/6 ④破片	浮線文の上に縄文RL、縄文RL	諸磯b	45
129	X126Y122G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR6/6 ④破片	浮線文(刻みが入る)、口縁部。	諸磯c	45
130	X105Y116G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/4 ④破片	浮線文(刻みが入る)、縄文RL	諸磯b	45
131	X121Y109G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/4 ④破片	浮線文の上に縄文RL	諸磯b	45
132	X113Y125G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 7.5YR7/4 ④破片	縄文RL、半裁竹管による連続爪形文、沈線	諸磯b	45
133	X119Y124G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 2.5YR6/4 ④破片	浮線文(刻みが入る)	諸磯b	45
134	X104Y119G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅橙 5YR8/4 ④破片	縄文RL	諸磯b	45
135	表採	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR7/6 ④破片	集合沈線、耳たぶ状の突起あり。	諸磯c	46

番号	出土位置	器形	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様・成形方法	備考	Fig.
136	X126Y122G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR7/6 ④破片	集合条線、渦状浮線文。口縁部、結晶片岩を含む。	諸磯c	46
137	B区表採	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6 ④破片	集合沈線	—	46
138	X125Y124G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/4 ④破片	集合沈線、連続爪形文	諸磯c	46
139	X131Y119G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/6 ④破片	C字状と耳たお貼付文、集合沈線、口縁部。	諸磯c	46
140	X112Y124G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 5YR7/6 ④破片	平行沈線による羽状構成、棒状貼付痕、口縁部に刺突文	諸磯c	46
141	B区表採	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR6/6 ④破片	集合沈線	諸磯c	46
142	X117Y124G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい褐 7.5YR5/4 ④破片	集合沈線、円形貼付	諸磯c	46
143	X121Y121G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR7/8 ④破片	集合沈線、C字状の突起痕、口縁部に刺突文	諸磯c	46
144	X112Y124G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/4 ④破片	集合沈線による羽状構成	諸磯c	46
145	X112Y125G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 5YR7/8 ④破片	集合沈線。底部。	諸磯c	46
146	X112Y121G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/4 ④破片	貝殻復縁文の連続爪刺突文、口縁部。	興津	46
147	X109Y117G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい黄橙 10YR7/3 ④破片	二枚貝による貝殻復縁連続押圧文	興津	46
148	X120Y123G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR7/6 ④破片	浮線文に縄文RL。口縁部。口唇部に刻み。	五領ヶ台	46
149	X131Y117G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR7/6 ④破片	隆帯、沈線、細かな縄文RL、三叉文。砂粒を含む。150、151、152と同一個体。	中期前葉	46
150	X132Y117G	深鉢	①細粒 ②良好 ③淡赤褐 2.5YR7/4 ④破片	隆帯、沈線、細かな縄文RL、砂粒を含む。149、151、152と同一個体。	中期前葉	46
151	X131Y116G	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐 2.5YR5/6 ④破片	隆帯、沈線、細かな縄文RL、砂粒を含む。149、150、152と同一個体。	中期前葉	46
152	X131Y116G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR7/6 ④破片	隆帯、沈線、細かな縄文RL、三叉文。砂粒を含む。150、150、151と同一個体。	中期前葉	46
153	X122Y108G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 2.5YR7/6 ④破片	隆帯、半裁竹管による押引文、平行沈線	阿玉台	46
154	X132Y114G	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/4 ④破片	隆帯、刺突文	阿玉台	46
155	X131Y116G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 5YR7/4 ④破片	隆帯	阿玉台	46
156	X131Y117G	深鉢	①細粒 ②良好 ③淡赤褐 2.5YR7/4 ④破片	隆帯、連続爪形文。砂粒を多く含む。	勝坂	46
157	X130Y115G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 5YR7/6 ④破片	平行沈線、連続爪形文。砂粒を多く含む。	勝坂	46
158	X128Y115G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 5YR5/4 ④破片	平行沈線、連続爪形文	勝坂	46
159	X132Y117G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6 ④破片	隆帯、連続爪形文。砂粒を多く含む。	勝坂	46
160	X132Y117G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 5YR7/6 ④破片	隆帯、連続爪形文。砂粒を多く含む。	勝坂	46
161	X129Y115G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 5YR5/4 ④破片	平行沈線、連続爪形文。	勝坂	47
162	X130Y116G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 5YR7/4 ④破片	平行沈線、区画内連続爪形文。結晶片岩を含む。	中期・勝坂	47
163	X130Y116G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい赤褐 5YR5/4 ④破片	平行沈線、区画内爪形文。結晶片岩を含む。	中期・勝坂	47
164	X131Y117G	深鉢	①細粒 ②良好 ③にぶい橙 5YR6/4 ④破片	隆帯沈線、細かな縄文RL、三叉文。砂粒を多く含む。	中期前葉	47
165	X131Y117G	深鉢	①細粒 ②良好 ③明赤褐 5YR5/6 ④破片	縦方向沈線、口縁部。	中期中葉(勝坂)	47
166	X132Y115G	深鉢	①細粒 ②良好 ③橙 5YR6/6 ④破片	隆帯、半裁竹管による押引文	中期・阿玉台	47
167	B区表採	深鉢	①細粒 ②良好 ③浅黄橙 7.5YR8/6 ④破片	三段縄文RLR、沈線。砂粒を多く含む。	加曽利EII	47

Tab. 10　土製品・石製品・鉄製品・特殊遺物観察表

備考	出土位置	登録番号	器種	①最大長(cm)	②最大幅(cm)	③最大厚(cm)	④重さ(g)	⑤残存	⑥石材	備考	Fig
169	T－1	1	土錘	①6.1	②1.5	③1.5	④15.0	⑤完形			47
170	T－1	2	土錘	①5.0	②1.5	③1.5	④15.0	⑤完形			47
171	D－66	1	土錘	①5.5	②1.5	③1.5	④16.2	⑤完形			47
172	B区表採	－	土錘	①5.9	②1.7	③1.7	④18.8	⑤完形			47
173	X112Y125	－	土製円盤	①3.1	②－	③0.9	④9.0	⑤完形			47
174	X102Y97	－	管玉	①1.9	②0.7	③0.7	④3.3	⑤完形	⑥滑石		47
175	X106Y97	－	耳飾り	①2.8	②0.9	③0.7	④7.6	⑤一部欠損	⑥ヒスイ		47
176	H－3	3	リング	①4.5	②0.7	③0.6	④8.4	⑤一部欠損			47
177	H－3	4	リング	①3.4	②0.6	③0.4	④3.1	⑤一部欠損			47
178	H－3	2	鉄製防錘車	①4.7	②4.7	③0.3	④15.8	⑤完形			47
179	H－3	7	釘	①1.8	②0.3	③0.2	④0.6	⑤一部欠損			47
180	H－3	1	袖釦	①22.1	②1.5	③1.1	④35.4	⑤完形			47
181	H－3	6	刀子	①16.5	②1.7	③0.3	④27.2	⑤一部欠損			47
182	H－8	5	刀子	①10.0	②1.9	③0.4	④7.4	⑤一部欠損			47
183	H－10	8	刀子の柄	①6.0	②1.1	③1.1	④8.3	⑤完形			47
184	B区表採	－	石斧	①2.4	②1.5	③0.3	④1.3	⑤完形	⑥黒曜石		48
185	X111Y100G	－	ナイフ形石器	①2.4	②1.8	③0.7	④3.1	⑤完形	⑥チャート		48
186	B区表採	13	石鏃	①(3.1)	②(1.2)	③(0.4)	④(0.9)	⑤完形	⑥黒曜石		48
187	B区表採	7	石鏃	①(1.7)	②(1.3)	③(0.2)	④(0.5)	⑤一部欠損	⑥黒曜石		48
188	X110Y97G	8	石鏃	①2.3	②1.8	③0.6	④2.3	⑤完形	⑥黒曜石		48
189	B区表採	9	石鏃	①2.2	②1.7	③0.5	④1.7	⑤完形	⑥黒曜石		48
190	B区表採	6	石鏃	①1.8	②1.7	③0.4	④1.0	⑤完形	⑥頁岩		48
191	J－3	5	石鏃	①3.1	②1.8	③0.6	④3.0	⑤完形	⑥頁岩		48
192	A区表採	1	石鏃	①2.3	②1.3	③0.4	④1.0	⑤完形	⑥頁岩		48
193	B区表採	3	石鏃	①(2.2)	②(1.6)	③(0.4)	④(1.2)	⑤完形	⑥頁岩		48
194	X126Y122G	2	石鏃	①2.6	②1.6	③0.4	④1.1	⑤完形	⑥頁岩		48
195	X102Y122G	4	石鏃	①2.4	②1.7	③0.4	④1.5	⑤完形	⑥頁岩		48
196	X133Y118G	12	石鏃	①(1.7)	②(1.3)	③(0.3)	④(0.6)	⑤一部欠損	⑥黒曜石		48
197	調査区表採	11	石鏃	①(2.2)	②(1.6)	③(0.4)	④(1.2)	⑤一部欠損	⑥頁岩		48
198	B区表採	10	石鏃	①2.6	②1.8	③0.4	④1.6	⑤完形	⑥頁岩		48
199	B区表採	14	石鏃	①2.2	②1.7	③0.4	④1.0	⑤完形	⑥チャート		48

備考	出土位置	登録番号	器種	①最大長(cm)	②最大幅(cm)	③最大厚(cm)	④重さ(g)	⑤残存	⑥石材	備考	Fig
202	X131Y112G	15	石錐	①3.0	②1.4	③0.4	④1.5	⑤完形	⑥黒曜石		48
203	X103Y120G	16	石錐	①3.1	②1.2	③0.4	④1.1	⑤完形	⑥黒曜石		48
202	X126Y105G	17	石錐	①2.2	②1.6	③0.4	④1.1	⑤完形	⑥黒曜石		48
203	H－3	－	砥石	①6.1	②3.3	③1.6	④48.2	⑤完形	⑥流紋岩	6面使用。	48
204	H－8	－	砥石	①(5.3)	②(4.8)	③(4.7)	④(14.0)	⑤一部欠損	⑥流紋岩	4面使用。	48
205	X120Y115G	－	砥石	①5.2	②2.7	③1.5	④27.4	⑤一部欠損	⑥輝緑岩	2面使用。	48
206	J－2	1	石匙	①(3.5)	②(1.9)	③(1.0)	④(5.2)	⑤一部欠損	⑥チャート		48
207	X120Y121G	－	石匙	①4.0	②5.0	③0.8	④10.4	⑤完形	⑥チャート		48
208	X110Y99G	－	石匙	①4.2	②7.6	③1.0	④28.0	⑤完形	⑥黒色頁岩		48
209	J－3	3	削器	①5.2	②12.1	③1.7	④100.0	⑤完形	⑥黒色頁岩		49
210	X106Y99G	－	削器	①4.9	②6.7	③1.5	④28.8	⑤完形	⑥黒色頁岩		49
211	X121Y122G	－	削器	①1.4	②3.5	③0.5	④2.5	⑤完形	⑥チャート		49
212	X131Y118G	－	削器	①5.2	②5.9	③1.7	④56.0	⑤一部欠損	⑥頁岩		49
213	X118Y123G	－	磨製石斧	①(5.7)	②(4.3)	③(1.2)	④(39.6)	⑤一部欠損	⑥黒色頁岩		49
214	X116Y124G	－	磨製石斧	①(8.0)	②(5.7)	③(2.3)	④(190.0)	⑤一部欠損	⑥黒色頁岩		49
215	J－1	2	打製石斧	①(8.5)	②(5.3)	③(2.2)	④(130.0)	⑤一部欠損	⑥頁岩		49
216	X111Y98	－	打製石斧	①(8.1)	②(6.0)	③(3.3)	④(150.0)	⑤一部欠損	⑥黒色頁岩		49
217	J－2	2	打製石斧	①(7.1)	②(5.5)	③(3.1)	④(110.0)	⑤一部欠損	⑥黒色頁岩		49
218	J－2	3	打製石斧	①10.5	②5.6	③2.4	④150.0	⑤完形	⑥黒色頁岩		49
219	J－4	5	打製石斧	①10.5	②5.2	③3.3	④180.0	⑤完形	⑥黒色頁岩		49
220	X109Y124G	－	打製石斧	①7.8	②3.2	③1.1	④31.8	⑤完形	⑥黒色頁岩		49
221	X123Y115G	－	打製石斧	①(4.2)	②(4.2)	③(1.2)	④(33.6)	⑤一部欠損	⑥黒色頁岩		49
222	X118Y122G	－	打製石斧	①11.3	②5.1	③1.5	④97.5	⑤完形	⑥黒色頁岩		49
223	X104Y98G	－	打製石斧	①11.5	②5.7	③1.3	④100.0	⑤完形	⑥頁岩		49
224	X119Y109G	－	打製石斧	①13.6	②4.3	③2.6	④160.0	⑤完形	⑥黒色頁岩		49
225	X104Y99G	－	打製石斧	①13.5	②5.7	③2.2	④240.0	⑤完形	⑥黒色頁岩		49
226	X131Y114G	－	打製石斧	①8.8	②3.6	③1.1	④43.8	⑤完形	⑥頁岩		50
227	X106Y117G	－	打製石斧	①(5.1)	②(4.2)	③(1.5)	④(38.2)	⑤一部欠損	⑥頁岩		50
228	X118Y122G	－	打製石斧	①(4.5)	②(3.0)	③(1.1)	④(22.2)	⑤一部欠損	⑥黒色頁岩		50
229	X110Y121G	－	打製石斧	①(6.8)	②(4.3)	③(1.2)	④(53.0)	⑤一部欠損	⑥黒色頁岩		50
230	X111Y123G	－	打製石斧	①(8.2)	②(4.5)	③(1.1)	④(48.0)	⑤一部欠損	⑥黒色頁岩		50
231	X100Y125G	－	打製石斧	①(6.4)	②(5.6)	③(2.1)	④(91.0)	⑤一部欠損	⑥黒色頁岩		50

備考	出土位置	登録番号	器種	①最大長(cm)	②最大幅(cm)	③最大厚(cm)	④重さ(g)	⑤残存	⑥石材	備考	Fig
232	X125Y123G	−	打製石斧	①(9.3)	②(5.2)	③(2.3)	④(100.0)	⑤一部欠損	⑥黒色頁岩		50
233	A区表採	−	打製石斧	①9.7	②4.3	③3.1	④140.0	⑤完形	⑥黒色頁岩		50
234	X128Y108G	−	打製石斧	①9.7	②4.8	③1.7	④77.5	⑤完形	⑥黒色頁岩		50
235	X125Y124G	−	打製石斧	①8.4	②5.7	③1.7	④89.0	⑤完形	⑥黒色頁岩		50
236	X122Y112G	−	打製石斧	①10.8	②5.1	③1.7	④110.0	⑤一部欠損	⑥黒色頁岩		50
237	X113Y124G	−	峰の黒石	②7.0	③4.8	③4.8	④320.0	⑤一部欠損	⑥粗粒安山岩		50
238	H−11	14	敲石	②6.4	③4.6	③4.6	④700.0	⑤完形	⑥粗粒安山岩		50
239	X120Y111G	−	敲石	②6.2	③3.7	③3.7	④400.0	⑤完形	⑥粗粒安山岩		50
240	X116Y126G	−	凹石	②8.1	③3.2	③3.2	④380.0	⑤一部欠損	⑥粗粒安山岩		50
241	X122Y117G	−	凹石	②6.0	③3.8	③3.8	④260.0	⑤完形	⑥粗粒安山岩		51
242	A区表採	−	凹石	②6.5	③4.6	③4.6	④560.0	⑤完形	⑥粗粒安山岩		51
243	J−3	−	磨石	②8.3	③3.9	③3.9	④600.0	⑤完形	⑥粗粒安山岩		51
244	X105Y98G	−	磨石	②6.1	③4.6	③4.6	④380.0	⑤一部欠損	⑥粗粒安山岩		51
245	X109Y99G	−	磨石	②8.6	③3.2	③3.2	④420.0	⑤完形	⑥粗粒安山岩	2面使用。	51
246	X105Y99G	−	板碑	②14.5	③1.6	③1.6	④960.0	⑤一部分	⑥結晶片岩		51

註) 1．縄文土器・土師器・須恵器の観察項目は、「①胎土②焼成③色調④残存」の順で記載した。

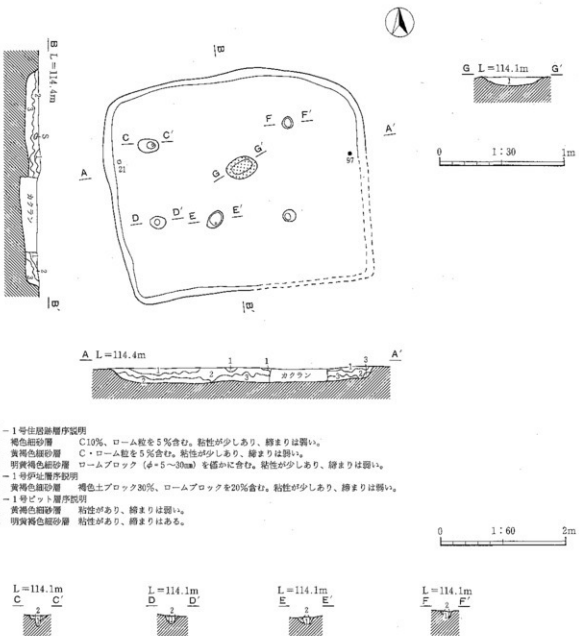
2．石器・石製品の観察項目は「①最大長②最大幅③最大厚④重さ⑤石材」の順で記載した。

3．①胎土は細粒（0.9㎜以下）、中粒（1.0㎜〜1.9㎜）、粗粒（2.0㎜以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合には、鉱物名を記載した。

②焼成は、「極良・良好・不良」の3段階で評価した。

③色調は土器外部を観察し、色名は新版標準土色帳２００１年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・(財)日本色彩研究所色票監修）によった。

④大きさの単位はcm・gであり、現存値を（　　）、復原値を〔　　〕で示した。その他の小片については所属部位を記載した。

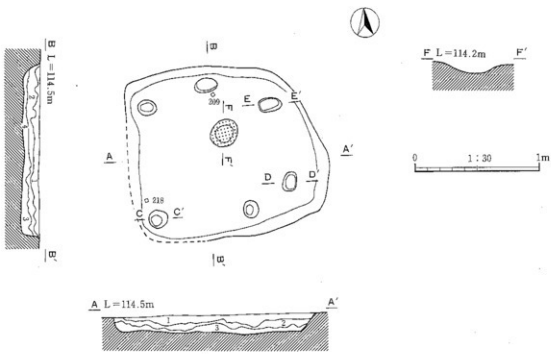


J－1号住居跡層序説明
1　褐色細砂層　　C10%、ローム粒を5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2　黄褐色細砂層　C・ローム粒を5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3　明黄褐色細砂層　ロームブロック（φ＝5～30mm）を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

J－1号炉址層序説明
1　黄褐色細砂層　　褐色土ブロック30%、ロームブロックを20%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

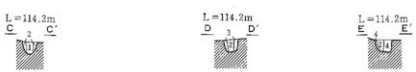
J－1号ピット層序説明
1　黄褐色細砂層　粘性があり、締まりは弱い。
2　明黄褐色細砂層　粘性があり、締まりはある。

Fig. 7　A区J－1号住居跡



J－2号住居跡層序説明

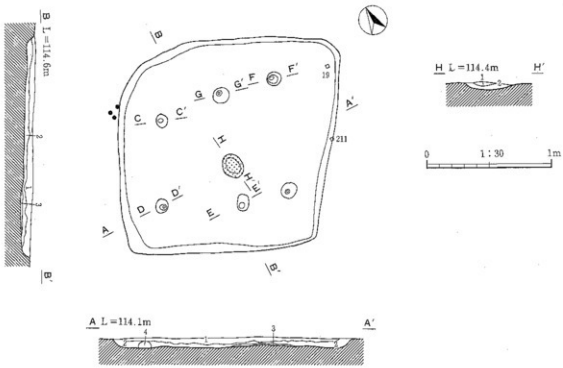
1 暗褐色細砂層　C10%、ローム粒20%、炭化物を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2 褐色細砂層　C僅か、ローム土を30%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3 黄褐色細砂層　ローム主体層。暗褐色土を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
4 明黄褐色細砂層　ハードローム層。粘性が少しあり、締まりはある。



J－2号柱穴層序説明

1 にぶい黄褐色細砂層　ローム粒を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
2 にぶい黄褐色細砂層　ローム土を10%含む。粘性・締まりともある。
3 黄褐色細砂層　ローム主体層。暗褐色土を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
4 明黄褐色細砂層　ハードローム層。粘性が少しあり、締まりはある。

Fig. 8　A区J－2号住居跡

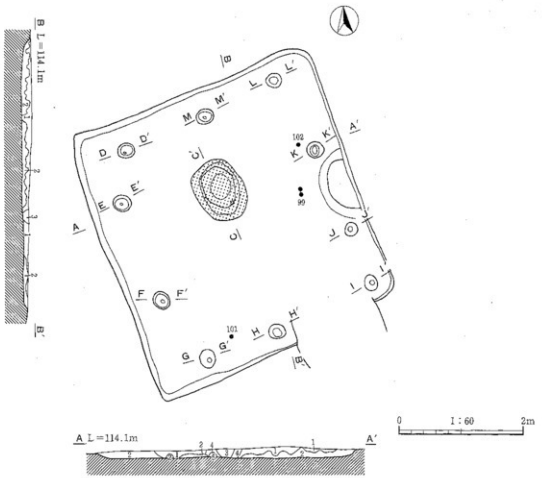


J－3号住居跡層序説明
1　にぶい黄褐色細砂層　ローム土25%、C 2 6%、ローム粒を10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2　黄褐色細砂層　ローム土15%、C・ローム粒を5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3　明黄褐色細砂層　ローム主体層。黄褐色土を5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
4　黄褐色細砂層　ローム主体層。ローム粒・炭化物を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。

J－3号炉址層序説明
1　明黄褐色細砂層　C・炭化物・ローム粒を僅かに含む。二層を10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2　褐色細砂層　炭化物を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

J－3号ピット層序説明
1　褐色細砂層　粘性があり、締まりは弱い。
2　褐色細砂層　粘性が少しあり、締まりはある。
3　黄褐色細砂層　粘性があり、締まりは弱い。
4　暗褐色細砂層　粘性・締まりともある。

Fig. 9　A区J－3郷住居跡

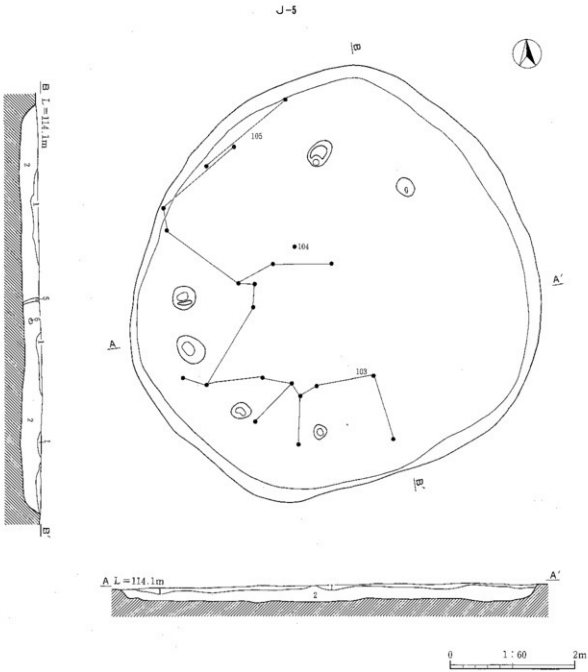


J－4号住居跡層序説明
1 褐色細砂層 C・焼土粒・炭化物を僅かに含む。粘性・締まりともある。
2 黄褐色細砂層 Cを僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3 暗赤褐色細砂層 C・焼土粒・炭化物を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
4 極暗赤褐色細砂層 焼土粒・炭化物を僅かに含む。粘性・締まりともある。
5 赤褐色細砂層 炉の壁（焼けた砧土の層）。粘性がなく、締まりはある。

J－4号炉址層序説明
1 褐色細砂層 焼土ブロック・炭化物を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
2 黄褐色細砂層 粘性・締まりともある。

J－4号ピット層序説明
1 褐色細砂層 黒色土ブロックを含む。粘性があり、締まりは弱い。
2 褐色細砂層 Cを僅かに含む。粘性・締まりともある。
3 黄褐色細砂層 粘性・締まりともある。

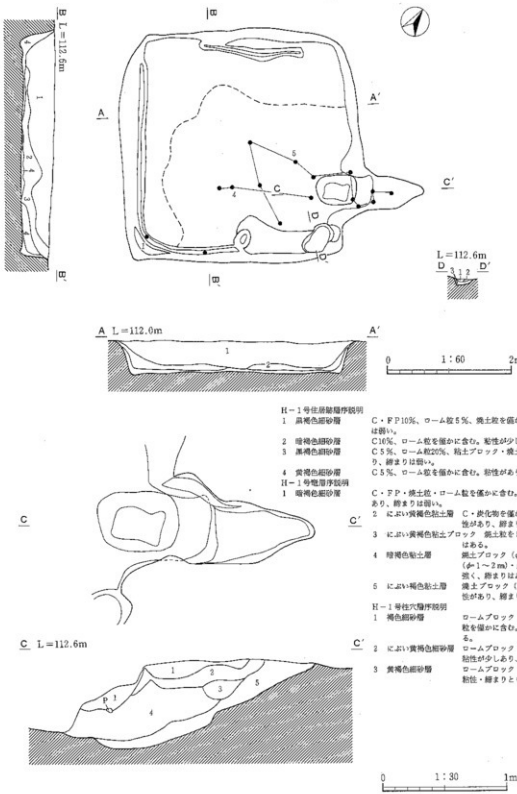
Fig.10 A区J－4号住居跡



J－5号住居跡層序説明

1	暗褐色掘砂層	C10%、ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	褐色掘砂層	As-BP5%・ローム粒を5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3	にぶい黄褐色掘砂層	As-BP・ローム粒を僅かに含む。粘性・締まりともある。
4	にぶい黄褐色掘砂層	As-BPを僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	黄褐色掘砂層	ローム主体層。ローム粒を10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

Fig.11　B区Ｊ－５号住居跡



H－1号住居跡層序説明

1 黒褐色細砂層　C・FP10%、ローム粒5%、焼土粒を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。

2 暗褐色細砂層　C10%、ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

3 黒褐色細砂層　C5%、ローム粒20%、粘土ブロック・焼土粒を5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

4 黄褐色細砂層　C5%、ローム粒を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。

H－1号竪穴層序説明

1 暗褐色細砂層　C・FP・焼土粒・ローム粒を僅かに含む。2層を10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

2 にぶい黄褐色粘土層　C・炭化物を僅かに含む。1層を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。

3 にぶい黄褐色粘土ブロック　焼土粒を5%含む。粘性が強く、締まりはある。

4 暗褐色粘土層　焼土ブロック（φ-2～5㎝）・ロームブロック（φ-1～2㎝）・炭化物を僅かに含む。粘性が強く、締まりはある。

5 にぶい褐色粘土層　焼土ブロック（φ-2～10㎝）を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。

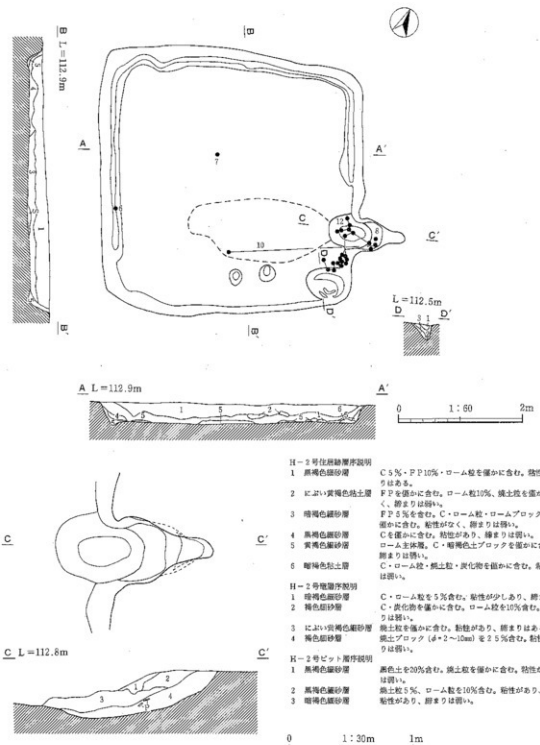
H－1号住穴層序説明

1 褐色細砂層　ロームブロック（φ-2～7㎝）を20%、焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。

2 にぶい黄褐色細砂層　ロームブロック（φ-1～2㎝）を5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。

3 黄褐色細砂層　ロームブロック（φ-2～5㎝）を50%含む。粘性・締まりともある。

Fig.12　B区H－1号住居跡



H－2号住居跡層序説明

1 黒褐色細砂層　C 5％・FP10％・ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。

2 にぶい黄褐色粘土層　FPを僅かに含む。ローム粒10％、焼土粒を僅かに含む。粘性がなく、締まりは弱い。

3 暗褐色細砂層　FP 5％を含む。C・ローム粒・ロームブロック（φ2～5㎜）を僅かに含む。粘性がなく、締まりは弱い。

4 黒褐色細砂層　Cを僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。

5 黄褐色細砂層　ローム主体層。C・暗褐色土ブロックを僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。

6 暗褐色粘土層　C・ローム粒・焼土粒・炭化物を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。

H－2号竈層序説明

1 暗褐色細砂層　C・ローム粒を5％含む。粘性が少しあり、締まりはある。

2 褐色細砂層　C・炭化物を僅かに含む。ローム粒を10％含む。粘性があり、締まりは弱い。

3 にぶい黄褐色細砂層　焼土粒を僅かに含む。粘性があり、締まりはある。

4 褐色細砂層　焼土ブロック（φ＝2～10㎜）を2～5％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

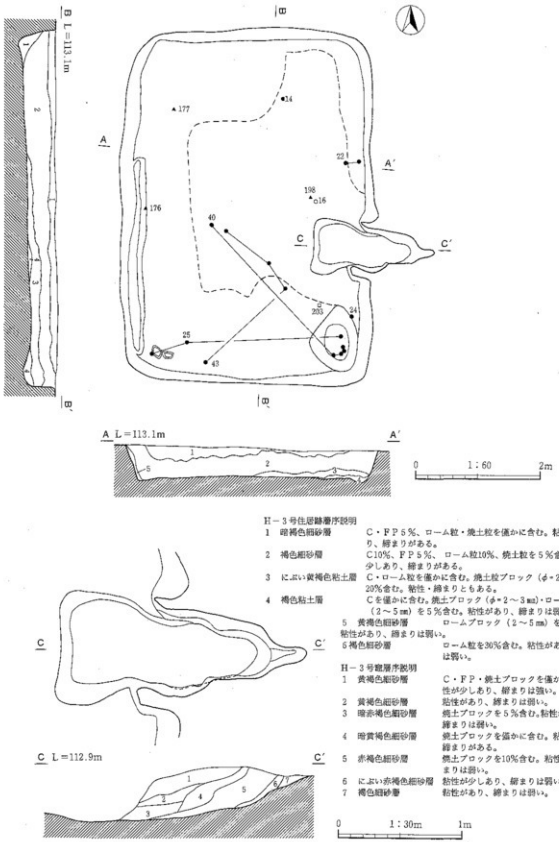
H－2号ピット層序説明

1 黒褐色細砂層　黒色土を30％含む。焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

2 黒褐色細砂層　焼土粒5％、ローム粒を10％含む。粘性があり、締まりは弱い。

3 暗褐色細砂層　粘性があり、締まりは弱い。

Fig.13　H－2号住居跡



H－3号住居跡事序説明

1 暗褐色細砂層　C・FP5%、ローム粒・焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりがある。

2 褐色細砂層　C10%、FP5%、ローム粒10%、焼土粒を5%含む。粘性が少しあり、締まりがある。

3 にぶい黄褐色粘土層　C・ローム粒を僅かに含む。焼土粒ブロック（φ＝2～5mm）を20%含む。粘性・締まりともある。

4 褐色粘土層　Cを僅かに含む。焼土ブロック（φ＝2～3mm）・ロームブロック（2～5mm）を5%含む。粘性があり、締まりは弱い。

5 黄褐色細砂層　ロームブロック（2～5mm）を20%含む。粘性があり、締まりは弱い。

6 褐色細砂層　ローム粒を30%含む。粘性があり、締まりは弱い。

H－3号竪穴序説明

1 黄褐色細砂層　C・FP・焼土ブロックを僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは強い。

2 黄褐色細砂層　粘性があり、締まりは弱い。

3 暗赤褐色細砂層　焼土ブロックを5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

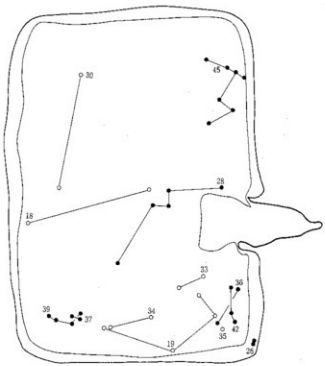
4 暗黄褐色細砂層　焼土ブロックを僅かに含む。粘性が強く、締まりがある。

5 赤褐色細砂層　焼土ブロックを10%含む。粘性が強く、締まりは弱い。

6 にぶい赤褐色細砂層　粘性が少しあり、締まりは弱い。

7 褐色細砂層　粘性があり、締まりは弱い。

Fig.14　H－3号住居跡



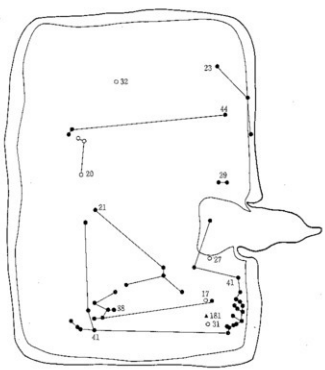
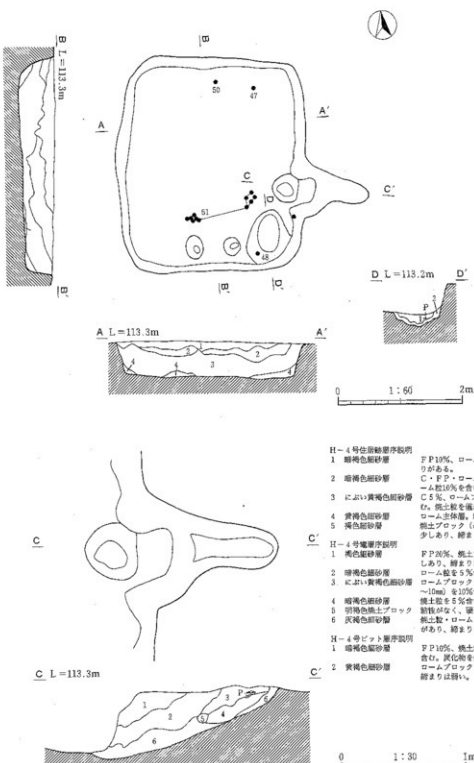


Fig.15　H－3号住居跡



H－４号住居跡層序説明

1	暗褐色細砂層	ＦＰ10%、ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりがある。
2	暗褐色細砂層	Ｃ・ＦＰ・ロームブロック（φ＝2～5㎜）を５％含む。ローム粒10％を含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3	によい黄褐色細砂層	Ｃ５％、ロームブロック（φ＝5～10㎜）・ローム粒を10％含む。焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
4	黄褐色細砂層	ローム主体層。粘性があり、締まりは弱い。
5	褐色細砂層	焼土ブロック（φ＝5㎜）・ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。

H－４号竈層序説明

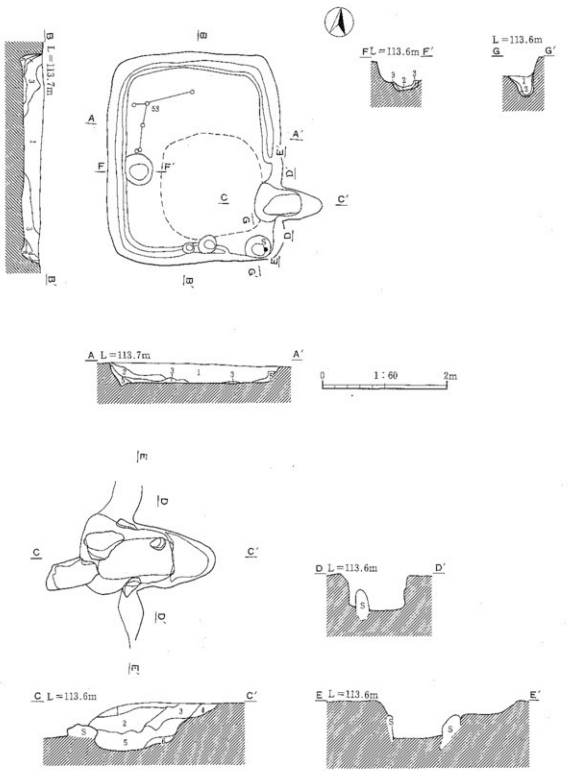
1	褐色細砂層	ＦＰ20%、焼土ブロック（φ＝5㎜）を５％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	暗褐色細砂層	ローム粒を５％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3	によい黄褐色細砂層	ロームブロック（φ＝2～5㎜）５％、焼土ブロック（φ＝5～10㎜）を10％含む。粘性が少しあり、締まりはある。
4	暗褐色細砂層	焼土粒を５％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
5	明褐色焼土ブロック	粘性がなく、硬く締まる。
6	灰褐色細砂層	焼土粒・ロームブロック（φ＝5～10㎜）を５％含む。粘性があり、締まりは弱い。

H－４号ピット層序説明

1	暗褐色細砂層	ＦＰ10%、焼土粒・ロームブロック（φ＝2～8㎜）を５％含む。灰化粒を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
2	黄褐色細砂層	ロームブロック（φ＝5～30㎜）を４０％含む。粘性があり、締まりは弱い。

Fig.16　Ｂ区Ｈ－４号住居跡

H-6



H－6 号住居跡整序説明

1	褐色細砂層	C10%、FP20%、焼土ブロック（φ＝1～5 mm）を5％含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	暗褐色細砂層	C10%、FP5％、ローム粒を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	にぶい黄褐色細砂層	C5％、ローム ブロック（φ＝2～5 mm）を10％含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	褐色細砂層	C・炭化物を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
5	黄褐色細砂層	C を僅かに含む。ローム ブロック（φ＝2～5 mm）を5％含む。粘性があり、締まりは弱い。

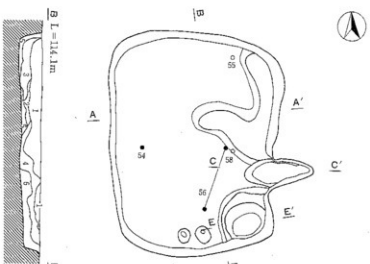
H－6 号焼酒序説明

1	暗褐色細砂層	C を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	にぶい黄褐色細砂層	C・焼土粒を僅か、ローム粒を5％含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	黒褐色細砂層	C・焼土粒・ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
4	褐色細砂層	焼土ブロック（φ＝2～5 mm）を20％含む。粘性が少しあり、締まりがある。
5	にぶい黄褐色粘土層	焼土ブロック（φ＝2～5 mm）を5％含む。炭化物を僅かに含む。粘性が強く、締まりは弱い。
6	褐色細砂層	焼土ブロック（φ＝2～5 mm）を20％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

H－6 号住穴層序説明

1	暗褐色細砂層	ローム粒を20％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	黄褐色細砂層	1層20％、ローム粒を20％含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	明褐色細砂層	ローム主体層。ローム ブロック（φ＝10mm）を10％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

Fig.17　B区H－6号住居跡

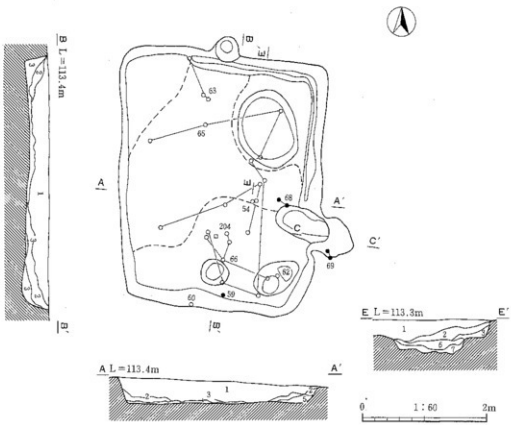


H－７号住居跡層序説明
1　暗褐色細砂層　C10%、FP・ローム粒を5%含む。焼土粒・黄褐色ローム土・3層土を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2　黒褐色細砂層　FP5%、ロームブロック（φ=2～5mm）を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3　暗褐色細砂層　焼土粒・ローム粒を5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
4　褐色細砂層　C10%、黄褐色ローム土20%、ローム粒30%、焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
5　暗褐色細砂層　黄褐色ローム土10%、焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
6　褐色細砂層　ロームブロック（φ=2～5mm）5%、焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。

H－７号竈層序説明
1　暗褐色細砂層　C10%、焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2　褐色細砂層　C・ローム粒5%、にぶい黄褐色焼土ブロック（φ=5～8mm）10%、焼土ブロック（1～2m）を5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3　褐色細砂層　ローム粒5%、焼土ブロック（φ=2～5mm）15%、焼土粒を僅かに含む。粘性・締まりともある。
4　褐色細砂層　C6%僅かに含む。焼土ブロック（φ=1～5mm）を10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
5　黒褐色細砂層　焼土粒を5%含む。粘性が少しあり、締まりはある。

H－７号柱穴層序説明
1　にぶい黄褐色細砂層　FPを僅か、ローム粒を5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
2　褐色細砂層　焼土粒を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3　暗褐色細砂層　極土粒・ローム粒を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
4　灰黄褐色粘土ブロック　粘性がなく、強く締まる。
5　褐色細砂層　焼土粒・ローム粒を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。

Fig.18　B区H－７号住居跡



H－8号住居跡堆積土層説明
1 暗褐色細砂層 C10%、焼土ブロック・ロームブロックを僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2 暗褐色細砂層 C5%、ロームブロックを僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3 褐色細砂層 ロームブロックを10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
4 褐色細砂層 Cを僅かに、ロームブロックを5%含む。粘性・締まりともある。
5 褐色細砂層 C・焼土ブロックを僅かに含む。粘性が強く、締まりはある。
6 にぶい黄褐色細砂層 焼土ブロック（φ＜5mm）5%、ロームブロック（φ＝2～5mm）を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
7 にぶい黄褐色細砂層 ロームブロック（φ＝10mm）を10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

H－8号竪穴序説明
1 赤褐色焼土ブロック 炭化物を僅かに含む。粘性がなく、締まりは弱い。
2 暗褐色細砂層 FPを僅かに、焼土粒を10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3 黒褐色細砂層 焼土粒を5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
4 褐色細砂層 焼土粒を10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
5 褐色細砂層 赤褐色焼土ブロックを10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
6 貧褐色細砂層 ローム主体層。粘性が少しあり、締まりは弱い。
7 暗褐色細砂層 焼土粒を5%含む。粘性があり、締まりは弱い。

H－8号住居跡貯蔵穴層序説明
1 暗褐色細砂層 C・焼土ブロックを僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはない。
2 褐色細砂層 Cを僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3 貧褐色細砂層 粘性が強く、締まりはある。

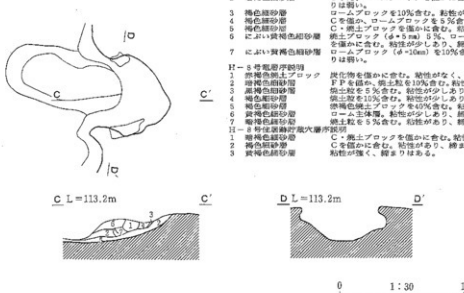
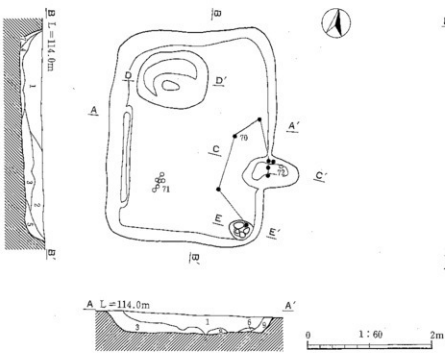
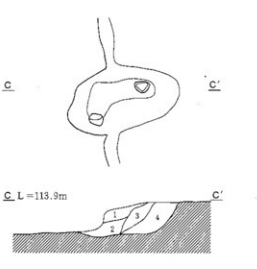


Fig.19 B区H－8号住居跡





H－9号住居跡層序説明

1	黒褐色細砂層	C20%、FP5%、ローム粒を10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	暗褐色細砂層	C10%、FP5%、焼土粒・ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3	暗褐色細砂層	FP・焼土粒・ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
4	にぶい黄褐色細砂層	ロームブロック（ϕ=2～5mm）を20%含む。粘性があり、締まりはある。
5	にぶい黄褐色細砂層	ロームブロック（ϕ=2～5mm）10%、ローム粒を5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
6	褐色細砂層	焼土ブロック（ϕ=1～2mm）10%、ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
7	明黄褐色細砂層	ローム主体層。ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
8	にぶい黄褐色粘土層	焼土粒を5%含む。粘性が強く、硬く締まる。
9	褐色細砂層	焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

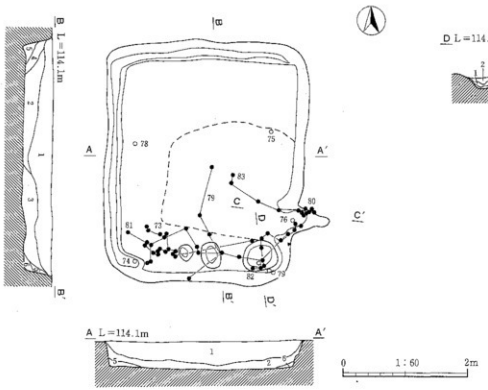
H－9号竈層序説明

1	暗褐色細砂層	FP・焼土ブロックを僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	暗褐色細砂層	焼土ブロックを5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3	褐色細砂層	FPを僅か、焼土ブロックを5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	極暗赤褐色細砂層	焼土ブロックを15%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

H－9号の床下土坑層序説明

1	黒褐色細砂層	Cを僅かに含む。粘性がなく、締まりはない。
2	暗褐色細砂層	ロームブロックを僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	褐色細砂層	粘性が強く、締まりは弱い。

Fig.20　B区H－9号住居跡



H－10号住居跡堆積土層説明

1	暗褐色細砂層	C20%、FP10%、ローム粒5%・焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	褐色細砂層	ローム粒を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	にぶい黄褐色細砂層	Cを僅かに含む。ロームブロック（φ=10mm）20%、焼土粒10%、ローム粒を5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
4	明黄褐色細砂層	ロームブロック（φ＝2～5mm）・ローム粒僅かに含む。粘性・締まりともある。
5	暗褐色細砂層	ロームブロック（φ＝2～5mm）10%、ローム粒を5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
6	黄褐色細砂層	ローム粒を20%を含む。粘性があり、締まりは弱い。

H－10号竪穴層序説明

1	暗褐色細砂層	C・FP5%、焼土粒・ローム粒僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	褐色細砂層	FPを5%、C・焼土粒・ロームブロック（φ＝5～6mm）を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3	にぶい褐色細砂層	C・ローム粒を僅かに含む。赤褐色焼土を10%含む。粘性がなく、緩く締まる。
4	暗褐色微砂層	C・ローム粒・焼土粒を僅かに含む。粘性があり、締まりはある。
5	褐色細砂層	C・ローム粒・焼土粒・炭化物を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
6	暗褐色微砂層	焼土ブロック（φ＝2～5mm）を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
7	黒褐色微砂層	焼土ブロック（φ＝1～7mm）を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。

H－10号柱穴層序説明

1	暗褐色細砂層	ローム粒を5%含む。焼土粒・炭化物を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
2	黒褐色細砂層	ローム粒・炭化物を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	褐色細砂層	黄褐色ローム土を30%を含む。粘性があり、締まりは弱い。

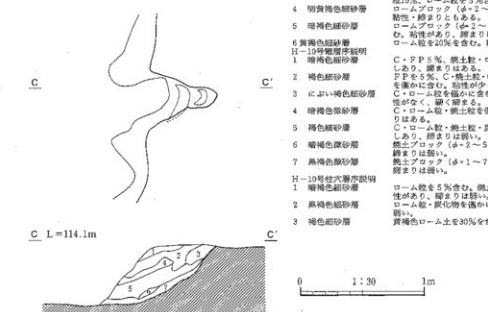
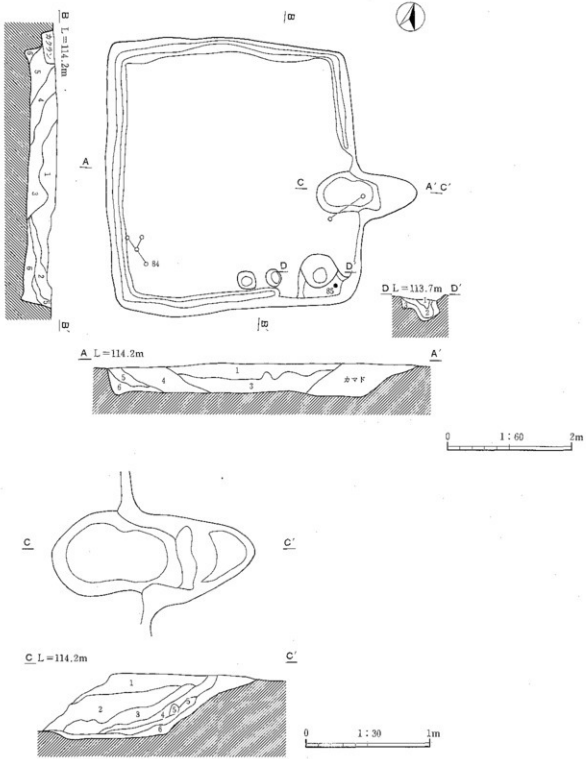


Fig.21　B区H－10号住居跡



H－11号住居跡堆序説明

1	黒褐色細砂層	FP10%、焼土粒5%、ローム粒を10%を含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2	暗褐色細砂層	FPを極かに含む。ロームブロック（φ=2～5mm）を10%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
3	黒褐色細砂層	FP10%、焼土粒・ローム粒・ロームブロック（φ=2～4mm）を5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
4	黒褐色細砂層	ロームブロック（φ=2～10mm）を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	黒褐色細砂層	ロームブロック（φ=2～5mm）を5%含む。粘性があり、締まりは弱い。
6	暗褐色細砂層	ローム粒を2.5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

H－11号竈堆序説明

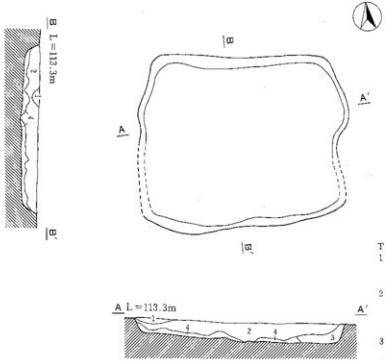
1	極暗褐色細砂層	C15%、焼土ブロック・ロームブロック僅か、灰土を15%含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2	極暗褐色細砂層	C10%、焼土ブロック・ロームブロック僅か、灰土を10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3	暗褐色細砂層	C5%、ロームブロックを僅かに含む。粘性・締まりともある。
4	暗褐色細砂層	C・焼土ブロックを僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
5	暗赤褐色細砂層	焼土ブロックを僅かに含む。粘性が強く、締まりはある。
6	赤褐色細砂層	焼土ブロックを15%含む。粘性が少しあり、締まりはある。

H－11号柱穴堆序説明

1	黒褐色細砂層	黄褐色ローム土を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
2	暗褐色細砂層	焼土ブロック（φ=1～2mm）・ローム粒を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。
3	褐色細砂層	2層土を5%、焼土ブロック（φ=5～10mm）・ローム粒5%、炭化物を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

Fig.22　B区H－11号住居跡

T-1



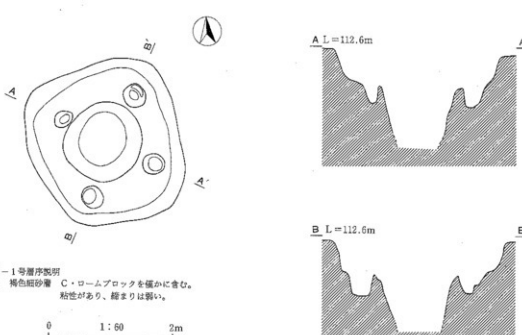
T－1号層序説明

1　にぶい黄褐色細砂層　C・ローム粒・焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。

2　褐色細砂層　C 5%、ローム粒10%・焼土粒・炭化物を僅かに含む。黄褐色のローム土を20%含む。粘性が少しあり、締まりはある。

3　暗褐色細砂層　C・ローム粒を10%含む。粘性があり、締まりは弱い。

4　黄褐色細砂層　C 5%、ロームブロック（φ=2～5㎝）を30%含む。粘性が少しあり、締まりはある。

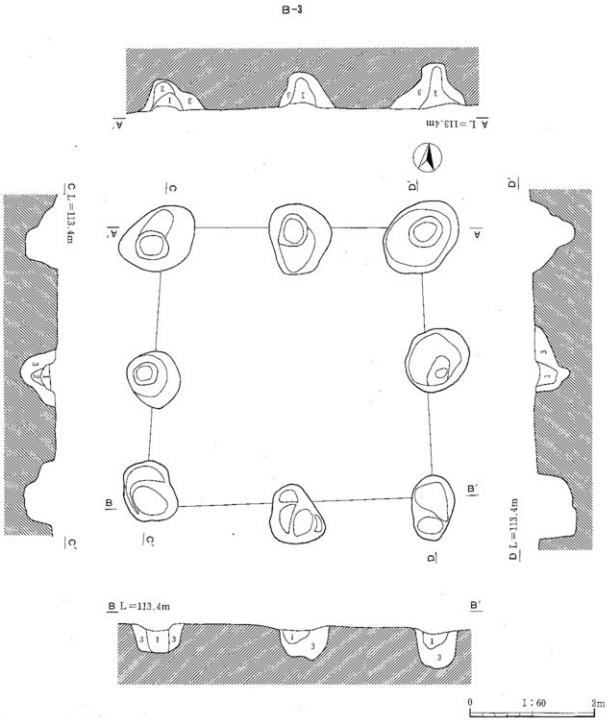


Ⅰ－1号層序説明

1　褐色細砂層　C・ロームブロックを僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。

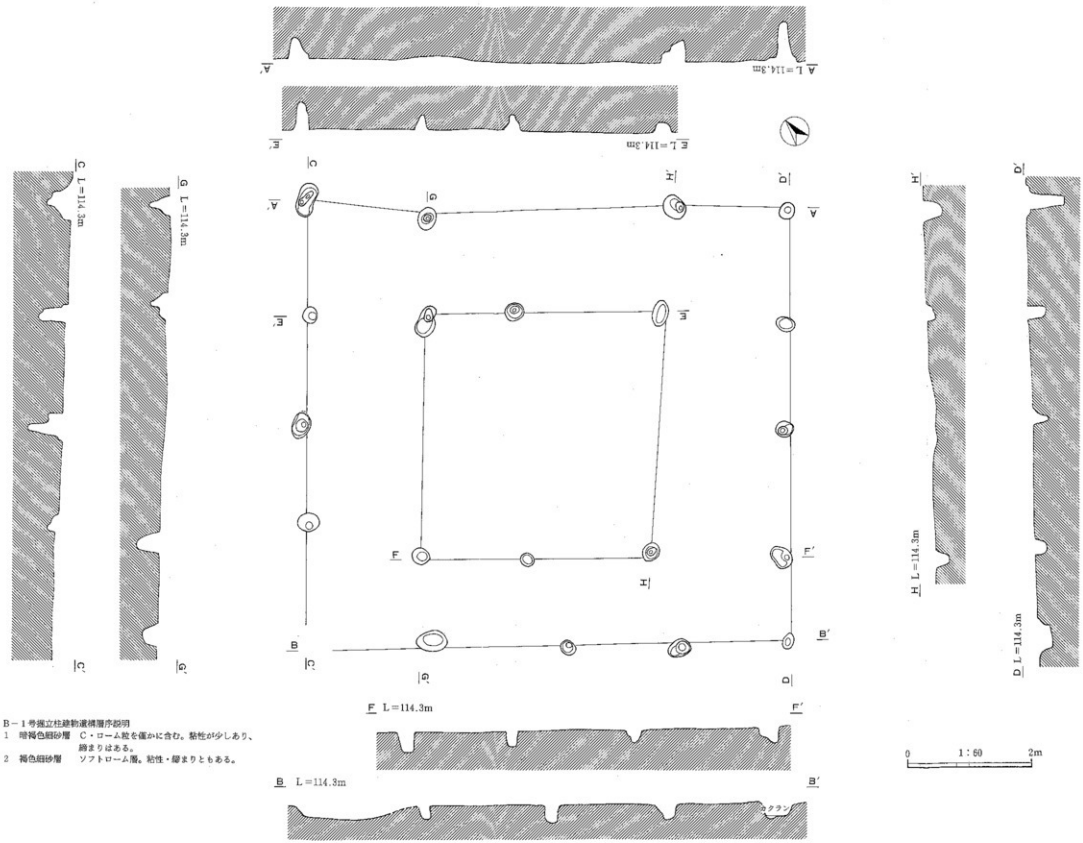
0　1:60　2m

Fig.23　B区T－1号竪穴状遺構、Ⅰ－1号井戸跡



B－3号掘立柱建物遺構層序説明
1　暗褐色細砂層　Cを5％、焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
2　暗褐色腐砂層　粘性・締まりともある。
3　褐色細砂層　ロームブックを5％含む。粘性・締まりともある。

Fig.24　B区B－3号掘建柱建物遺構

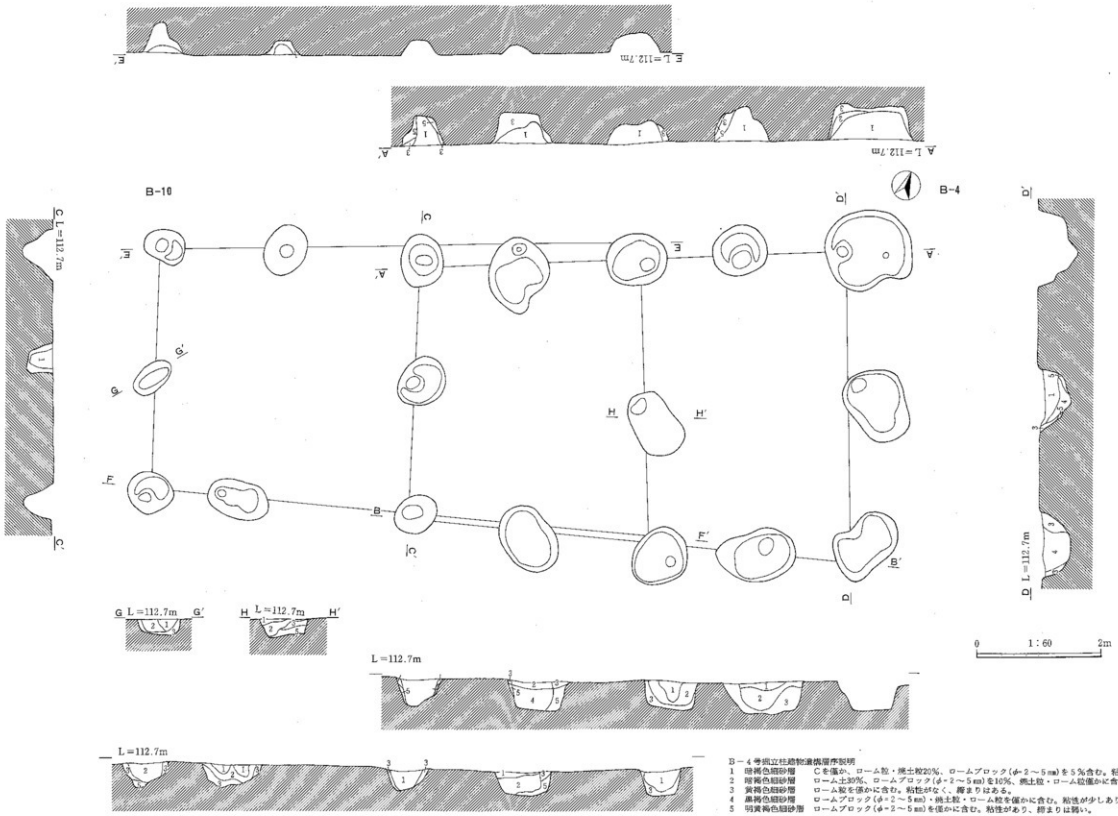


B－1号掘立柱建物遺構層序説明

1　暗褐色細砂層　C・ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。

2　褐色細砂層　ソフトローム層。粘性・締まりともある。

Fig.25　A区B－1号掘立柱建物遺構



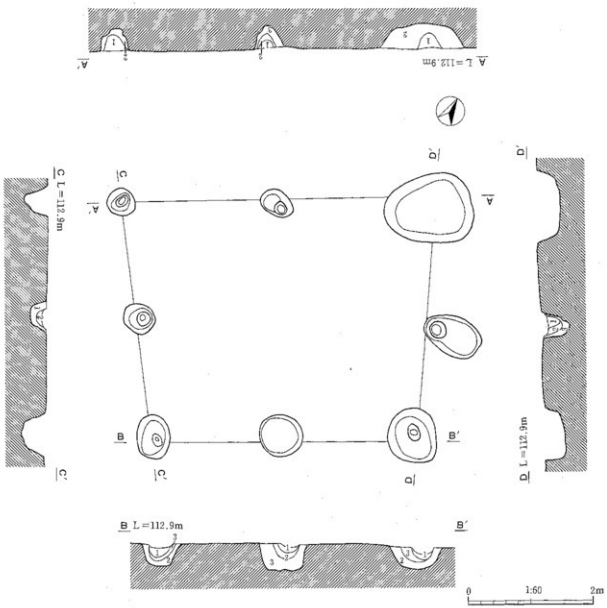
B－4号掘立柱建物遺構層序説明

1	暗褐色細砂層	Cを僅か、ローム粒・焼土粒20%、ロームブロック(φ=2～5mm)を5%含む。粘性が少しあり、締まりがない。
2	暗褐色細砂層	ローム土30%、ロームブロック(φ=2～5mm)を10%、焼土粒・ローム粒僅かに含む。粘性が少しあり、締まりがない。
3	黄褐色細砂層	ローム粒を僅かに含む。粘性がなく、締まりはある。
4	黒褐色細砂層	ロームブロック(φ=2～5mm)・焼土粒・ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりがない。
5	明黄褐色細砂層	ロームブロック(φ=2～5mm)を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。

B－10号掘立柱建物遺構層序説明

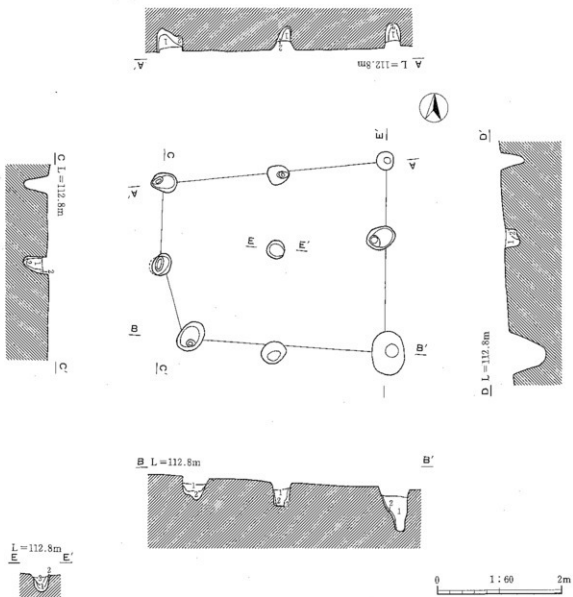
1	暗褐色細砂層	Cを僅か、ローム粒・焼土粒20%、ロームブロック(φ=2～5mm)を10%含む。粘性が少しあり、締まりがない。
2	暗褐色細砂層	ローム土30%、ロームブロック(φ=2～5mm)10%、焼土粒・ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはない。
3	黄褐色細砂層	ローム粒を僅かに含む。粘性がなく、締まりはある。
4	黒褐色細砂層	ロームブロック(φ=2～5mm)・焼土粒・ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはない。
5	明黄褐色細砂層	ロームブロック(φ=2～5mm)を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。

Fig.26　B区B－4・10号掘建柱建物遺構



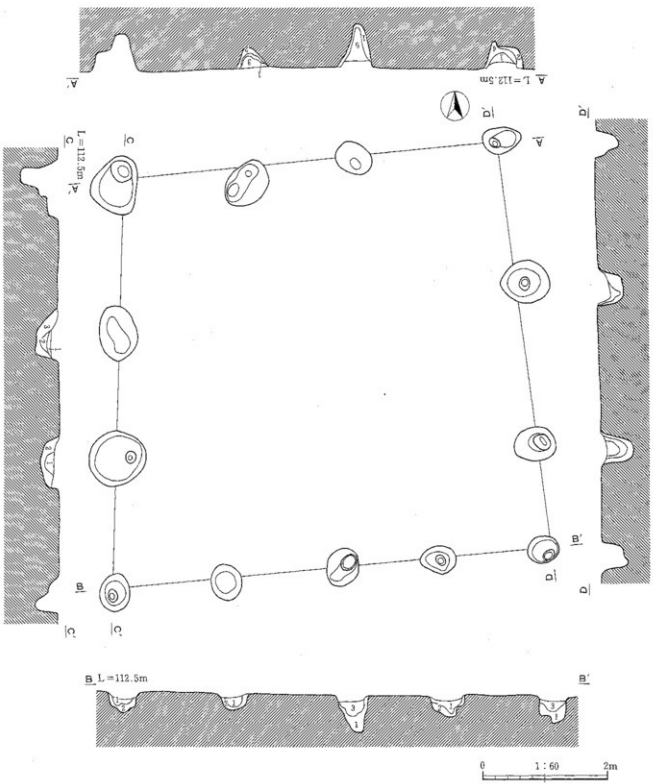
B－5号掘立柱建物遺構層序説明
1　黒褐色細砂層　C・ロームブロックを5％含む。粘性があり、締まりは弱い。
2　暗色細砂層　粘性があり、締まりは弱い。
3　暗褐色細砂層　粘性があり、締まりは弱い。

Fig.27　B区B－5号掘建柱建物遺構



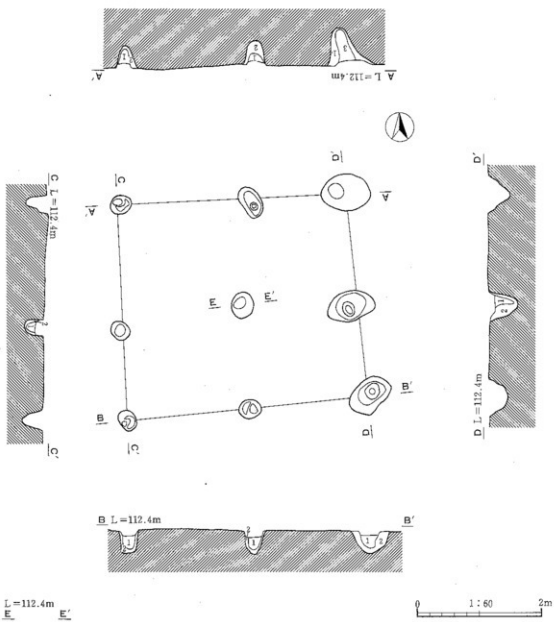
B－6号掘立柱建物遺構層序説明
1　暗褐色細砂層　Cを僅かに含む。粘性がなく、締まりは弱い。
2　褐色細砂層　Cを僅かに含む。粘性がなく、締まりはある。
3　黒褐色細砂層　粘性・締まりない。

Fig.28　B区B－6号掘建柱建物遺構



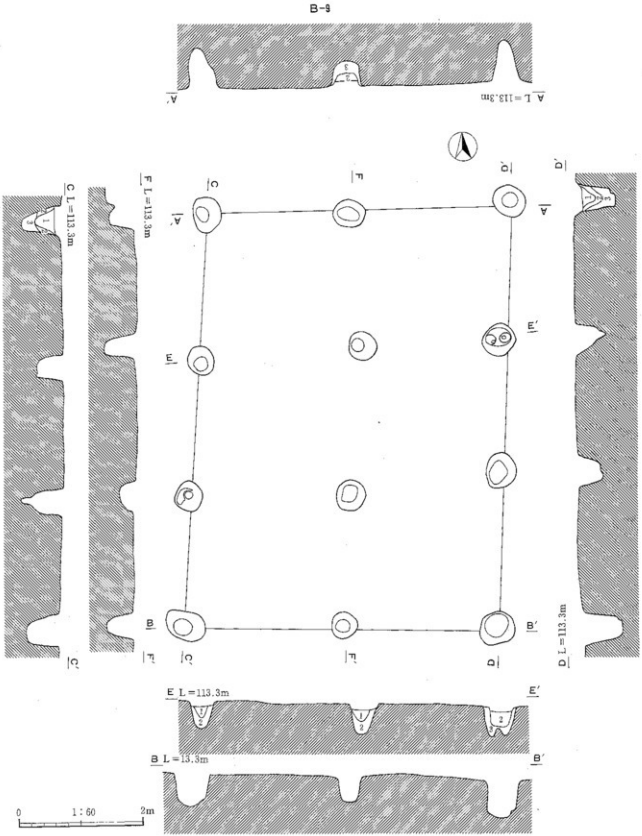
B－7号掘立柱建物遺構層序説明
1 暗褐色細砂層　粘性があり、締まりは弱い。
2 褐色細砂層　粘性があり、締まりは弱い。
3 黒褐色細砂層　Cを僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。
4 褐色細砂層　黒褐色細砂層を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりはある。
5 黒褐色細砂層　C・ロームブロックを僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。

Fig.29　B区B－7号掘建柱建物遺構



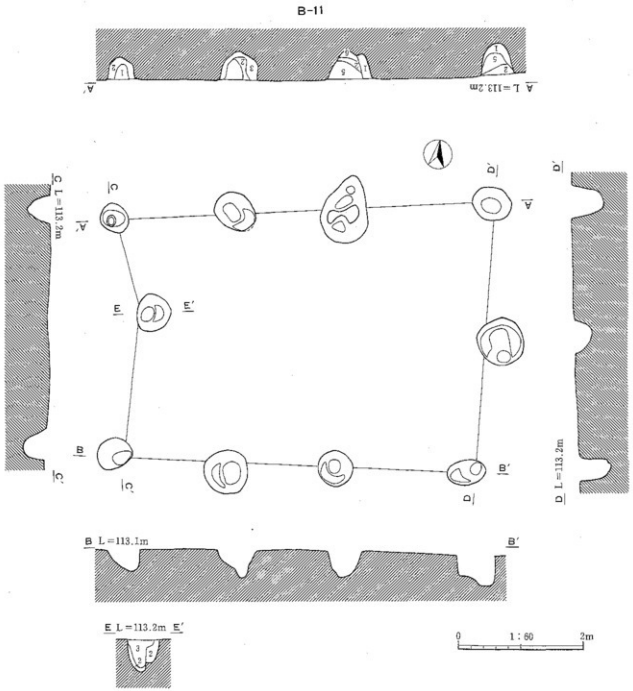
B－8号掘立柱建物遺構層序説明
1　褐色細砂層　粘性が少しあり、締まりは弱い。
2　黄褐色細砂層　粘性・締まりともある。
3　暗褐色細砂層　C5%、ローム土を10%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

Fig.30　B区B－8号掘建柱建物遺構



B－9号掘立柱建物遺構層序説明
1　暗褐色腐砂層　C5%、ローム粒を僅かに含む。粘性がなく、締まりは弱い。
2　褐色腐砂層　ローム粒10%、ロームブロック20%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3　黄褐色腐砂層　ローム主体層。粘性が少しあり、締まりはある。

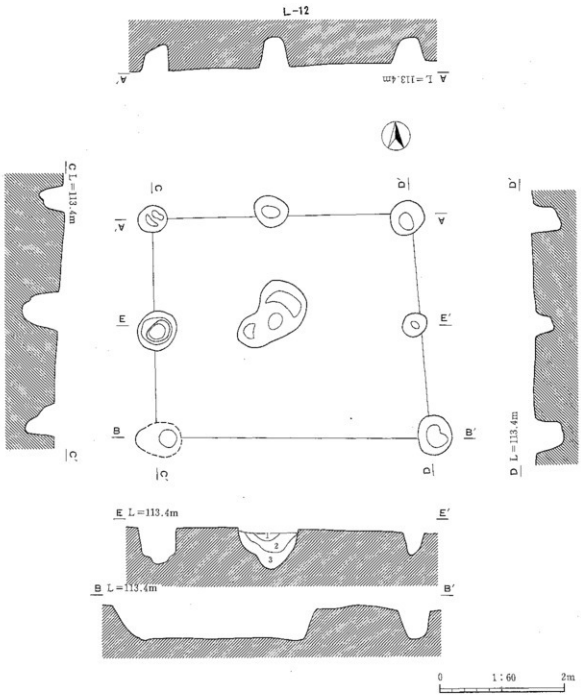
Fig.31　B区B－9号掘建柱建物遺構



B－11号掘立柱建物遺構層序説明

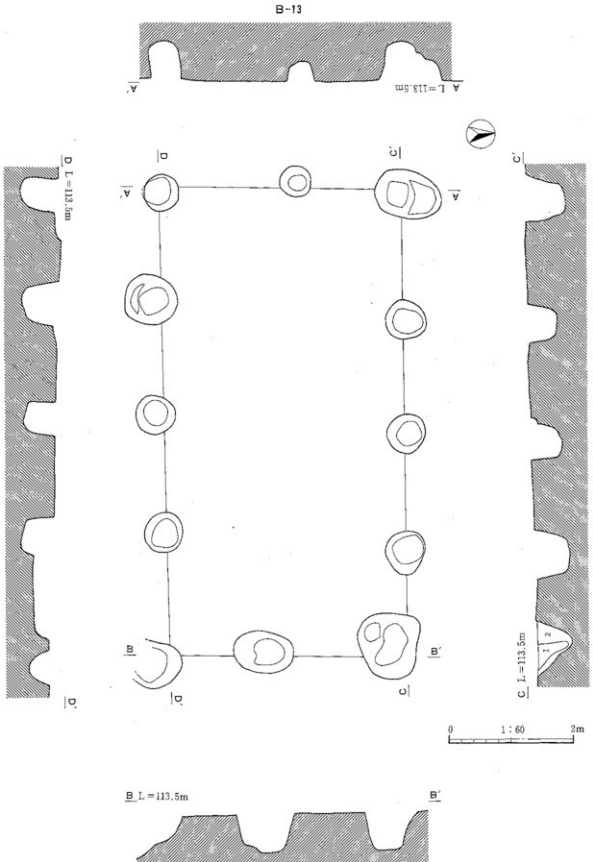
1　褐色細砂層　　粘性が少しあり、締まりはある。
2　暗褐色細砂層　粘性が少しあり、締まりは弱い。
3　褐色細砂層　　C・ロームブロックを僅かに含む。粘性がなく、締まりはある。
4　暗褐色細砂層　Cを僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
5　明黄褐色細砂層　粘性があり、締まりはない。

Fig.32　B区B－11号掘建柱建物遺構



B－12号P9層序説明
1　暗褐色細砂層　　ロームブロック（φ=20m）を5％含む。粘性が少しあり、締まりは普い。
2　暗褐色細砂層　　FP10％、ロームブロック（φ=30m）を僅か、ローム粒（φ=5～10m）を5％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3　灰黄褐色細砂層　ローム粒を20％含む。粘性があり、締まりは普い。

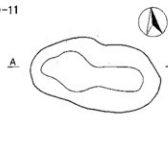
Fig.33　B区B－12号掘建柱建物遺構



B－13号掘立柱建物遺構層序説明
1　黒褐色細砂層　C５%、FP20%、ローム粒を５%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
2　暗褐色細砂層　C10%、FP10%、ロームブロック（φ=10~20mm）を10%、ローム粒を20%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

Fig.34　B区B－13号掘建柱建物遺構

D-11



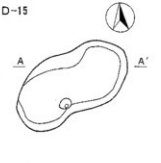
D－11号土坑層序説明

1　褐色細砂層　C 5％、炭化物・ローム粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

2　黄褐色細砂層　C・焼土粒・ローム粒・炭化物を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

3　明黄褐色細砂層　乳草色粒を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。

D-15



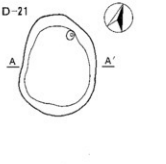
D－15号土坑層序説明

1　黒褐色細砂層　C10％、ローム粒5％、炭化物・焼土粒を僅かに含む。粘性がなく、締まりはある。

2　明黄褐色細砂層　ローム土体層。黒色土を10％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

3　明黄褐色細砂層　ローム土体層。粘性が強く、締まりはある。

D-21



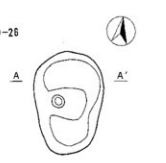
D－21号土坑層序説明

1　暗褐色細砂層　C10％、焼土粒を僅か、ローム粒・炭化物を5％含む。粘性が少しあり、硬く締まる。

2　黄褐色細砂層　ローム土体層。C を30％含む。粘性が少しあり、硬く締まる。

3　黄褐色細砂層　ローム土体層。C を30％含む。粘性があり、締まりは弱い。

D-26

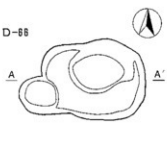


D－26号土坑層序説明

1　暗褐色細砂層　C・ローム粒5％、焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

2　黄褐色細砂層　ローム粒5％、焼土粒を僅かに含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

D-66



D－66号土坑層序説明

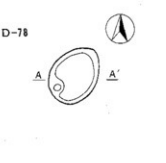
1　黒褐色細砂層　FP30％、ロームブロック（ϕ＝5～10mm）を僅か、ローム粒を5％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

2　暗褐色細砂層　FP10％、焼土ブロック（ϕ＝2～10mm）5％、黄褐色ローム土を10％含む。粘性が少しあり、締まりはある。

3　褐色細砂層　ローム粒5％、ロームブロック（ϕ＝5mm）を僅かに含む。粘性があり、締まりは弱い。

4　黄褐色細砂層　ローム土体層。粘性があり、締まりは弱い。

D-78

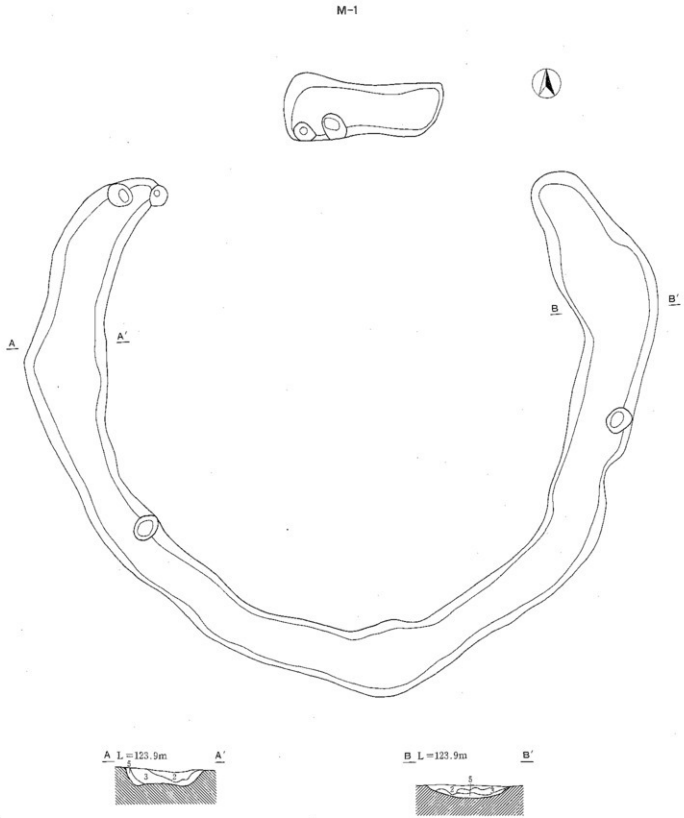


D－78号土坑層序説明

1　黒褐色細砂層　FP・ローム粒・黄褐色ローム土を5％含む。粘性がなく、締まりは弱い。

2　褐色細砂層　1層を10％含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

Fig.35　土坑



M－1号墳序説明

1　表土
2　暗褐色細砂層　C・FPを僅かに含む。ローム粒・ローム土を20%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。
3　褐色細砂層　C・ローム粒を5%を含む。粘性があり、締まりは弱い。
4　褐色細砂層　C・ローム粒を5%、ロームブロックを30%含む。粘性があり、締まりは弱い。
5　黄褐色細砂層　ローム主体層。ローム粒を5%含む。粘性が少しあり、締まりは弱い。

Fig.36　B区M－1号古墳

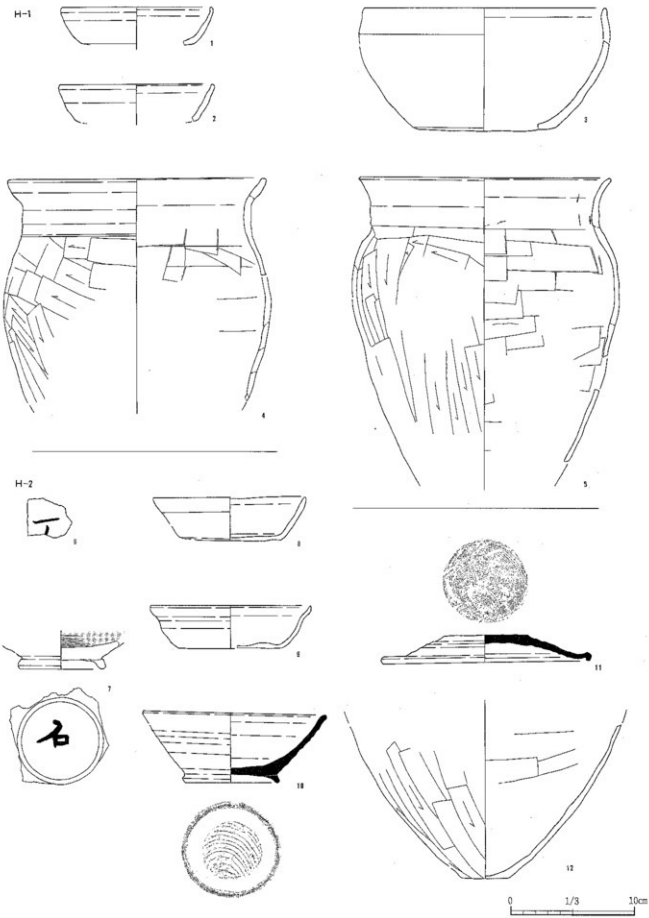


Fig.37　B区H－1・2号住居跡出土の土器

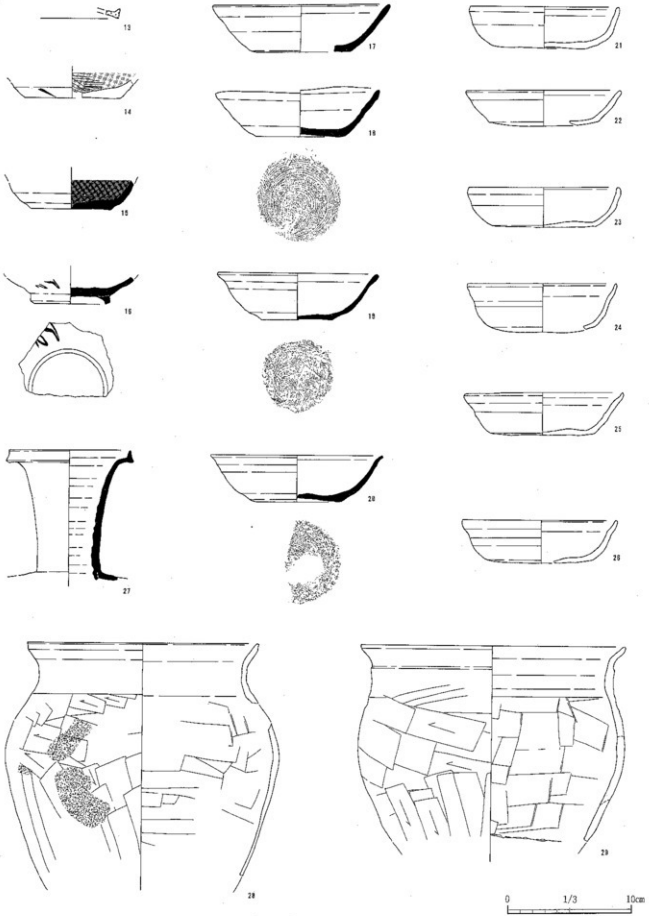


Fig.38　B区H－3号住居跡出土の土器

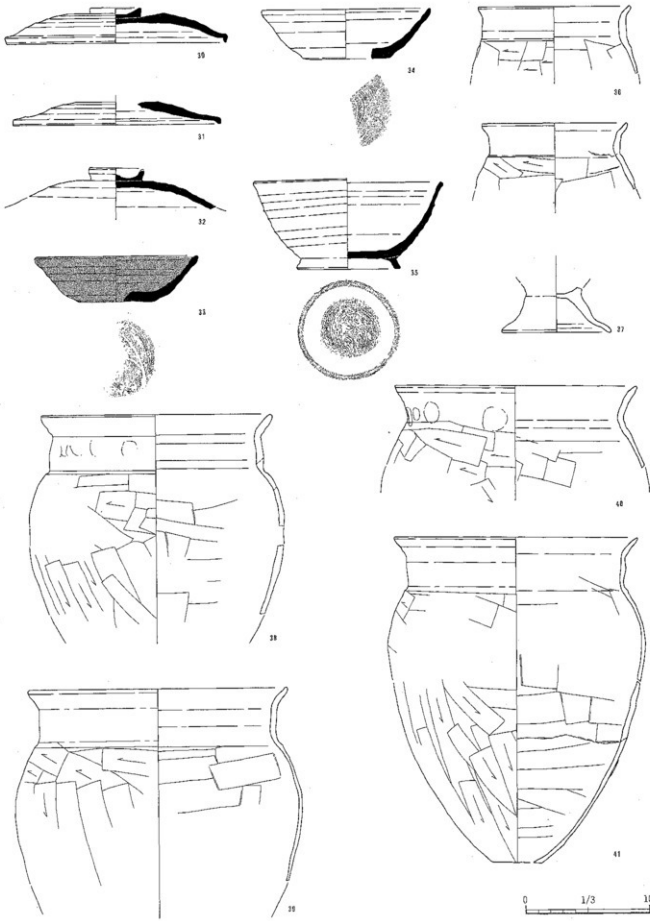


Fig.39　B区H－3号住居跡出土の土器

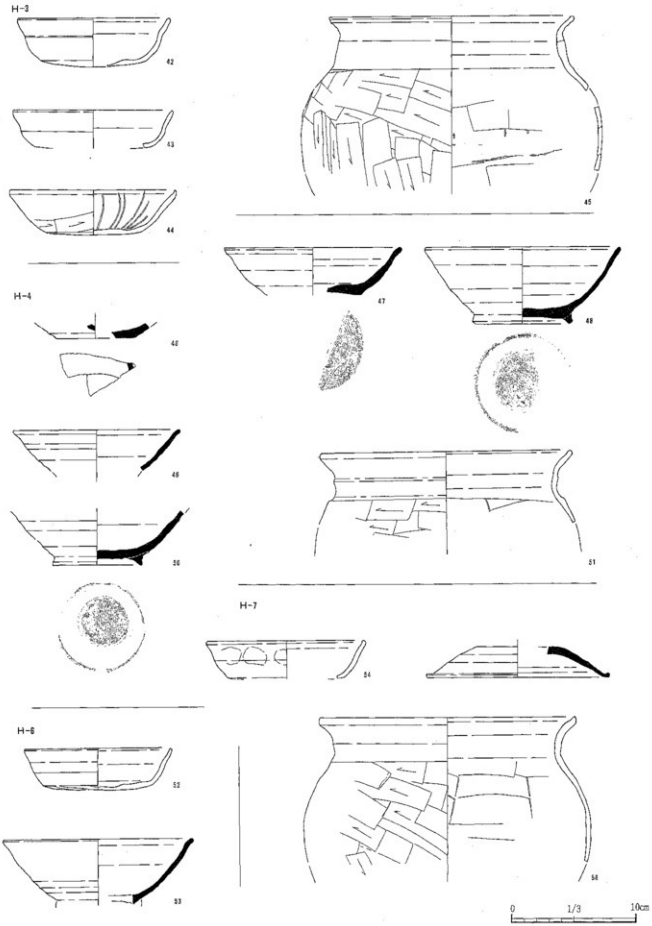


Fig.40　B区H－3・4・6・7号住居跡出土の土器

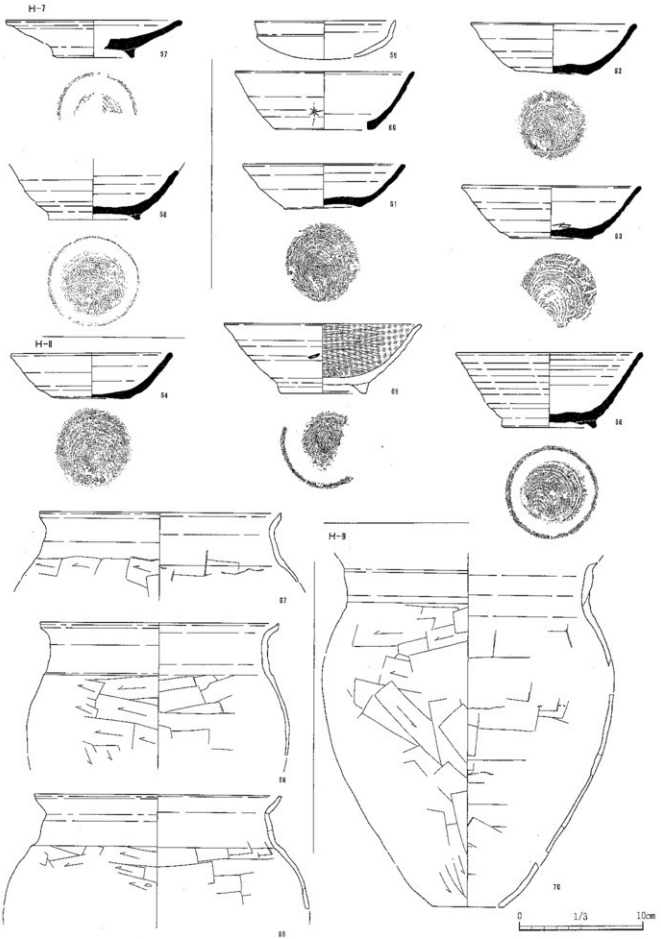


Fig.41　B区H－7・8・9号住居跡出土の土器

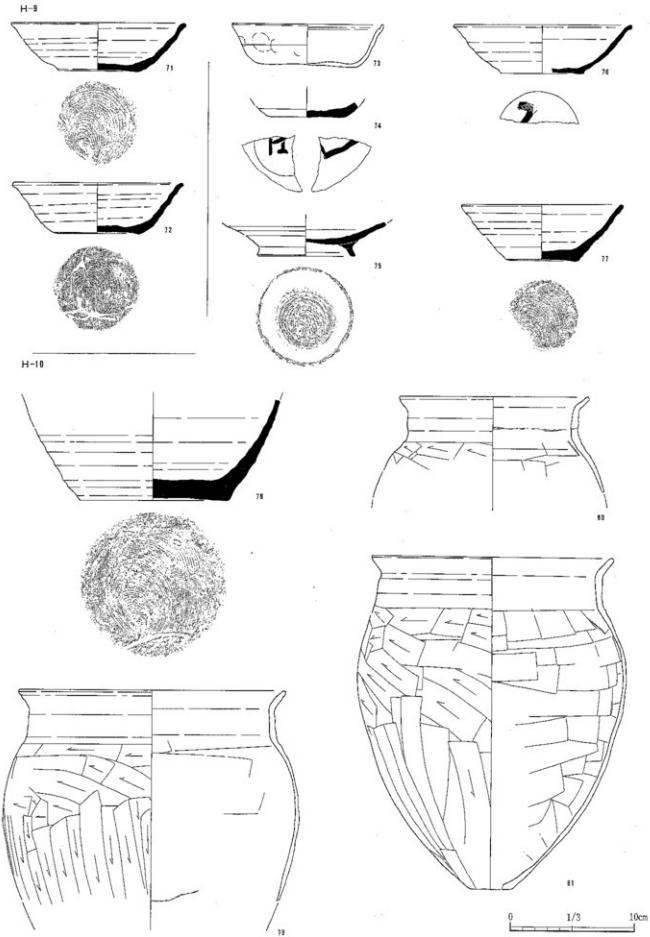


Fig.42　B区H－９・１０号住居跡出土の土器

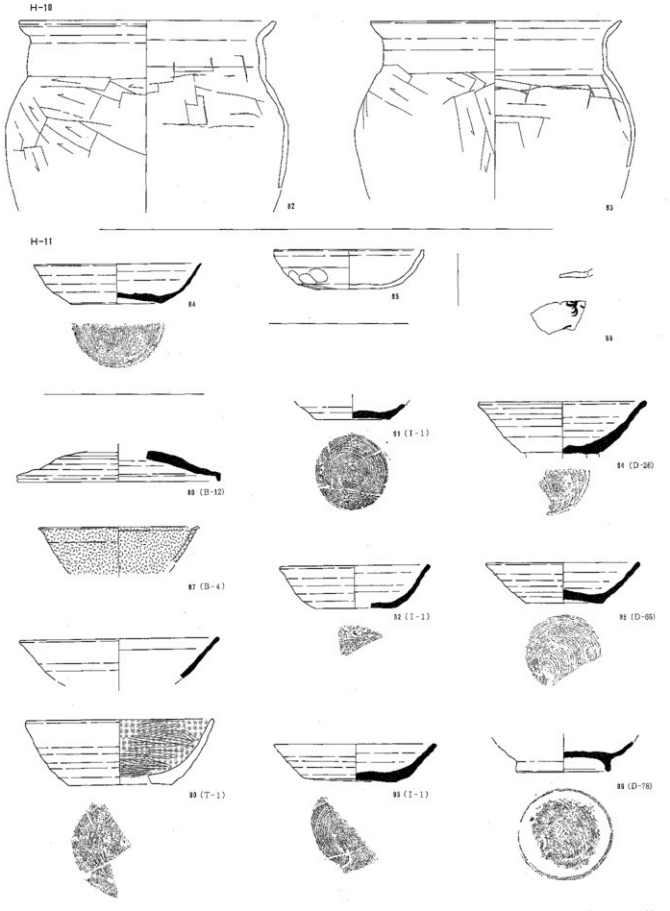


Fig.43　B区H－10・11号住居跡、B－4・12号掘建柱建物遺構
T－1号竪穴状遺構、B区I－1号井戸跡、D－26・66・78号土坑出土の土器

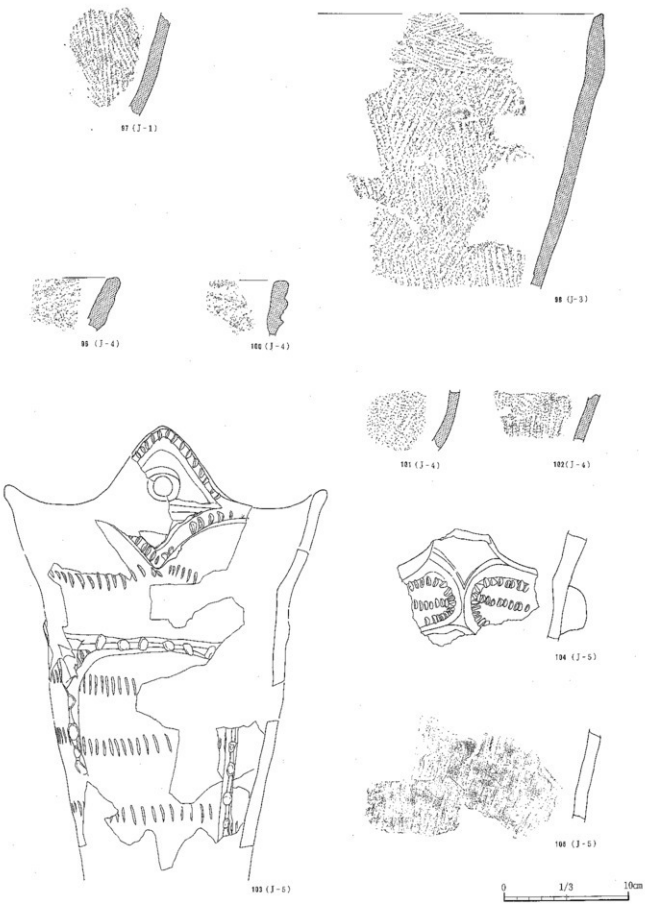


Fig.44 J－1・3・4・5号住居跡出土の土器

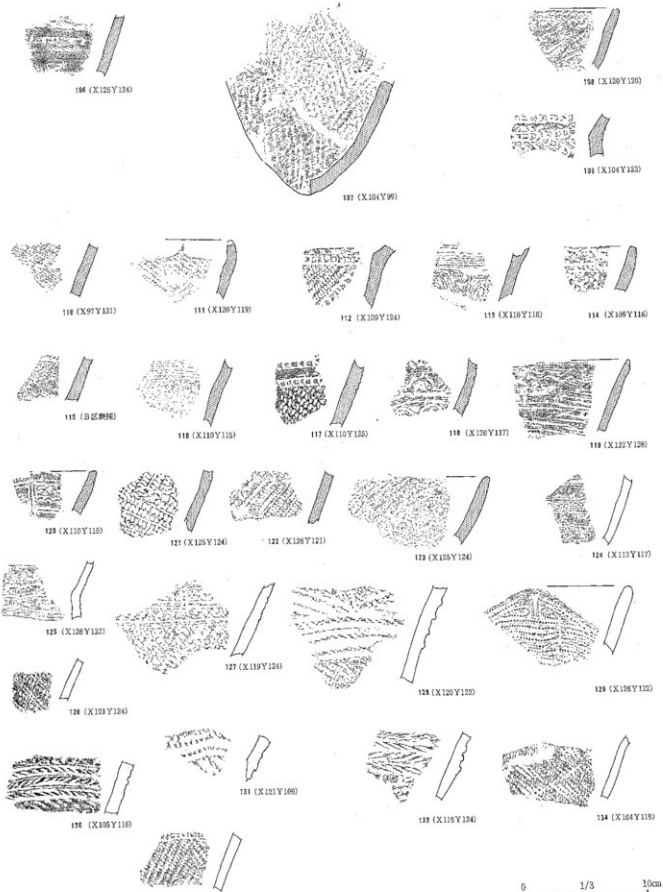

106 (X125Y124)
107 (X104Y96)
108 (X120Y126)
109 (X104Y123)
110 (X97Y121)
111 (X120Y119)
112 (X109Y124)
113 (X110Y116)
114 (X106Y116)
115 (B区側掘)
116 (X110Y115)
117 (X110Y125)
118 (X120Y117)
119 (X122Y128)
120 (X110Y116)
121 (X125Y124)
122 (X126Y121)
123 (X125Y124)
124 (X112Y117)
125 (X126Y122)
126 (X101Y124)
127 (X119Y124)
128 (X120Y122)
129 (X126Y122)
130 (X105Y116)
131 (X121Y109)
132 (X115Y124)
134 (X104Y119)
132 (X113Y125)
0 1/3 10cm

Fig.45 縄文土器

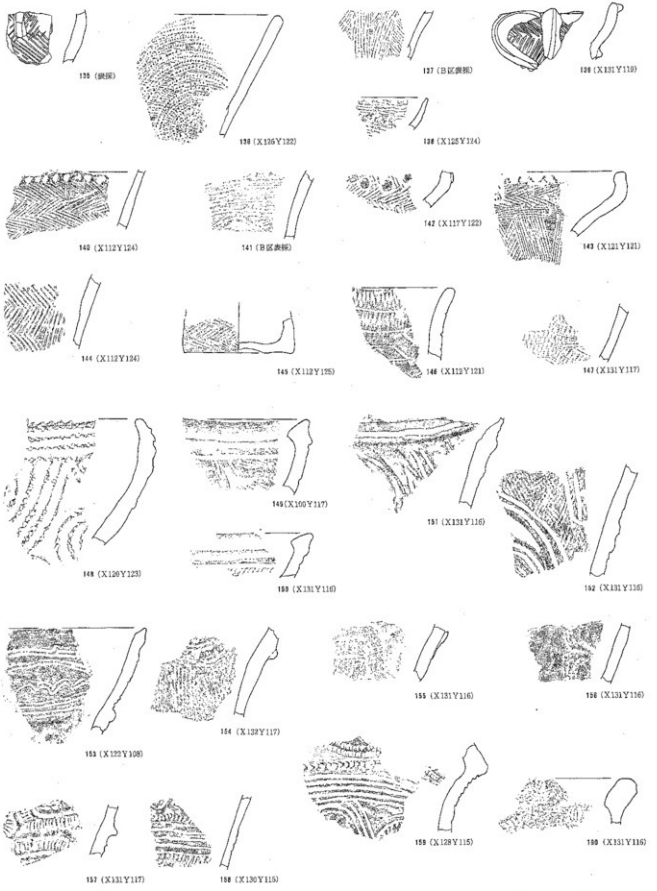

135 (表採)
136 (X126Y122)
137 (B区表採)
138 (X125Y124)
139 (X131Y119)
140 (X112Y124)
141 (B区表採)
142 (X117Y122)
143 (X121Y121)
144 (X112Y124)
145 (X112Y125)
146 (X113Y123)
147 (X131Y117)
148 (X120Y123)
149 (X100Y117)
150 (X131Y116)
151 (X131Y116)
152 (X131Y116)
153 (X122Y108)
154 (X132Y117)
155 (X131Y116)
156 (X131Y116)
157 (X131Y117)
158 (X130Y115)
159 (X128Y115)
160 (X131Y116)
0
1/3
10cm

Fig.46 縄文土器

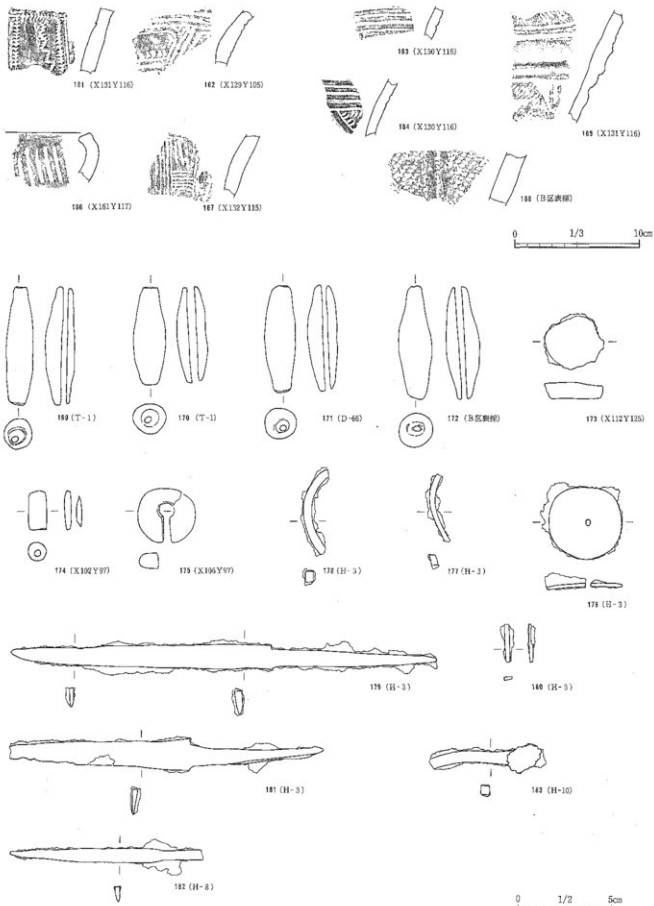


Fig.47 縄文土器、土製品、玉類、鉄製品

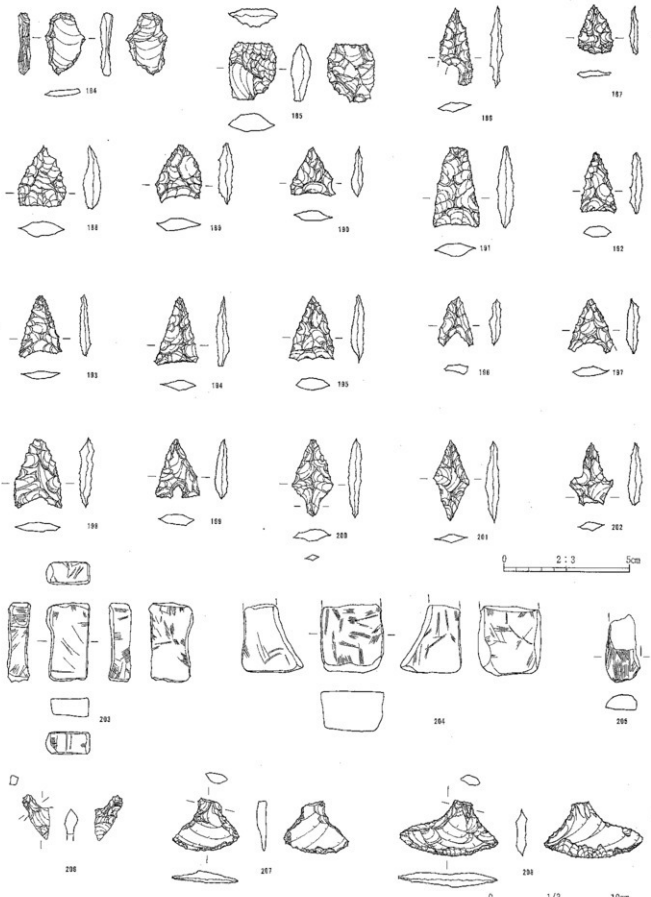

184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
0 2:3 5cm
203
204
205
206
207
208
0 1/3 10cm

Fig.48 石器、石製品

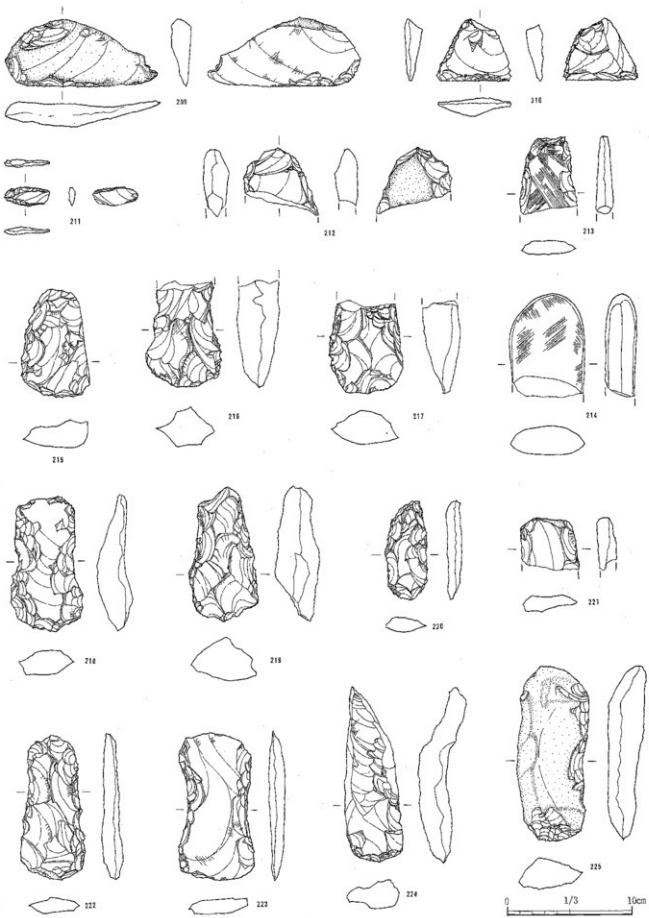


Fig.49 石器

Fig.50 石器

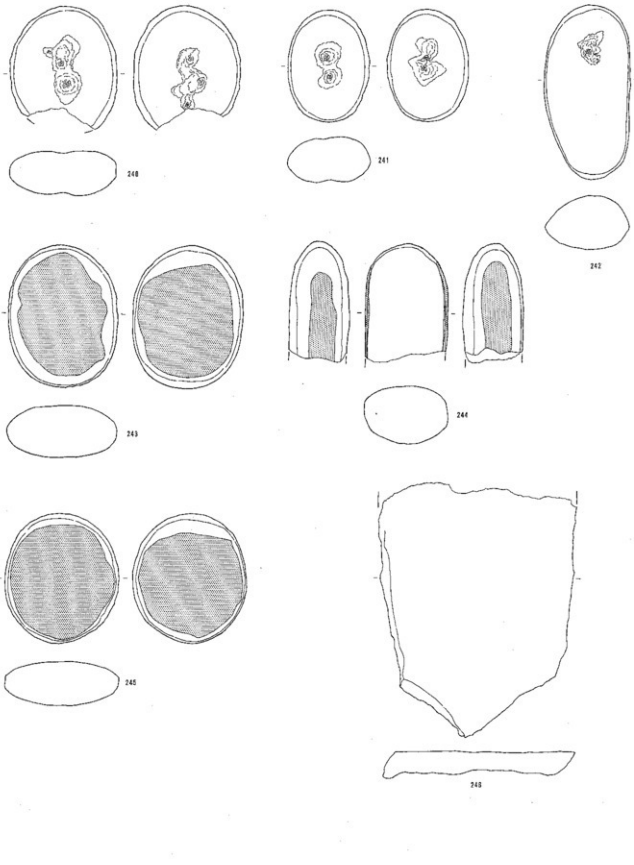
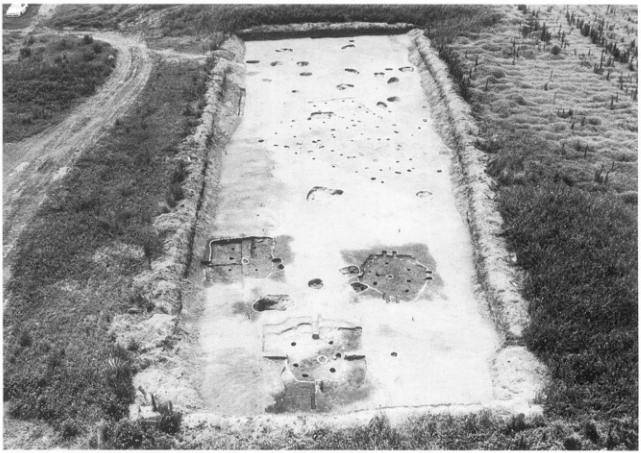
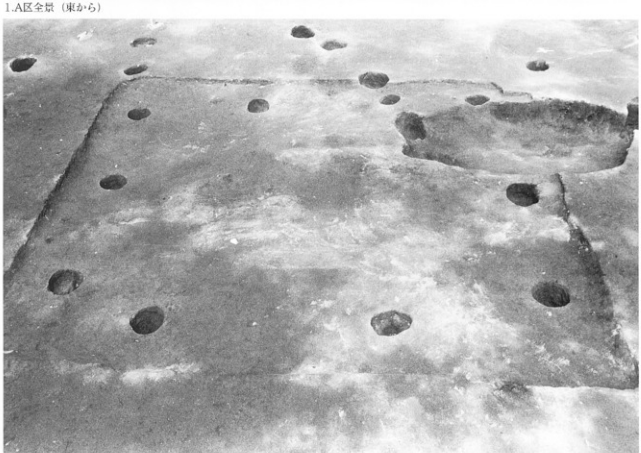


Fig.51 石器、石製品

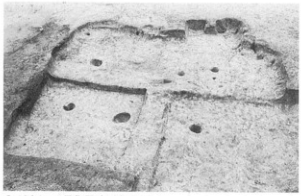


1.A区全景（東から）



2.A区Ｊ－4号住居跡（西から）

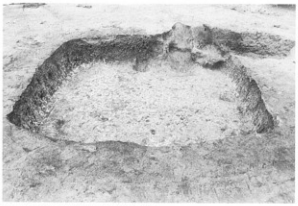
PL.2



3.A区Ｊ－1号住居跡（南から）

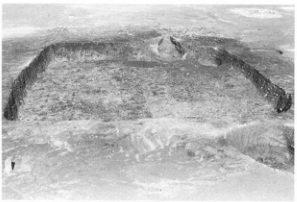
4.A区Ｊ－2号住居跡（南から）

5.A区Ｊ－3号住居跡（北から）



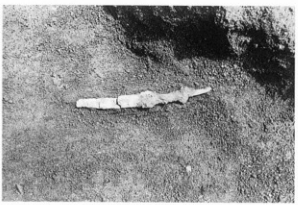
6.B区Ｈ－1号住居跡（西から）

7.B区Ｈ－1号住居跡竈（西から）



8.B区Ｈ－2号住居跡（西から）

9.B区Ｈ－3号住居跡遺物出土状態（西から）



10.B区Ｈ－3号住居跡遺物出土状態（西から）

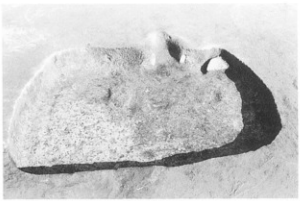
11.B区H－3号住居跡（西から）

12.B区H－4号住居跡（西から）

13.B区H－4号住居跡竈（西から）

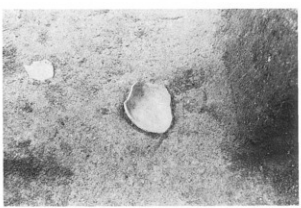
14.B区H－6号住居跡（西から）

15.B区H－6号住居跡竈（西から）

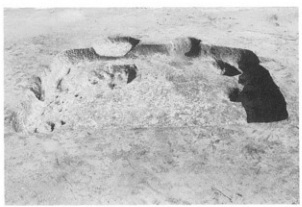


16. B区H－7号住居跡（西から）

17. B区H－7号住居跡竈（西から）

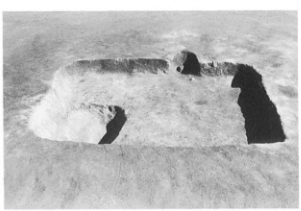


18. B区H－7号住居跡遺物出土状態（東から）



19. B区H－8号住居跡（西から）

20. B区H－8号住居跡遺物出土状態（南から）



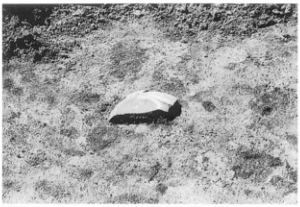
21. B区H－9号住居跡（西から）

22. B区H－9号住居跡遺物出土状態（南から）

23. B区H－10号住居跡（西から）

24. B区H－10号住居跡遺物出土状態（西から）

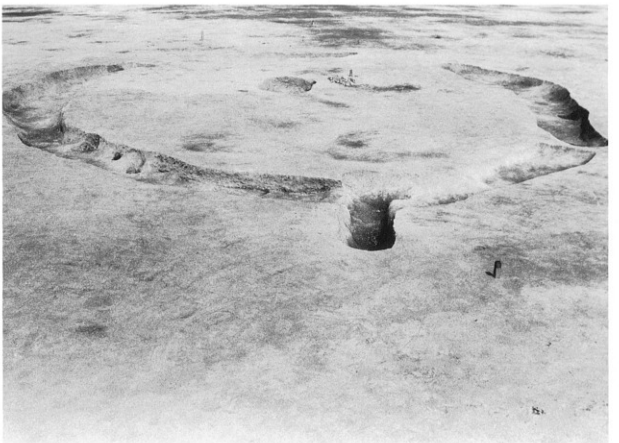
25. B区H－11号住居跡（西から）



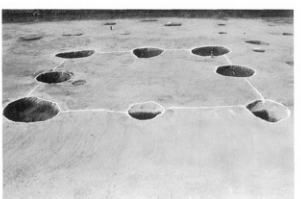
26. B区H－11号住居跡遺物出土状態（東から）

27. B区T－1号竪穴状遺構（西から）

28. A区B－1号堀立柱建物遺構（南東から）



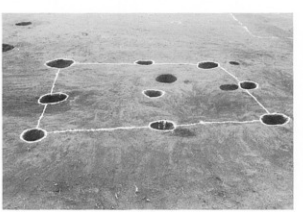
29. B区M－1号古墳（南から）



30. B区B－3号掘立柱建物遺構（南から）

31. B区B－4号掘立柱建物遺構（西から）

32. B区B－5号掘立柱建物遺構（北から）



33. B区B－6号掘立柱建物遺構（北から）

34. B区B－7号掘立柱建物遺構（北から）

35. B区B－8号掘立柱建物遺構（北から）

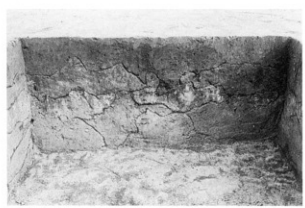
36. B区B－9号掘立柱建物遺構（南から）

37. B区B－10号掘立柱建物遺構（東から）

38. B区B－11号掘立柱建物遺構（東から）

39. B区B－12号掘立柱建物遺構（南から）

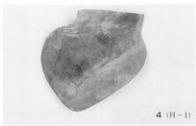
40. B区B－13号掘立柱建物遺構（東から）


41. B区旧石器テストピット（西から）

PL.8

103 (J-5)

5 (H-1)

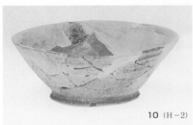

4 (H-1)

3 (H-1)

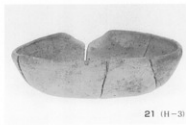
12 (H-2)

8 (H-2)

9 (H-2)

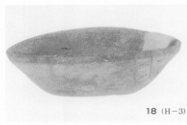

10 (H-2)

11 (H-2)


21 (H-3)

25 (H-3)

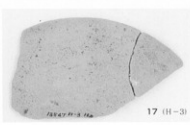
43 (H-3)


18 (H-3)

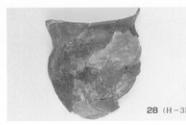
19 (H-3)

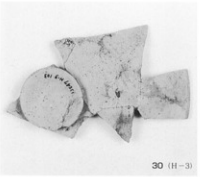
20 (H-3)

33 (H-3)


17 (H-3)

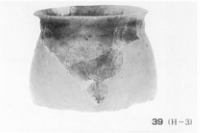
35 (H-3)


28 (H-3)


30 (H-3)

29 (H-3)

38 (H-3)


39 (H-3)

41 (H-3)

40 (H-3)

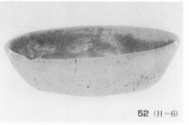
45 (H-3)

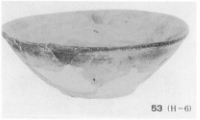
36 (H-3)

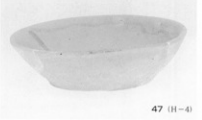
27 (H-3)

48 (H-4)

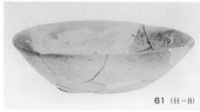
51 (H-4)

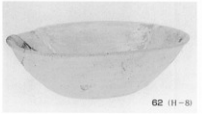

52 (H-6)


53 (H-6)


47 (H-4)

64 (H-8)

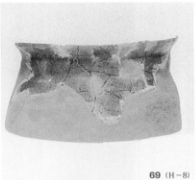

61 (H-8)

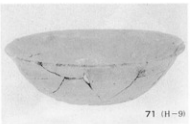

62 (H-8)

66 (H-8)

PL.10

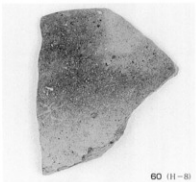
56 (H-7)


69 (H-8)


71 (H-9)

72 (H-9)

59 (H-8)


60 (H-8)

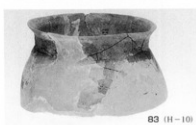
76 (H-10)

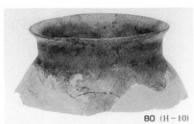
70 (H-9)

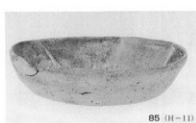
74 (H-10)

82 (H-10)

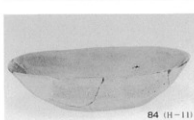
81 (H-10)

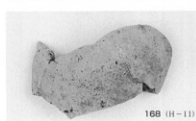

83 (H-10)


80 (H-10)

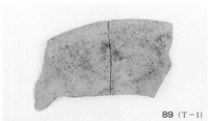

85 (H-11)

79 (H-10)


84 (H-11)


168 (H-11)

77 (H－10)


89 (T－1)

93 (I－3)

1 (H－1)

42 (H－3)

44 (H－3)

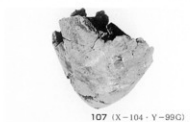
26 (H－3)

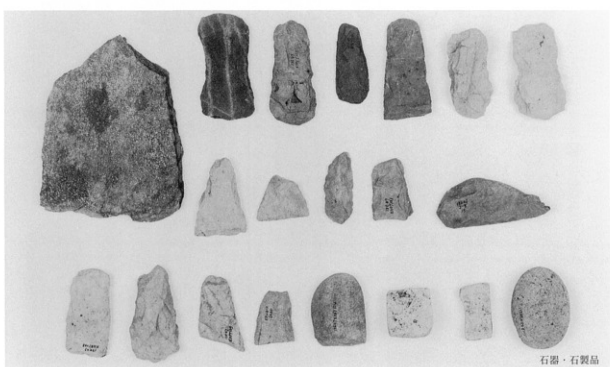
23 (H－3)

24 (H－3)

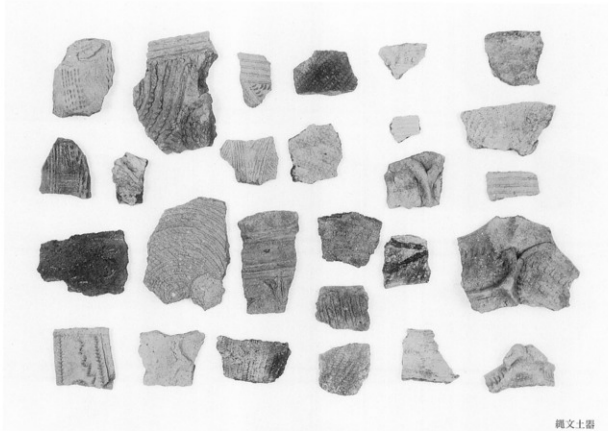
34 (H－3)

58 (H－7)

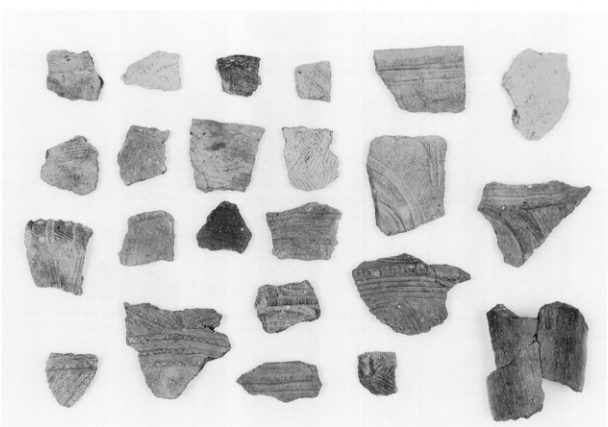

107 (X－104・Y－99G)


石器・石製品

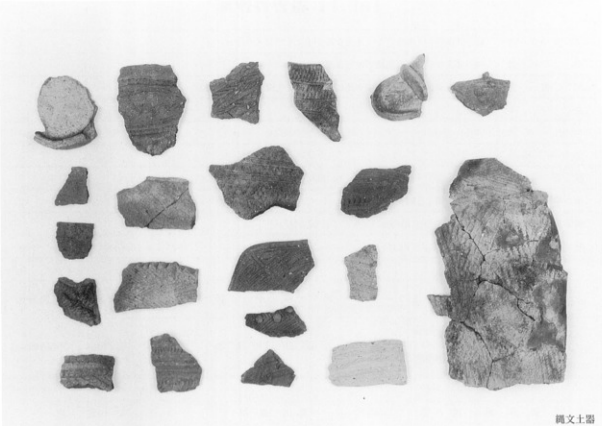
PL.12



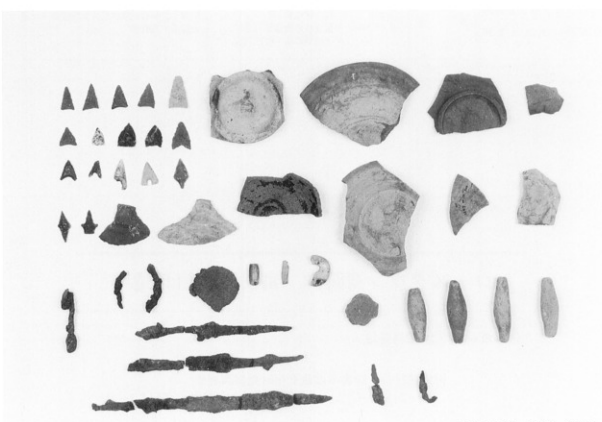
縄文土器



縄文土器



縄文土器



石器・石製品・土製品・鉄製品

Tab.11 報告書抄録

フリガナ	ローズタウンイセキグントミダシモダイニチサンイセキ
書名	ローズタウン遺跡群富田下大日Ⅲ遺跡
副書名	ローズタウン住宅団地造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第2巻
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	平賀 岳志　渡邉 三男　島 武臣
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371－0018　前橋市三俣町二丁目10－2
発行年月日	西暦2002年3月22日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ろーずたうんいせきぐん とみだしもだいにちさんいせき ローズタウン遺跡群 富田下大日Ⅲ遺跡	まえばししとみだまち 前橋市富田町	10201	13E47	36° 23′ 28″	139° 08′ 38″	20010517 ～ 20020322	8,930㎡	住宅団地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
ローズタウン遺跡群 富田下大日Ⅲ遺跡	集落	縄文時代 奈良・平安時代	竪穴住居跡15軒 竪穴状遺構1軒 掘立柱建物遺構12棟 土坑100基・柱穴73基	銭貨・土師器・須恵器・灰釉陶器・石器・石製品・鉄製品

ローズタウン遺跡群　富田下大日Ⅲ遺跡

平成14年3月22日発行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
〒371－0018　前橋市三俣町二丁目10－2
TEL.027－231－9531

印　刷　上毎印刷工業株式会社